

令和 6 年度第 2 回市川市男女共同参画推進審議会

次 第

日 時:令和 7 年 1 月 21 日(火)

午前 10 時～

場 所:男女共同参画センター

6 階研修室 F

1 議題

(1) 市川市男女共同参画に関する市民意識調査報告

(資料 1－1 概要版、 資料1－2 報告書)

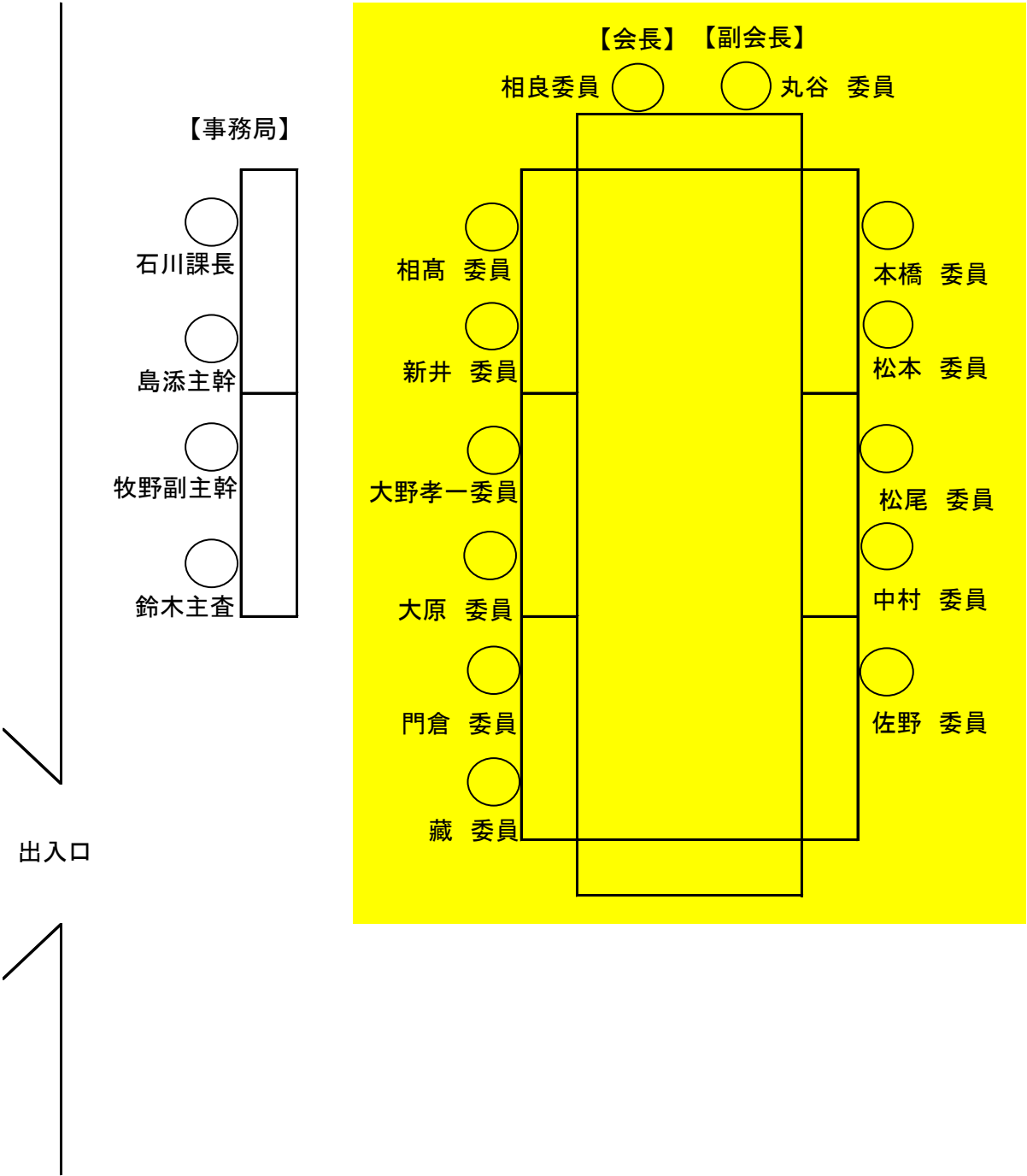
(2)次期市川市男女共同参画基本計画の策定について

(資料2 次期市川市男女共同参画基本計画の策定について)

(3)その他

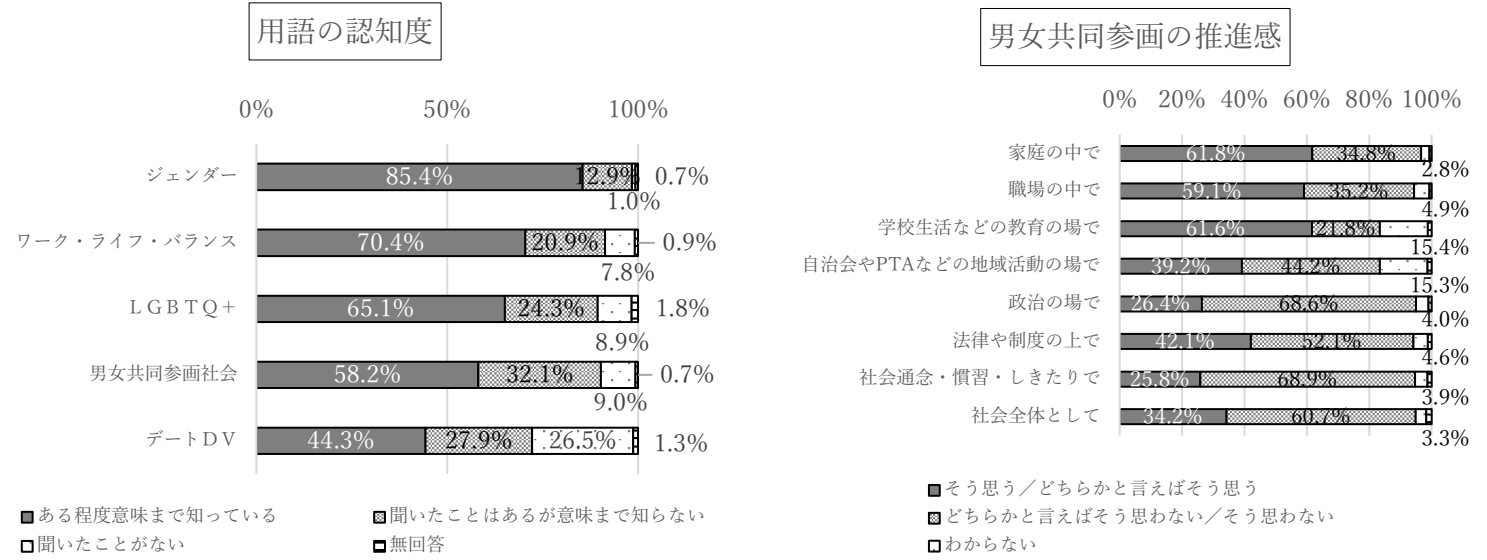
令和6年度 第2回市川市男女共同参画推進審議会 席次表

令和7年1月21日（火）午前10時～
男女共同参画センター 6階 研修室F



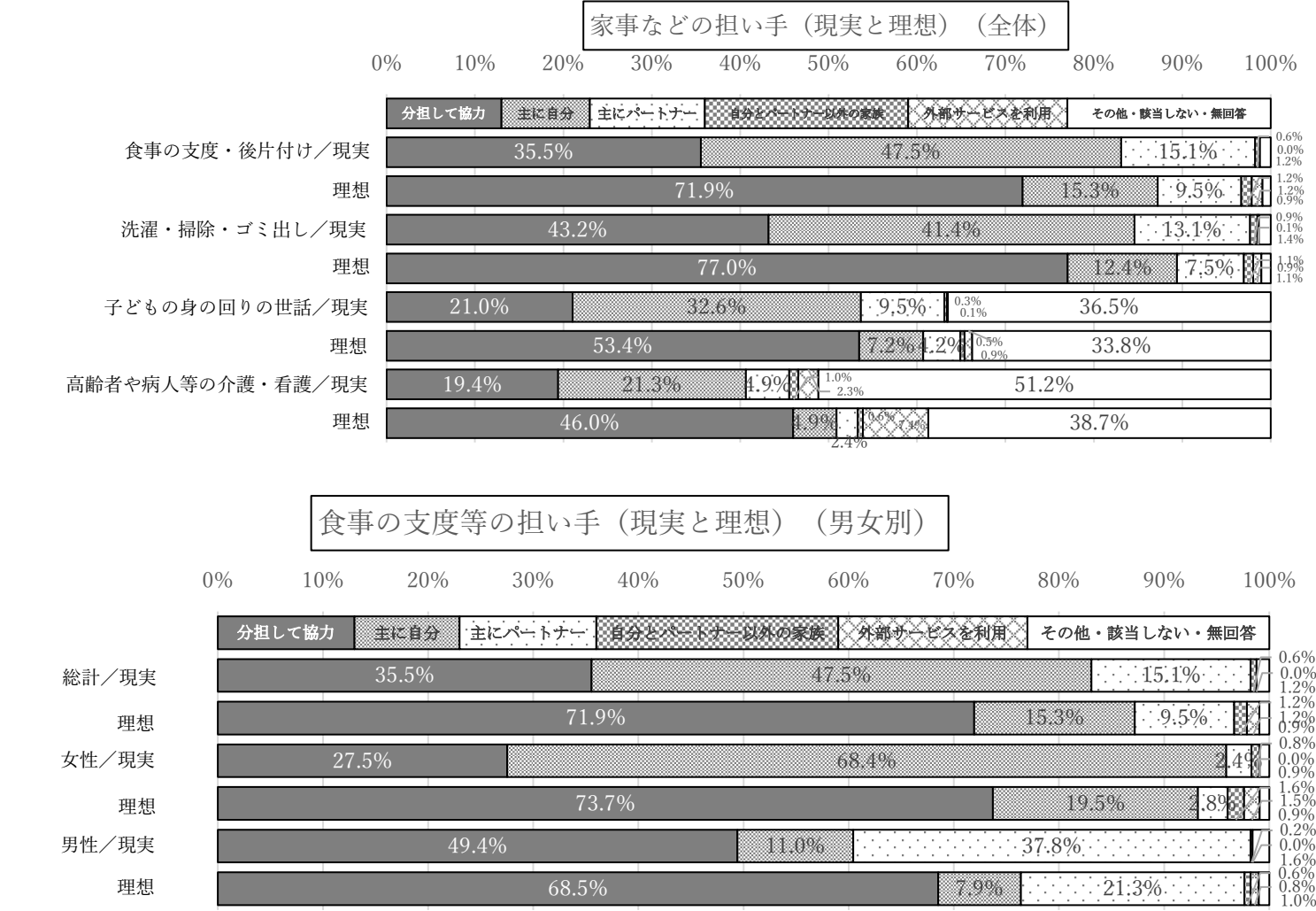
1 男女共同参画（社会）について

用語の認知度、推進感は、項目によってばらつきがある。



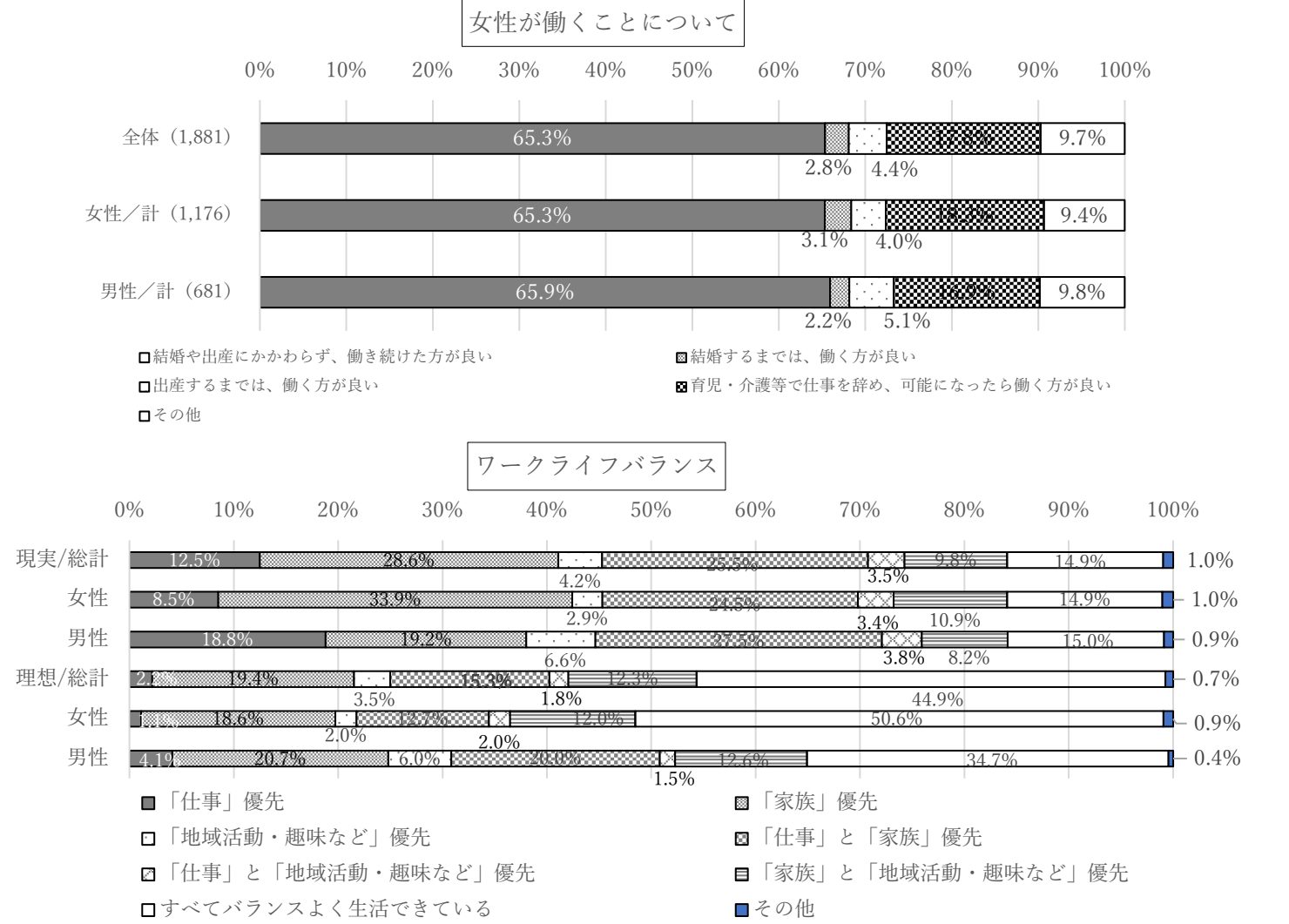
2 生活における男女共同参画について

生活における役割分担は、現実と理想、女性と男性との間に乖離がある。



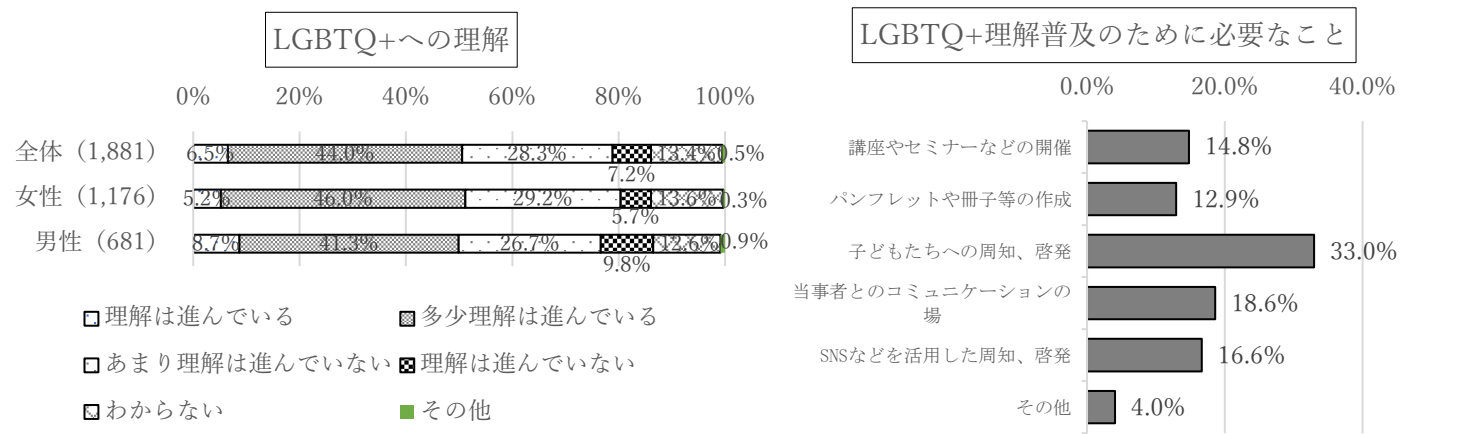
3 働くことにおける男女共同参画について

女性が働き続けることへの理解は高いが、ワークライフバランスの面では「すべてバランスよく」が理想であるものの、現実には女性は「家族」優先、男性は「家族と仕事」優先となっている。



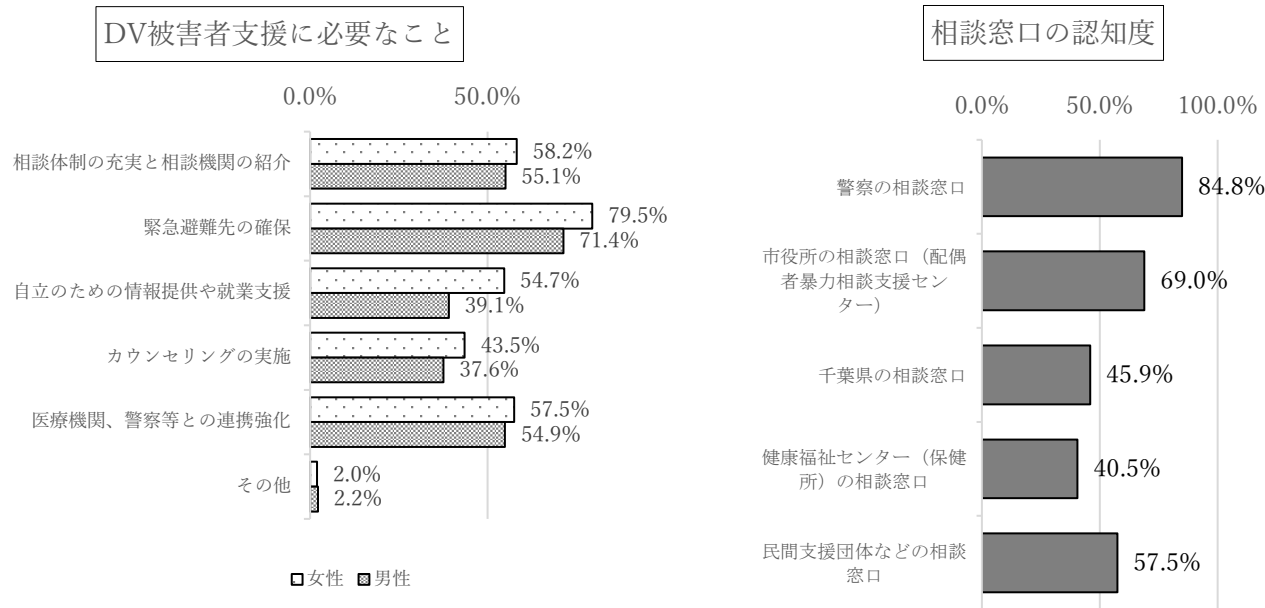
4 LGBTQ+について

「理解は進んでいる」が「進んでいない」より多く、子どもたちへの周知啓発が必要と考える人が多い。



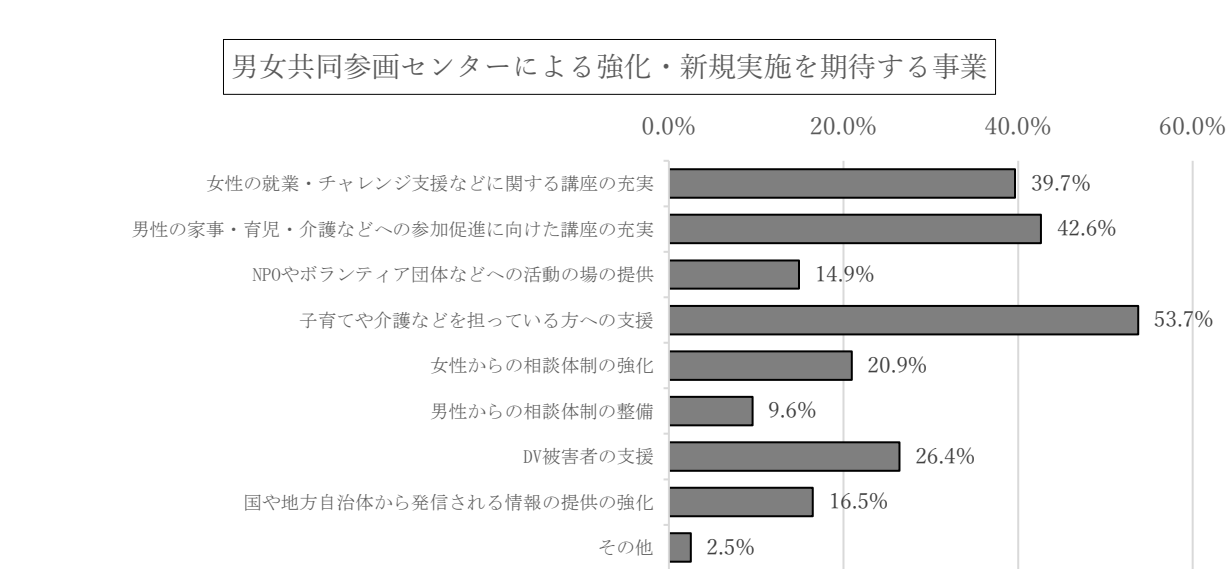
5 DVについて

相談体制の充実と相談機関の紹介、緊急避難先の確保、関係機関、警察等との連携強化が求められているが、相談窓口の認知度にはばらつきがある。



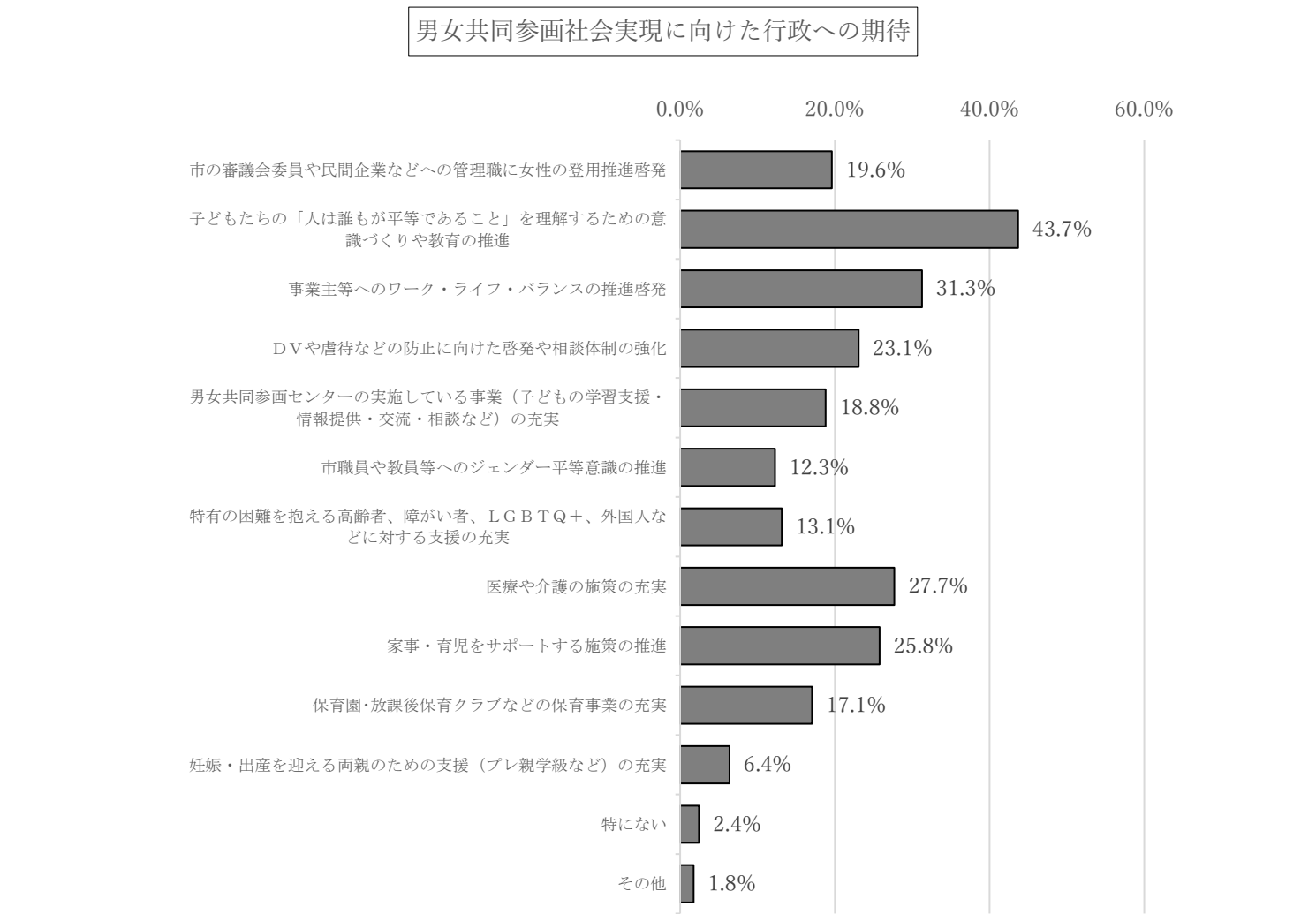
6 市川市男女共同参画センターについて

子育て・介護を担う人への支援と男女共同参画に向けた講座の充実が求められている。



7 市の施策や事業に期待すること

男女共同参画社会を実現するために市が力を入れるべきこととして、子どもたちの意識づくりや教育の推進が求められている。



市 川 市
男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書

令和6年度

市 川 市

調査の概要

1 調査目的

市川市では、男女が互いに人権を尊重し、共に平等に社会参画し、生き生きと安心して暮らしていける市川市を築くことを目指し、平成19年に「市川市男女共同参画社会基本条例」を施行したことに伴い、平成20年に「市川市男女共同参画基本計画」を見直し、男女共同参画社会の実現のためにさまざまな取り組みを進めています。

本調査は、「市川市男女共同参画基本計画」の次期計画策定の基礎資料とするとともに、男女共同参画に関する市民の意識及び生活実態の変化の把握並びに社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し、今後の施策の方向性等のために実施したものです。

2 調査設計

- (1) 調査方法 オンライン申請システム（LoGo フォーム）を利用した調査
- (2) 調査対象 オンライン申請システムのため制限なし（市民向けに周知・募集）
- (3) 調査期間 令和6年7月19日～令和6年8月25日

3 調査内容

- (1) 男女共同参画（社会）について
- (2) 生活における男女共同参画について
- (3) 働くことにおける男女共同参画について
- (4) L G B T Q+について
- (5) DVについて
- (6) 市川市男女共同参画センターについて
- (7) 市の施策や事業に期待すること
- (8) 自由記載

4 回収結果

回収数
1,881
女性：1,176 、男性：681 、その他：1、不明：23

5 調査結果の見方

(1) 調査の数値

- ①調査結果の数値は、原則として回答率（％）で表記しています。
- ②数値は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合で、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100%にならないことがあります。
- ③質問に対する回答の選択肢が複数の場合、回答者数を分母として比率（％）を計算しているため、選択肢の数値を合計すると 100%以上となっています。
- ④男女別の集計では、「Q3 あなたの性別について」で「その他・回答しない」とした人の回答は除いています。
- ⑤性・就業の有無別の集計では、「Q3 あなたの性別について」で「その他・回答しない」とした人の回答を除いています。また、「Q5 あなたの働き方等について」で「正社員・正職員」「自営業、経営者、自由業（社長、商店主、開業医、起業家、フリーランスなど）」「契約、派遣、嘱託の職員」「パート、アルバイト」とした人を「就業者」、「家事専従」「学生」「無職」「その他」とした人を「未就業者」としています。

(2) 図表の見方

- ①グラフや表の中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。
- ②表では、原則として上段は実数、下段は割合（％、小数第一位まで）として表記しています。
- ③図表に「－」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。
- ④「性・年代別」などのような視点で分析する場合は、設問の選択肢を横に並べ、分析する項目を縦に並べた集計表を掲載しています。

例) Q21 LGBTQ+に関する正しい知識や理解普及のために必要だと思うこと

設問の選択肢

		全体	知識の定着を促すための啓発	ハンデット啓発	子どもたちの啓発	労働者の啓発	労働者の啓発	労働者の啓発	労働者の啓発	その他
分析する項目	性年代別	全体	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
		1,881	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%
女性	計	1,881	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%
	20歳未満	1,881	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%
	20歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	30歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	40歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	50歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	60歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	70歳以上	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	計	1,881	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%
	20歳未満	1,881	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%
男性	20歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	30歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	40歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	50歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	60歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	70歳以上	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	計	1,881	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%	400	21.3%
	20歳未満	1,881	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%	200	10.6%
	20歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
	30歳代	1,881	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%	100	5.3%
その他・無回答		1,881	15	0.8%	15	0.8%	15	0.8%	15	0.8%

調査結果の概要

1 男女共同参画（社会）について

（１）用語の認知度

聞いたことのない人は少ないが、意味まで理解している人は用語によるばらつきがある

「ある程度意味まで知っている」、「聞いたことはあるが意味まで知らない」を合わせると、すべての用語が7割を超える認知度となりますが、「意味まで知っている」に限定すると、8割を超える「ジェンダー」に対し、「デートDV」は5割に届かないなど用語によるばらつきが見られます。

（２）男女共同参画の推進感

男女で認識の差がある

すべての場面において「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は男性が女性を上回っています。

場面別では、「家庭」や「職場」、「教育」の場での推進感は高く60%程度あるのに対し、「政治」、「法律や制度」、「社会全体」は低く40%以下にとどまっています。

2 生活における男女共同参画について

（１）家事の分担

理想は男女ともに「分担して協力」だが、現実には「主に自分」と回答する女性が多い

理想では「分担して協力」が約46～77%となっていますが、現実では約19～43%にとどまっており、男女別では現実で「主に自分」と回答する女性が多くなっています。

理想として「主にパートナー」を選択する回答は男性に多く、女性を上回っています。また、育児や介護について現実では「外部サービス利用」は少ないものの、理想では選択が増えています。

「分担して協力」は男女ともに、未就業者よりも就業者の割合が高くなっています。

（２）日常的な役割に費やす時間

男性に比べ女性が役割に費やす時間は長い

全体として、男性に比べ女性の日常生活に費やす時間は長い傾向にあります。

全体では日常的な役割に該当しないと回答した人を除くと、１時間未満とする回答が多くなりましたが、未就業女性では「食事の支度・後片付け」や「日常の買い物」で１時間以上の時間を費やす人が 50%を超える割合となっています。就業女性では未就業女性と比べ１時間未満の割合が高く、差が見られました。

（３）男性の育児や介護の分担が少ない理由

「慣習や風習」、「経済的・仕事上の制約」と考える人が多い

「今までの慣習や風習があるから」が最も多く、「職場の理解が得られない」「経済的な損失が大きい」「仕事の量が多い・責任が重い」という回答が続いています。

慣習や風習、職場の理解を理由と考える女性の割合は男性を上回り、経済的な損失、仕事量・責任を理由と考える男性の割合は女性を上回っています。経済的負担については、性別に関係なく子どものいる人による回答が多くなっています。

（４）子どもたちが「男女平等」を理解するために重要なこと

「親世代の理解」が最も多く、「家庭内での教育」も重視されている

「親世代（保護者等）が人権や男女共同参画等を理解していること」「家庭内で「人は誰もが平等であること」を教育すること」を選択する割合は高く、「地域活動」は低くなっています。

「学校での教育」は、子育て中の世代と考えられる 30～50 代の女性に多く見られる傾向があります。

3 働くことにおける男女共同参画について

(1) 女性の就業のあり方

性別・年代に関係なく「働き続けた方が良い」が圧倒的に多い

「結婚や出産にかかわらず、働き続けた方が良い」という回答が最も多く、男女による差も見られません。「育児・介護等で仕事を辞め、可能になったら働く方が良い」という回答が次に続き、男女ともに一定の割合（15%程度）を占めています。

(2) 女性の離職防止に重要なこと

「柔軟な勤務形態の導入」、「育児・介護休業制度の充実」が約5割

「賃金・昇給・昇進等の男女間の格差是正」「保育園・介護施設などの充実」「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」「男性の家事参加への理解・意識改革」を求める意見も一定数ありますが、「女性自身の意識改革、意欲・能力の向上」や「女性の就労を支援するための相談や支援体制の充実」については低くなっています。

(3) 女性が働く上での性の格差

「賃金」や「昇進」の差と「結婚・出産・介護等のために勤め続けにくい雰囲気」が約半数

格差はないとする人は少なく、大多数の人が何らかの格差を感じています。特に女性の方が多く格差があると回答しています。

「賃金」や「昇進」の差と「結婚・出産・介護等のために勤め続けにくい雰囲気」にはそれぞれ約5割の人が格差があると回答しています。

(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（ワークライフバランス）

理想は男女ともに「すべてバランスよく」だが、現実には女性は「家族」男性は「家族と仕事」優先

現実では全体を通じて「家族優先」「仕事と家族優先」の回答が多くなっていますが、なかでも男性は「仕事」優先、女性は「家族」優先が多くなっています。

「理想」では「現実」では低い割合だった「すべてバランスよく生活できている」が、全体的に大きく上昇しています。

4 L G B T Q+について

(1) L G B T Q+の理解が進んでいるか

理解が進んでいると感じる人が過半数を占める

理解が進んでいると感じる人は過半数を占めましたが、進んでいないとの回答も多く見られました。特に 70 歳以上の男性や一部若年層で認識不足が目立つ一方、性別や年代で理解の程度に差が見られました。

(2) L G B T Q+の理解の普及のために必要なこと

子どもへの周知啓発が最も高い

子どもへの周知啓発が最も支持され、特に 30～40 代女性で関心が高いことが示されています。若年層では SNS の活用、高齢層では講座やセミナーの開催が効果的とされ、性別や年代によるニーズの違いが見られます。

5 DVについて

(1) DVの種類認知度

多様な形態のDVに対しても認識は高い

身体的・精神的・性的・経済的暴力に対する認識は非常に高く、社会的暴力も若干の低さはあるものの高い認識が示されました。

(2) DV相談機関の認知度

DV相談窓口の認知度向上が必要

警察や市役所の相談窓口は比較的認知度が高い一方、県や健康福祉センターの窓口は認知度が低い結果となっています。男女間では認知度に若干の差があります。

(3) DV被害者に対して必要な支援

DV被害者支援における緊急避難先の確保と相談等の支援が重要

「緊急避難先の確保」が性別や年齢を問わず最も重要視されており、相談体制の充実や他機関との連携強化も求められています。

(4) DV防止対策として重要なこと

早期相談体制と教育・規制の強化が重要

DV防止には「早期に相談しやすい体制の充実」が最も重要視され、全世代で高い必要性を認識しています。また、「教育の場でのDVに関する教育」や「法的規制の強化」も過半数の方が必要性を感じています。

6 市川市男女共同参画センターについて

(1) 市川市男女共同参画センターが強化又は新たに実施すべき事業

子育て・介護支援と男女の役割促進が求められている

子育てや介護を担う人への支援が最も重要視されており、家族に係る負担に関する事業が求められています。

7 市の施策や事業に期待すること

(1) 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきこと

子どもたちの意識づくりや教育の推進が求められている

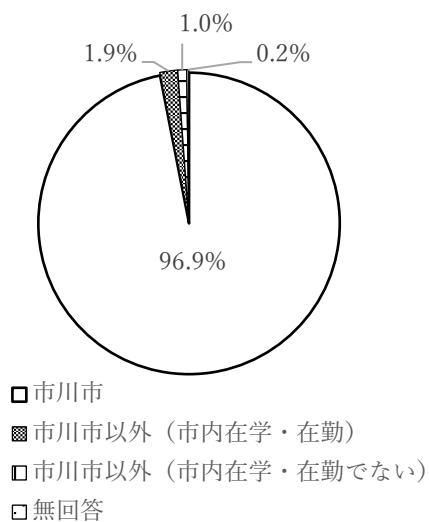
子どもたちの「人は誰もが平等であること」を理解する意識づくりや教育が、最も重視される分野として挙げられています。

男女で重点を置く施策に違いが見られ、特に「医療や介護の施策の充実」は女性、「ワーク・ライフ・バランスの推進啓発」や「DV 防止施策の強化」は男性の支持が高く、年代別では、30～40 代が「家事・育児のサポート施策」を重視しています。

Q2 あなたのお住まいについて

有効回答 1,881 件のうち市川市在住・在学・在勤者は 98.8%（1,859 人）であり、中でも市川市在住者が 96.9%（1,823 人）と最も多くなっています。

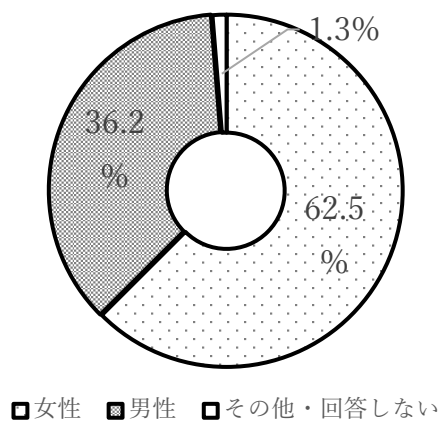
居住地



Q3 あなたの性別について

有効回答 1,881 件のうち、女性が 62.5%（1,176 人）、男性が 36.2%（681 人）となっています。

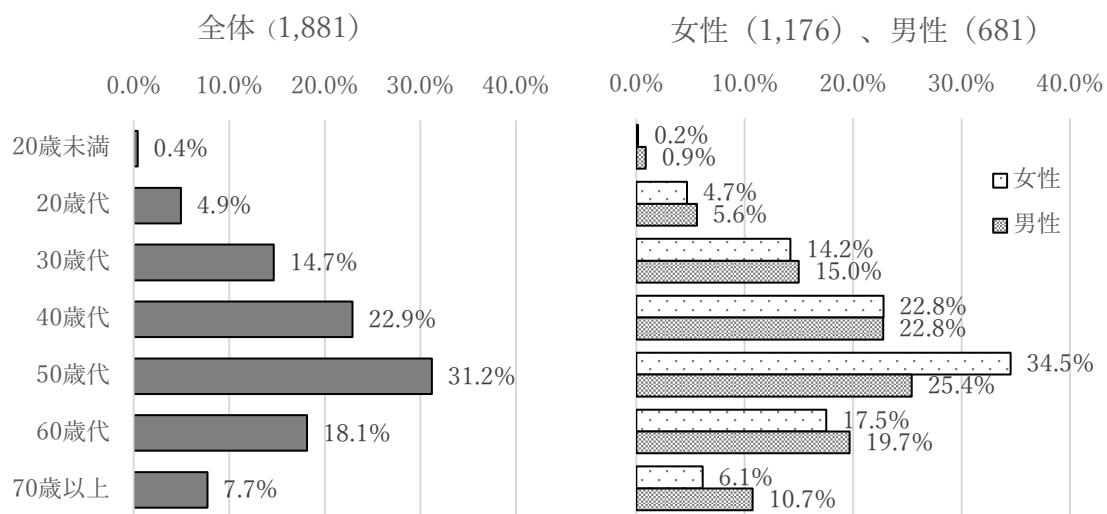
性 別（1,881）



Q4 あなたの年齢について

50 歳代 (31.2%) と 40 歳代 (22.9%) が回答者の過半数を占めており、中高年層からの回答が多い結果となりました。また、60 歳代 (18.1%) と 70 歳以上 (7.7%) の合計が 25.8% あり、高齢者層からの回答も多く含まれています。

男女別では、40 歳代と 50 歳代女性の回答割合が高くなっています。



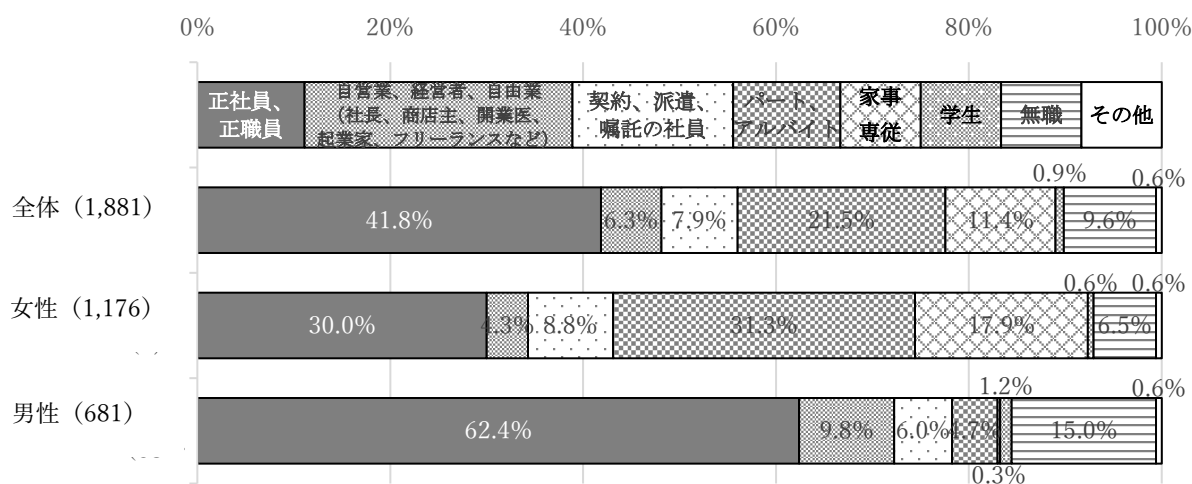
Q5 あなたの働き方等について

回答者の 41.8%が正社員または正職員であり、次にパートまたはアルバイトの 21.5%が続いています。

男女別にみると、男性の 62.4%が正社員または正職員であり、女性（30.0%）を大きく上回っています。

女性の 31.3%がパート・アルバイト、17.9%が家事専従で、男性の 4.7%、0.3%と比べて非常に高い割合となっています。

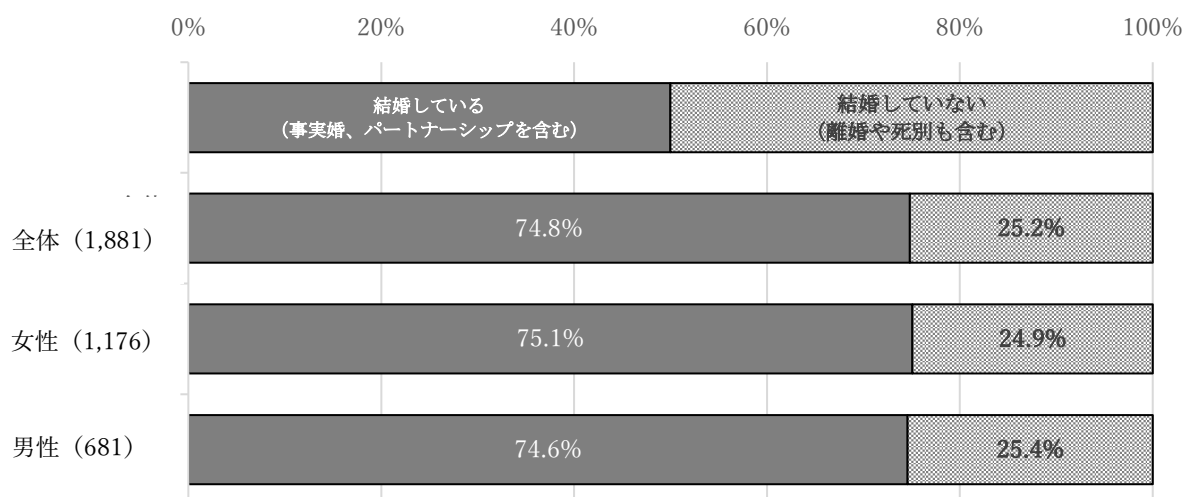
働き方（男女別）



Q6 結婚について

回答者の7割程度が「結婚している（事実婚、パートナーシップを含む）」と答えています。

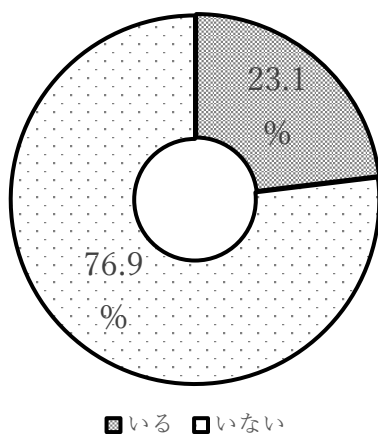
婚姻の有無（男女別）



Q7 中学生以下のお子さんはいらっしゃいますか（同居の子に限ります）。

中学生以下の子どもがいる回答者は約23%でした。

子どもの有無（1,881）



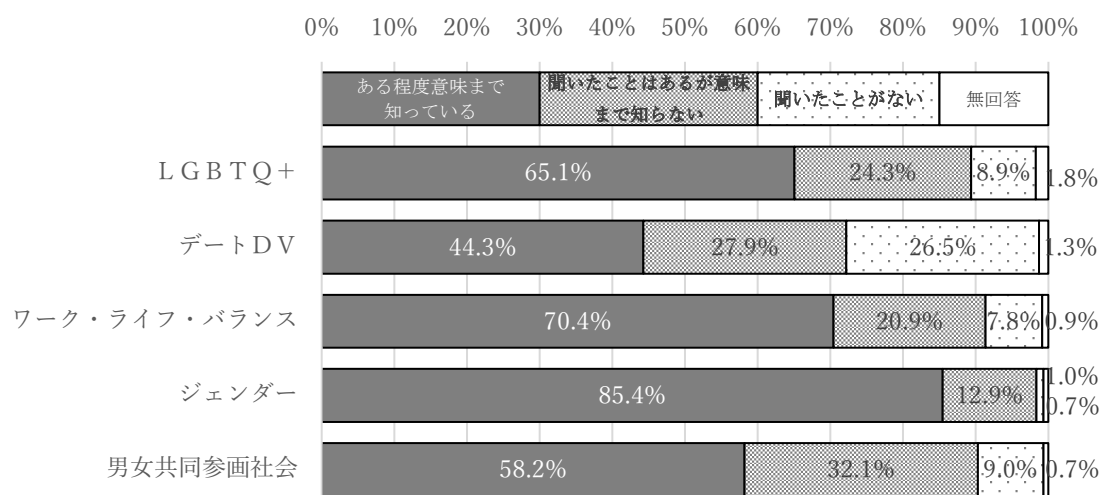
1 男女共同参画（社会）について

Q8 次の言葉を知っていますか。

「ジェンダー」や「ワーク・ライフ・バランス」は、「ある程度意味まで知っている」と回答した割合がそれぞれ85.4%と70.4%で、他の言葉より認知度が高い一方、「デートDV」や「男女共同参画社会」は、「聞いたことはあるが意味まで知らない」という回答が約3割あり、他の言葉より認知度が低くなっています。

用語の認知度には差があることがわかります。

男女共同参画に関わる用語の認知度



男女別に見ると、全般的な認知度は男女間で近い傾向と言えますが、次のような差もみられます。

「男女共同参画社会」では、男性の「ある程度意味まで知っている」が 66.4%で、女性の 53.7%を 10 ポイント以上、上回っています。

「デート DV」について、女性は「ある程度意味まで知っている」が 48.5%であるのに対し、男性は 36.9%にとどまり、さらに男性は「聞いたことがない」と回答した割合が 32.2%と女性（23.5%）を大きく上回っています。

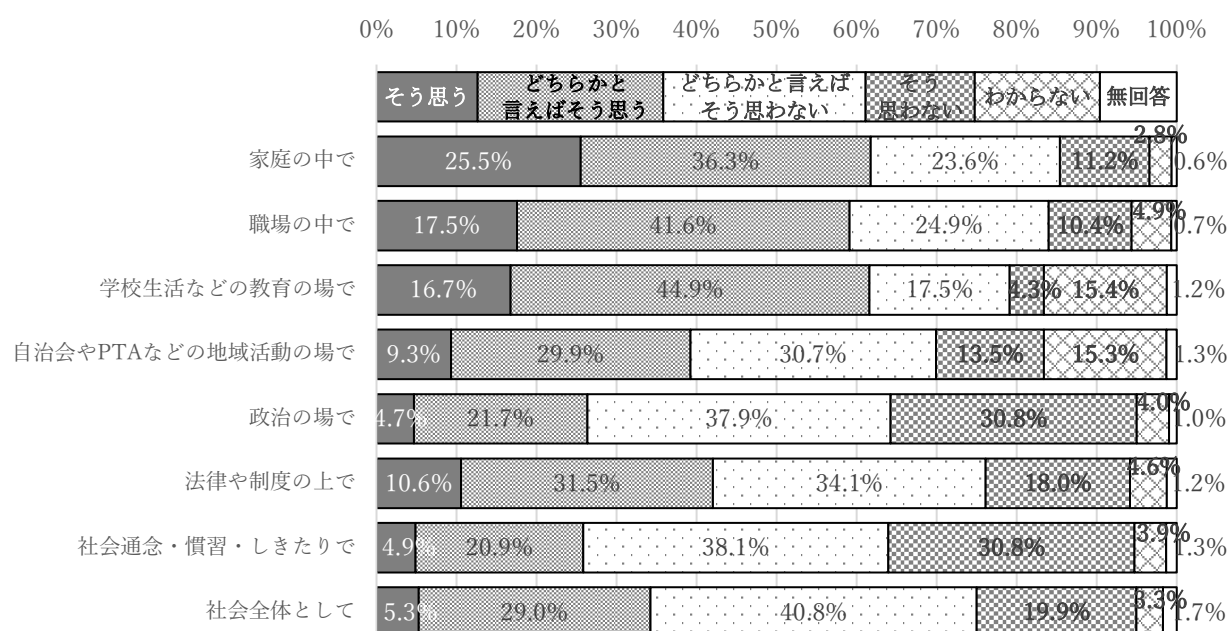
男女共同参画に関わる用語の認知度（男女別）

		全体	ある程度意味まで知っている	聞いたことはあるが意味まで知らない	聞いたことがない	無回答（空白）
(ア) 男女共同参画社会	女性	1,176	631	413	124	8
		100.0%	53.7%	35.1%	10.5%	0.7%
	男性	681	452	183	42	4
		100.0%	66.4%	26.9%	6.2%	0.6%
(イ) ジェンダー	女性	1,176	1,002	154	13	7
		100.0%	85.2%	13.1%	1.1%	0.6%
	男性	681	588	83	4	6
		100.0%	86.3%	12.2%	0.6%	0.9%
(ウ) ワーク・ライフ・バランス	女性	1,176	788	279	97	12
		100.0%	67.0%	23.7%	8.2%	1.0%
	男性	681	520	109	48	4
		100.0%	76.4%	16.0%	7.0%	0.6%
(エ) デートDV	女性	1,176	570	311	276	19
		100.0%	48.5%	26.4%	23.5%	1.6%
	男性	681	251	206	219	5
		100.0%	36.9%	30.2%	32.2%	0.7%
(オ) LGBTQ+	女性	1,176	752	298	105	21
		100.0%	63.9%	25.3%	8.9%	1.8%
	男性	681	458	153	59	11
		100.0%	67.3%	22.5%	8.7%	1.6%

Q9 あなたは、以下の場面で男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画は進んでいると思いますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が多かったのは、家庭や職場、教育の場で60%前後だったのに対し、政治、法律、社会通念では「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」が60%前後となっています。

男女の地位の対等感



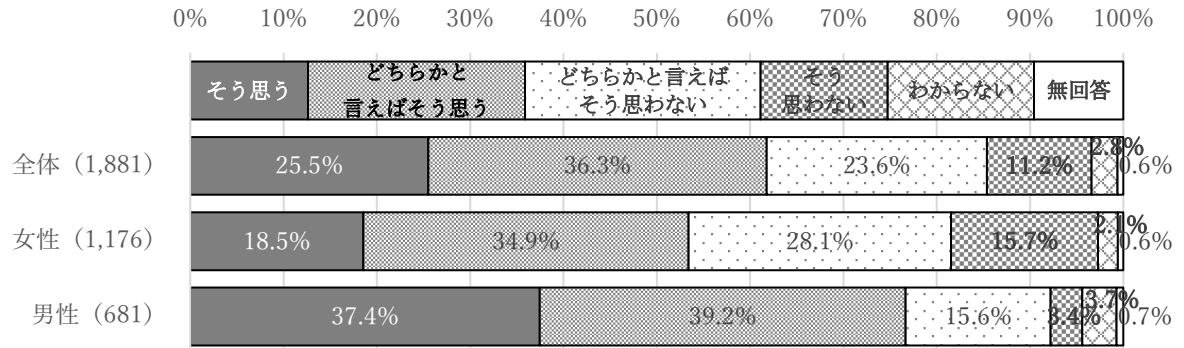
男女別に見ると、すべての分野において「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は男性が女性を上回っています。

男性は家庭（計76.6%）や職場（計72.3%）で男女共同参画が進んでいると感じる割合が高い一方、女性は家庭（計53.4%）や職場（計52.1%）で低く、家庭や職場での認識差が顕著となりました。

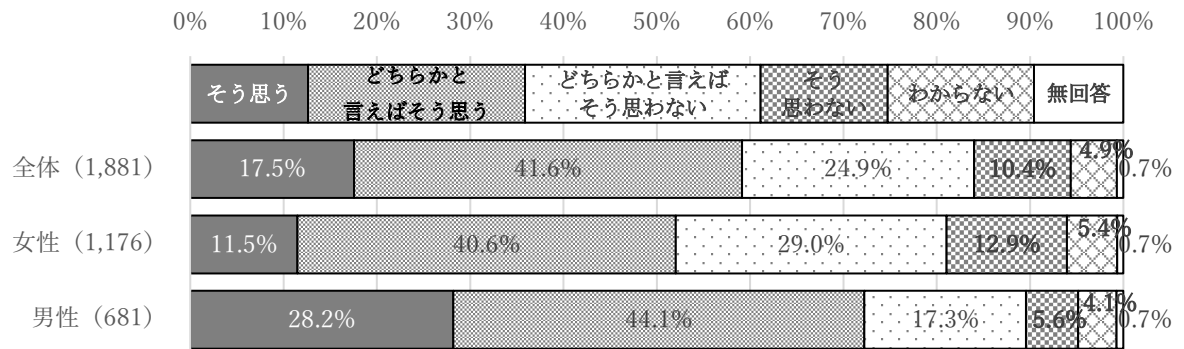
政治の場では、男性（計37.4%）に比べ女性（計20.3%）が否定的で、法律や制度でも男性（計59.7%）が女性（計32.0%）を大きく上回っていることから、政治や法律に対する評価にはギャップがあることがわかります。

女性は社会通念（計76.4%）に対して否定的で、男性（計55.6%）よりも進展の遅れを強く感じています。社会全体の評価でも同様に、女性（計69.6%）の否定的な意見が男性（計45.2%）を大きく上回っており、社会通念や慣習に対し女性は厳しい評価をしています。

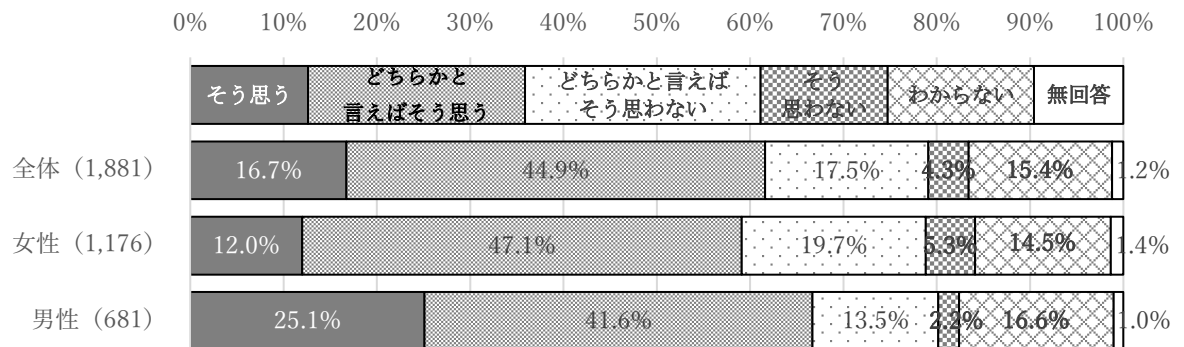
家庭の中で（男女別）



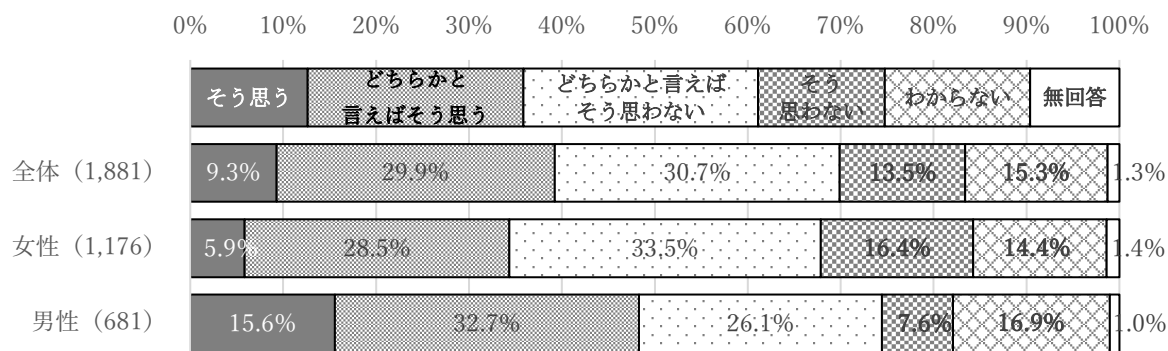
職場の中で（男女別）



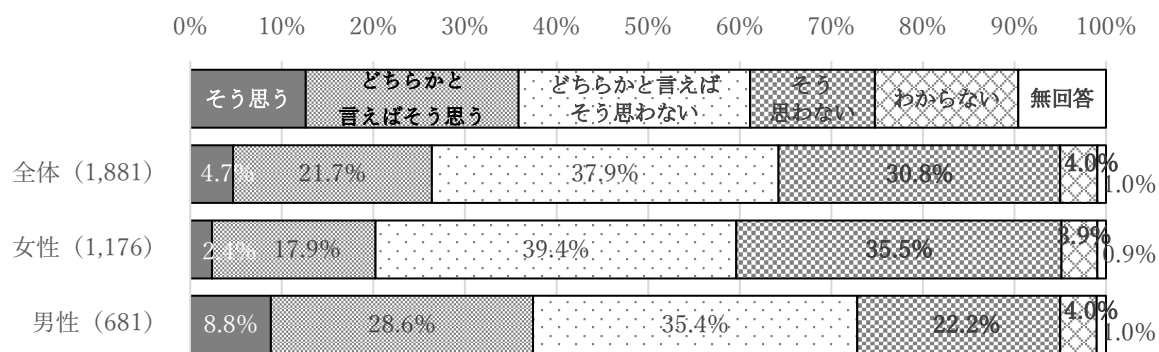
学校生活などの教育の場で（男女別）



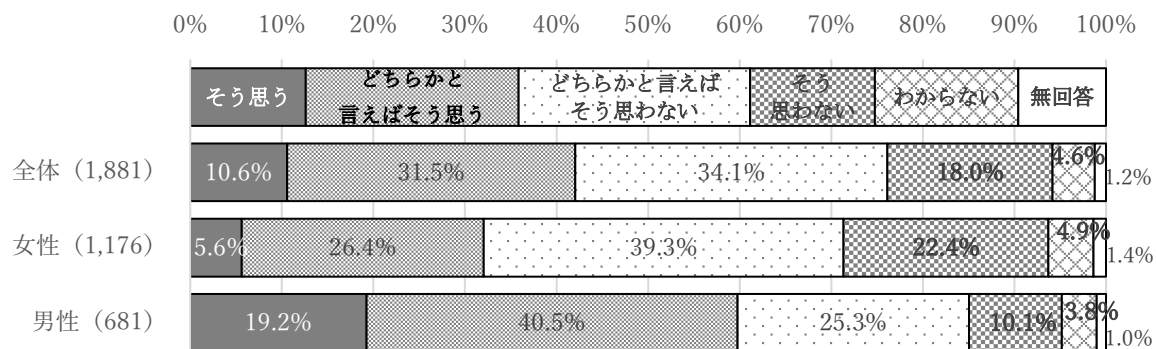
自治会やPTAなどの地域活動の場で（男女別）



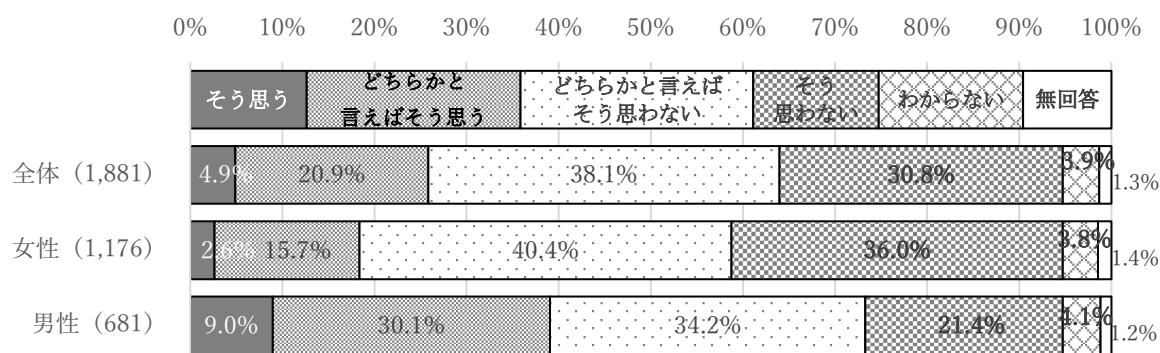
政治の場で（男女別）



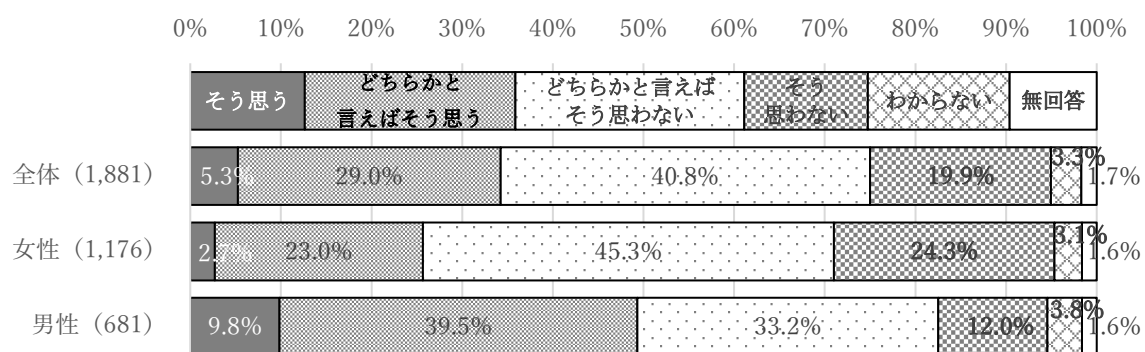
法律や制度の上で（男女別）



社会通念・慣習・しきたりで（男女別）



社会全体として（男女別）



2 生活における男女共同参画について

Q10 現在の家事などの担い手はだれですか。

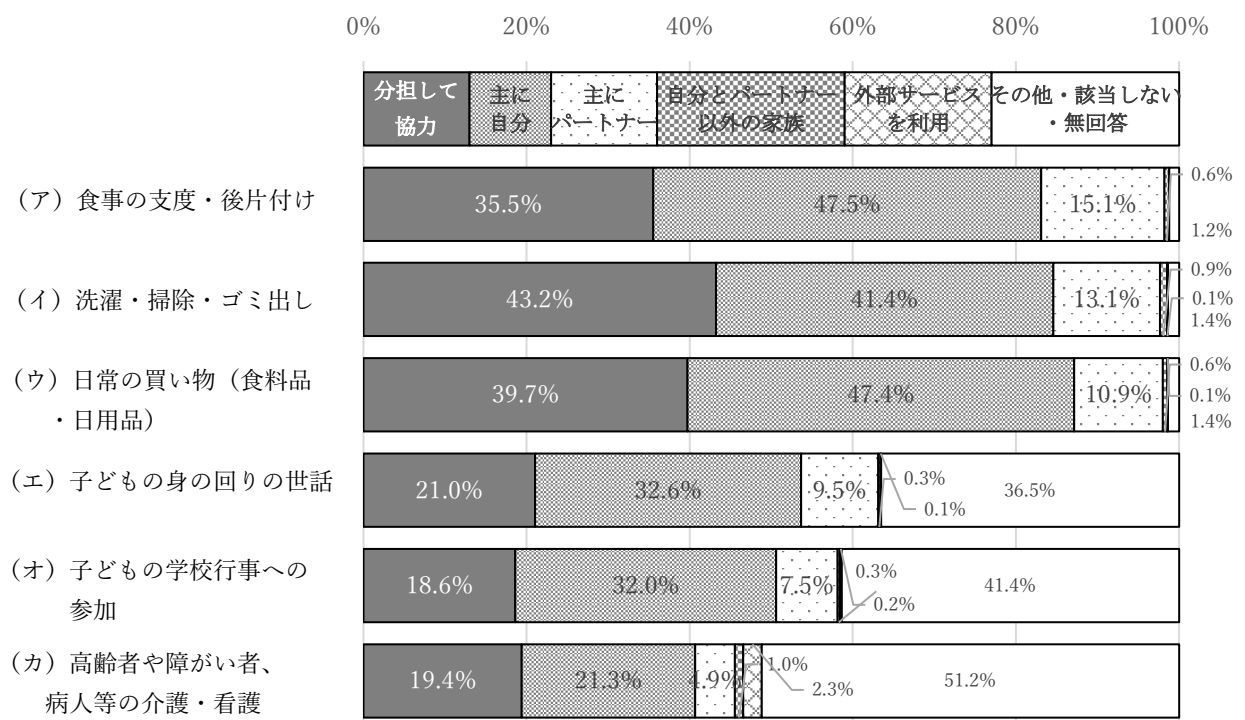
「結婚している（事実婚やパートナーシップ含む）」を選択した人に対して、生活における役割分担を聞いたところ、「食事」や「洗濯・掃除・ゴミ出し」、「買い物」は、「主に自分」と「分担して協力」が多くなりました。

「子どもの世話」、「子どもの学校行事への参加」、「高齢者や障がい者、病人等の介護・看護」は「その他・該当しない・無回答」が約 30～50%となっていますが、該当ありの場合では、他と同様「主に自分」と「分担して協力」が多く、「子どもの世話」、「子どもの学校行事への参加」については、「主に自分」が「分担して協力」を大きく上回っています。

外部サービスの利用は「高齢者や障がい者、病人等の介護・看護」が一番高いですが、2.3%にとどまっています。

子どもの身の回りの世話、学校行事への参加、高齢者の介護では男女ともに「その他・該当しない・無回答」が3割以上を占めており、該当者の少ないことが示唆されます。

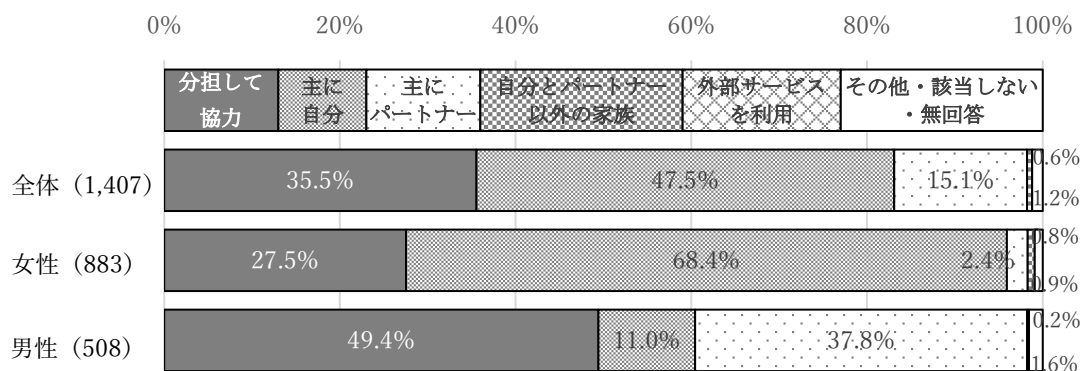
家事などの担い手（現実）（全体）（1,407）



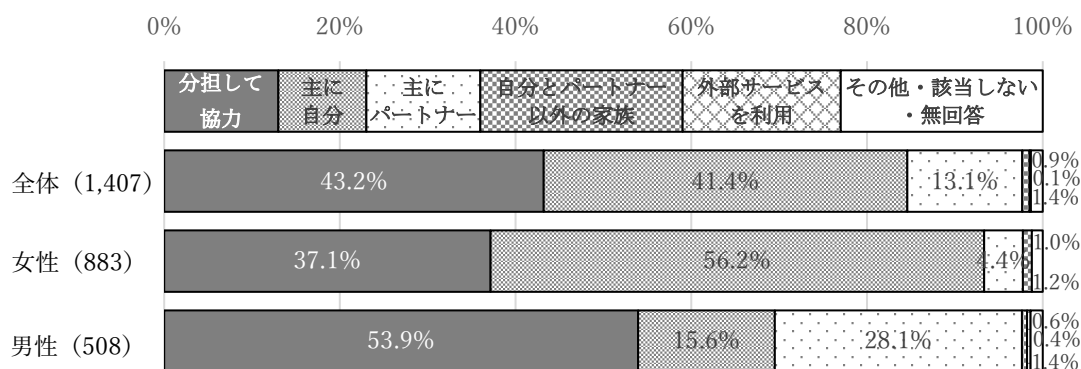
男女別で見ると、食事の支度・後片付け、洗濯・掃除・ゴミ出し、日常の買い物において、女性の「主に自分」の割合は55%以上と高く、男性の「主に自分」（約15%程度）を大きく上回る傾向があります。

男性の「分担して協力」の割合は全体的に約50%で、女性よりも高くなっています。特に、洗濯・掃除・ゴミ出しや日常の買い物で顕著であり、家庭内での協力が進んでいるとも言えますが、女性は「主に自分」が多く「分担して協力」が少ないことから男女間で認識のズレがあるとも考えられます。

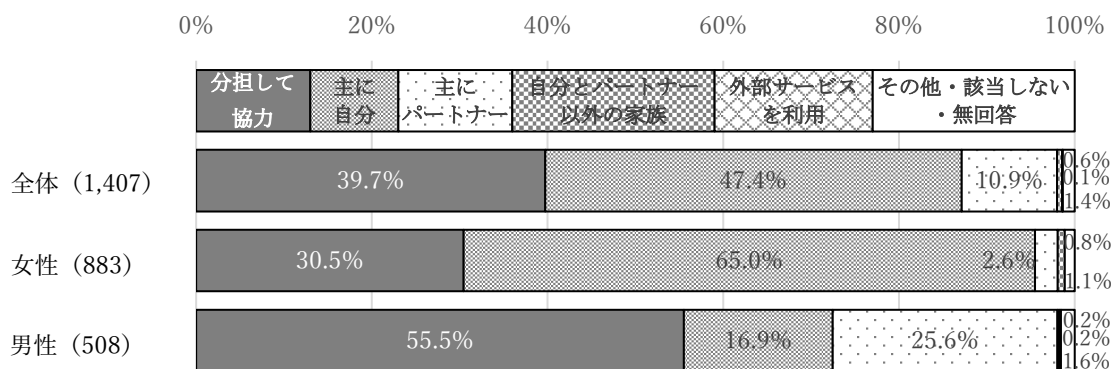
（ア）食事の支度・後片付け（現実）（男女別）



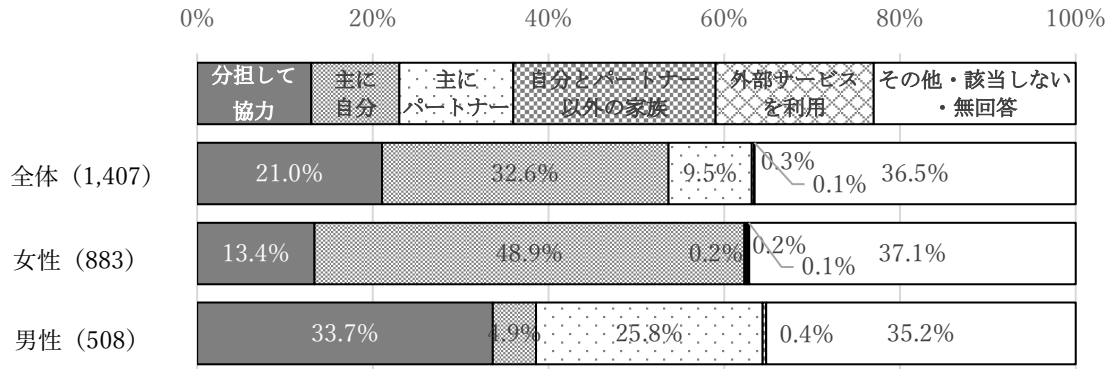
（イ）洗濯・掃除・ゴミ出し（現実）（男女別）



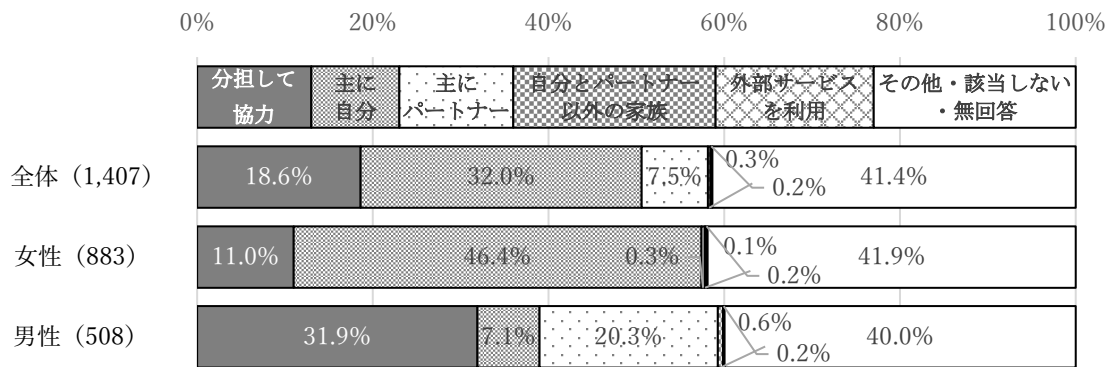
（ウ）日常の買い物（食料品・日用品）（現実）（男女別）



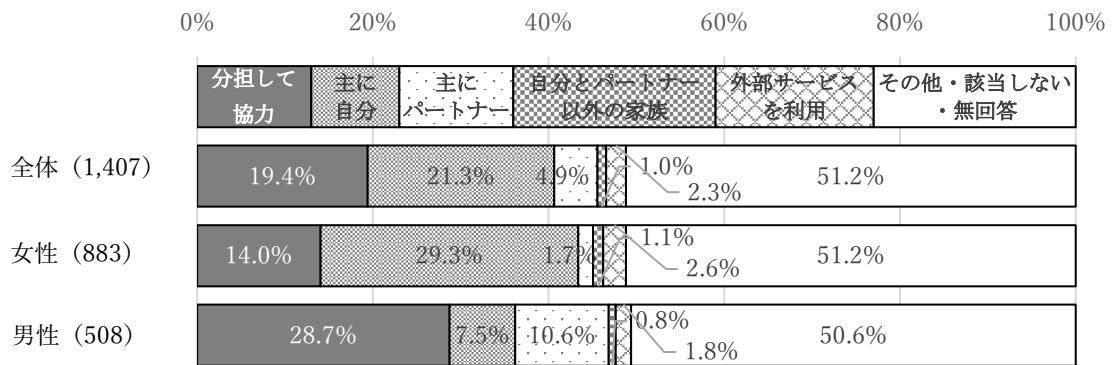
(エ) 子どもの身の回りの世話（現実）（男女別）



(オ) 子どもの学校行事への参加（現実）（男女別）



(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護（現実）
（男女別）

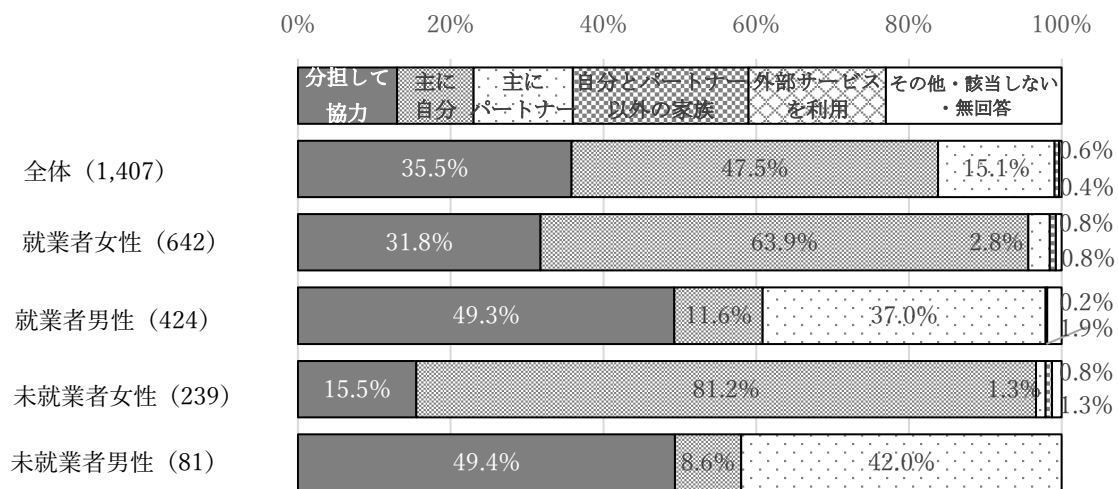


性・就業の有無別で見ると、「食事の支度・後片付け」や「洗濯・掃除・ゴミ出し」などでは、女性が「主に自分」と回答する割合が高くなっており、特に未就業者で顕著です。一方で男性は「分担して協力」または「主にパートナー」と回答する割合が高く、男女間の回答の違いが顕著です。

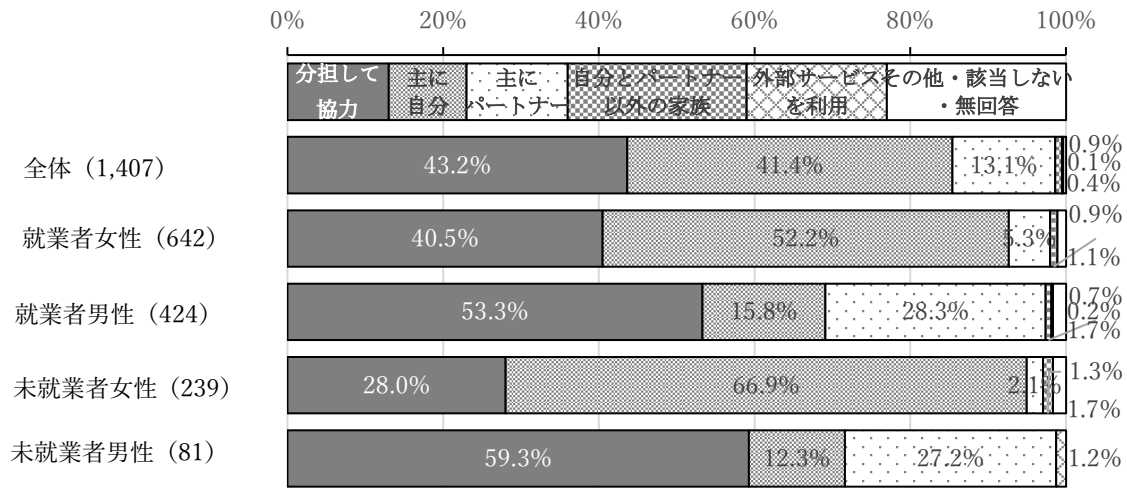
就業者の女性は「主に自分」と回答する割合が未就業者より低くなっており、就業状況が家事分担に影響していることがわかります(例:「洗濯・掃除・ゴミ出し」では就業者 52.2%、未就業者 66.9%)。男性は就業状況に関係なく「分担して協力」が一定の割合を占めています。

育児(例:「子どもの身の回りの世話」)や介護(例:「高齢者の介護・看護」)において、男性の「主に自分」と回答する割合は女性より著しく低くなっています(例:育児で就業男性 5.2%、女性 47.4%)。特に男性は「分担して協力」または「主にパートナー」と回答する割合が高く、男性の育児や介護への直接的な関与は限定的であることが示されており、育児・介護における男女の関与の差が顕著です。

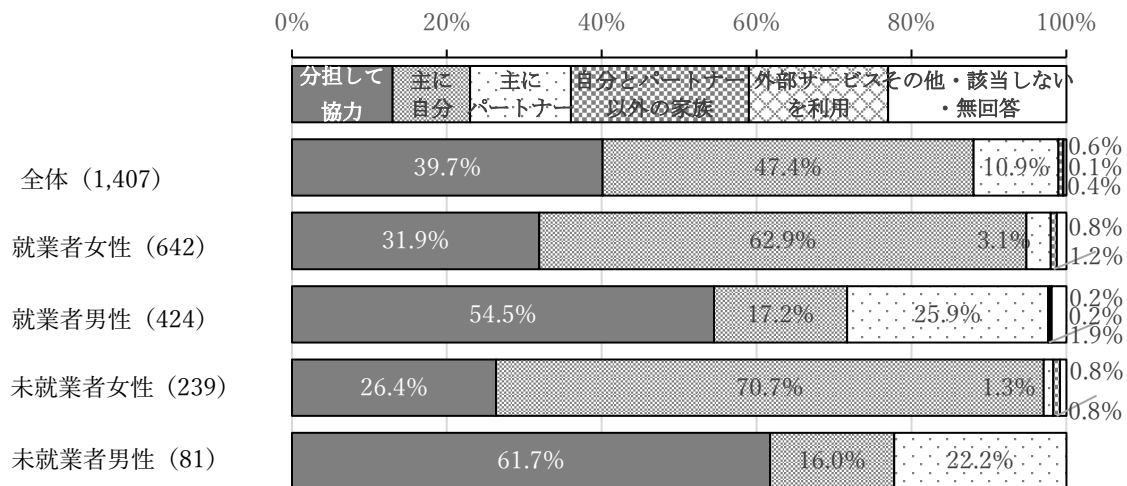
(ア) 食事の支度・後片付け(現実) (性・就業の有無別)



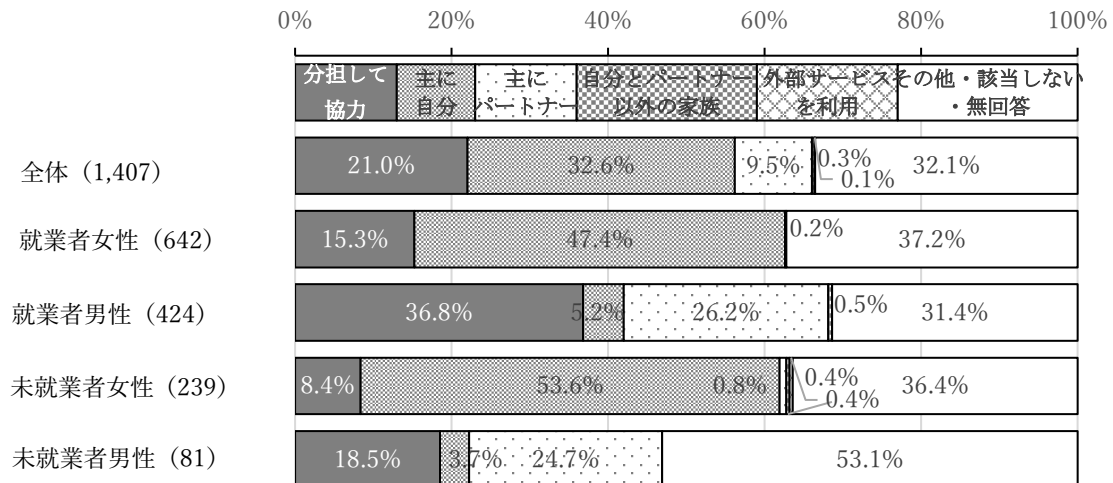
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し（現実）（性・就業の有無別）



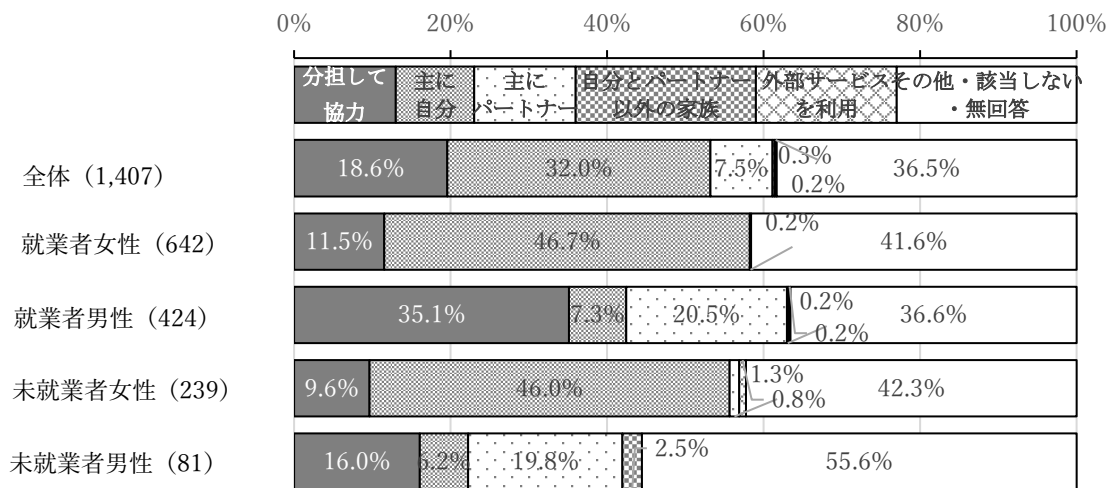
(ウ) 日常の買い物（食料品・日用品）（現実）（性・就業の有無別）



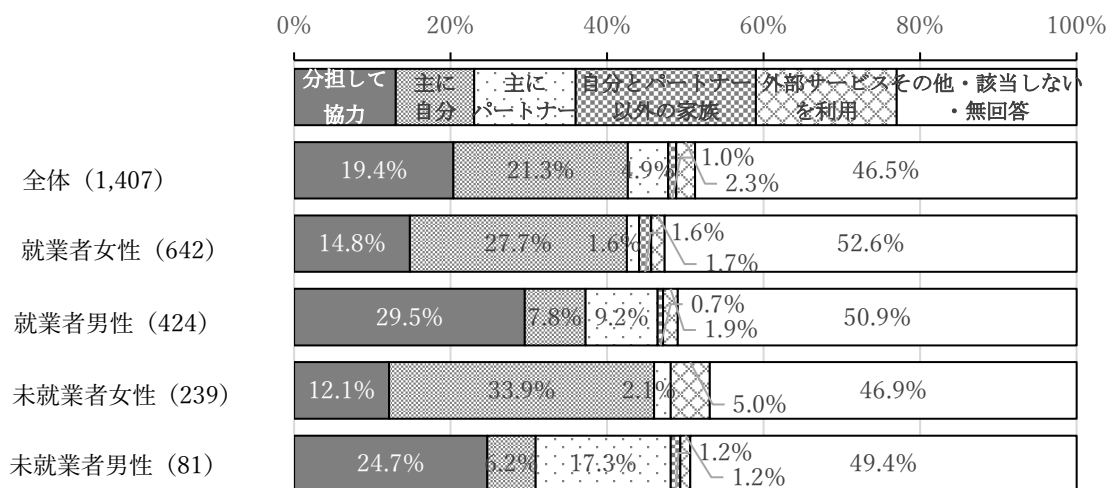
(エ) 子どもの身の回りの世話（現実）（性・就業の有無別）



オ) 子どもの学校行事への参加（現実）（性・就業の有無別）



(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護（現実）（性・就業の有無別）

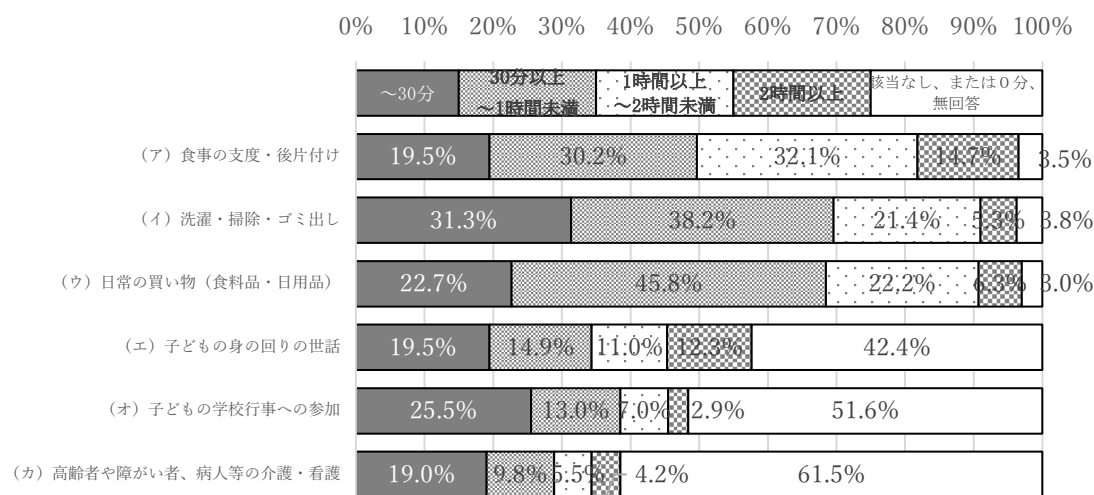


Q11 あなたは、次の（ア）～（カ）の日常的な役割について1週間のうち1日平均どのくらいの時間を費やしていますか。

「結婚している（事実婚やパートナーシップを含む）」を選択した人に対して、家事等の役割に費やす1日あたりの平均時間を聞いたところ、該当なし等の人を除くと、1時間未満とする回答が多くなりました。

食事の支度や後片付けに費やす時間は1時間以上の回答も多く、2時間以上という回答も約15%ありました。

日常的な役割に費やす時間（全体）（1407）

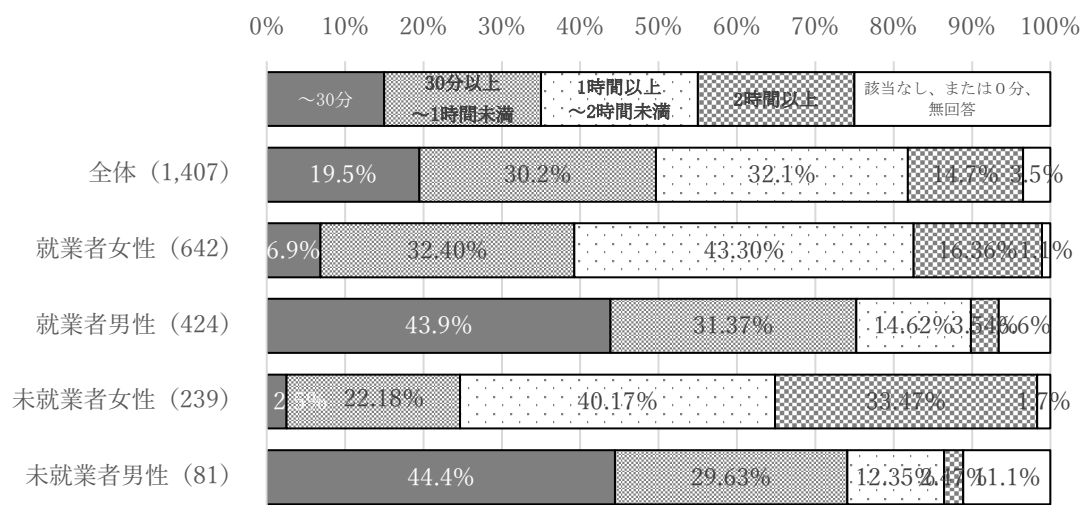


性・就業の有無別で見ると、全体として、女性に比べ男性の日常的な役割に費やす時間は短い傾向にあります。

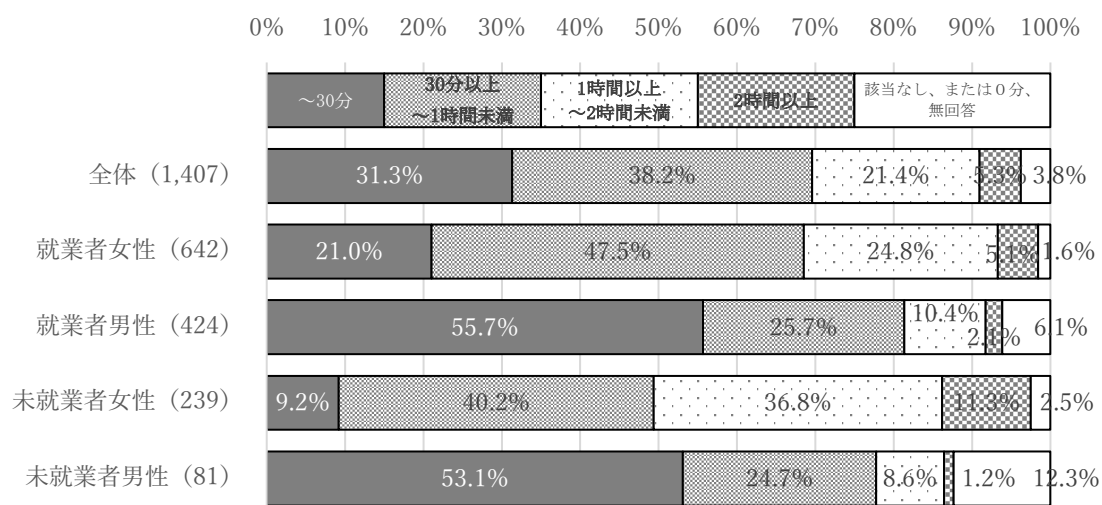
未就業女性では特に「食事の支度・後片付け」や「日常の買い物」で1時間以上の時間を費やしており、50%を超える割合となっています。一方、就業女性では未就業女性に比べ1時間未満の割合が高く、就業の状況が日常的な役割にかかる時間に影響を与えている可能性があります。

また、男性は就労の有無による差は認められず、就労の有無が大きく影響しないと考えられる役割が多くなっています。

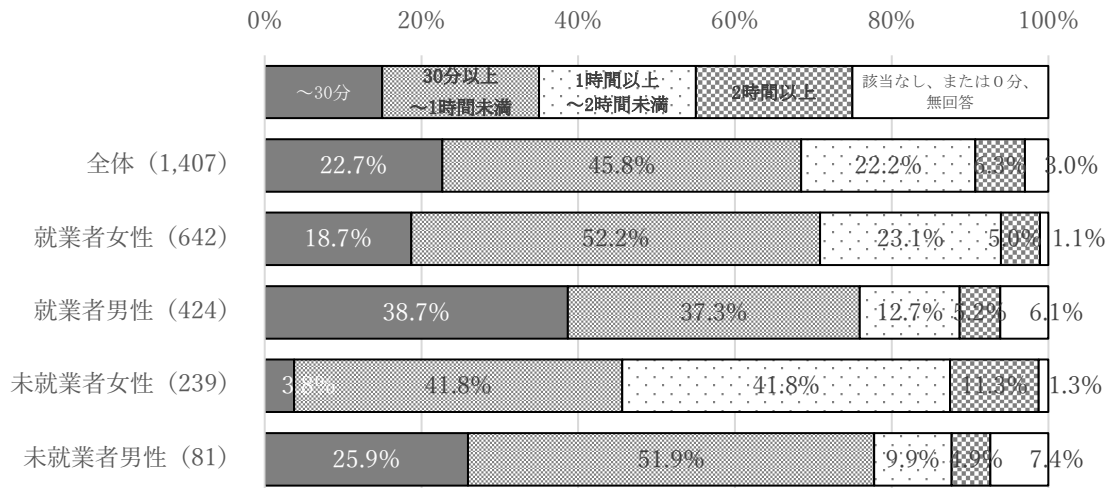
(ア) 食事の支度・後片付け (性・就業の有無別)



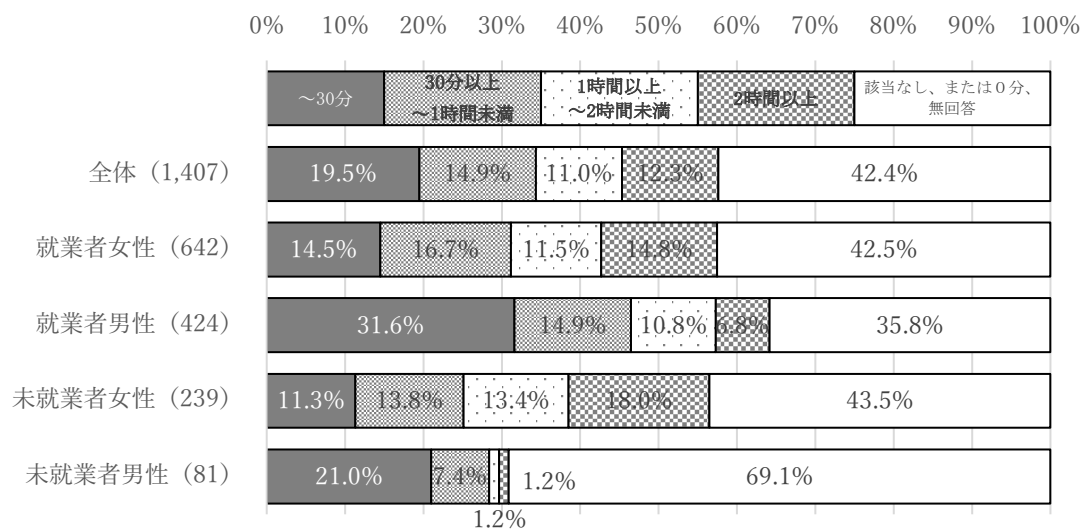
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し (性・就業の有無別)



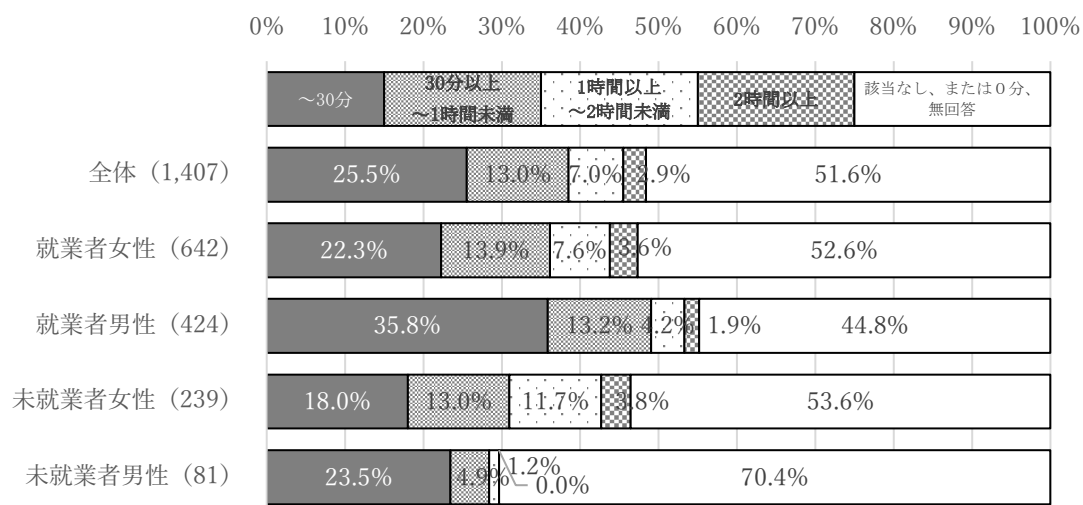
(ウ) 日常の買い物（食料品・日用品）（性・就業の有無別）



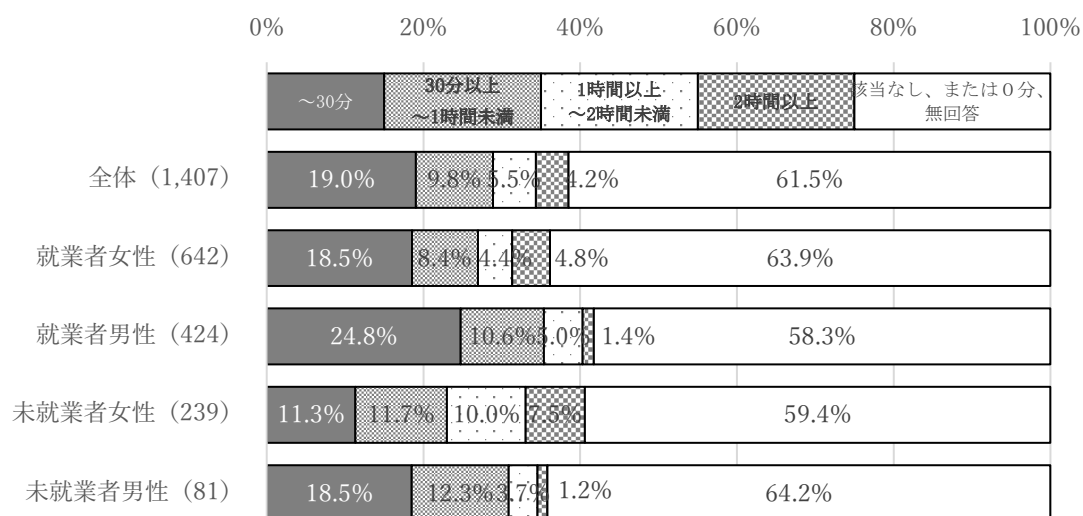
(エ) 子どもの身の回りの世話（性・就業の有無別）



(オ) 子どもの学校行事への参加 (性・就業の有無別)

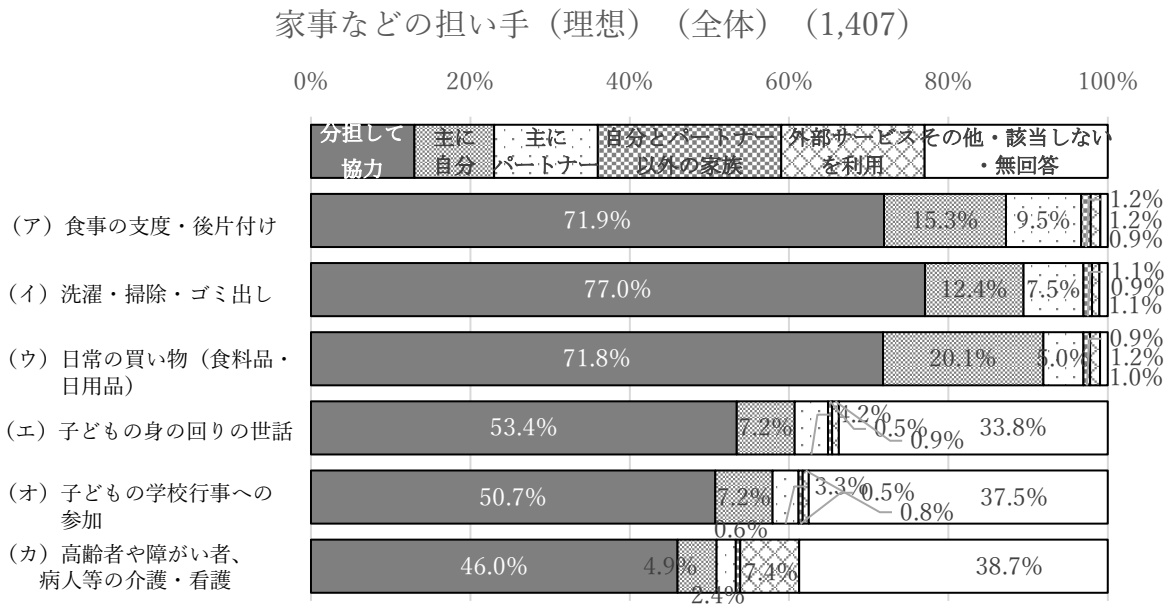


(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護 (性・就業の有無別)



Q12 家事などは、だれに担ってほしいですか（理想の担い手）。

「結婚している（事実婚やパートナーシップを含む）」を選択した人に対して、生活における理想の役割分担を聞いたところ、すべての項目において「分担して協力」が最も多くなりました。

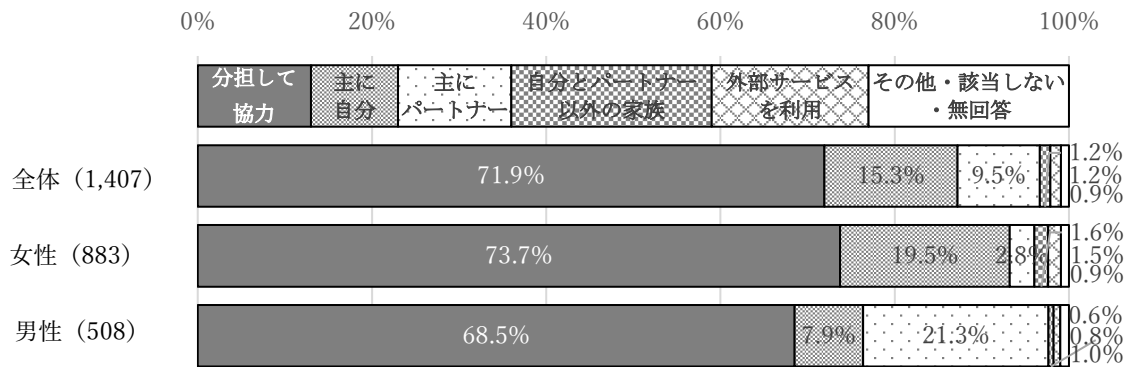


男女別で見ると、全項目で「分担して協力」が約 45%以上を占め、特に「洗濯・掃除・ゴミ出し」では男女ともに約 75%以上と高くなっています。家庭内での平等な役割分担を理想とする傾向が強いと言えます。

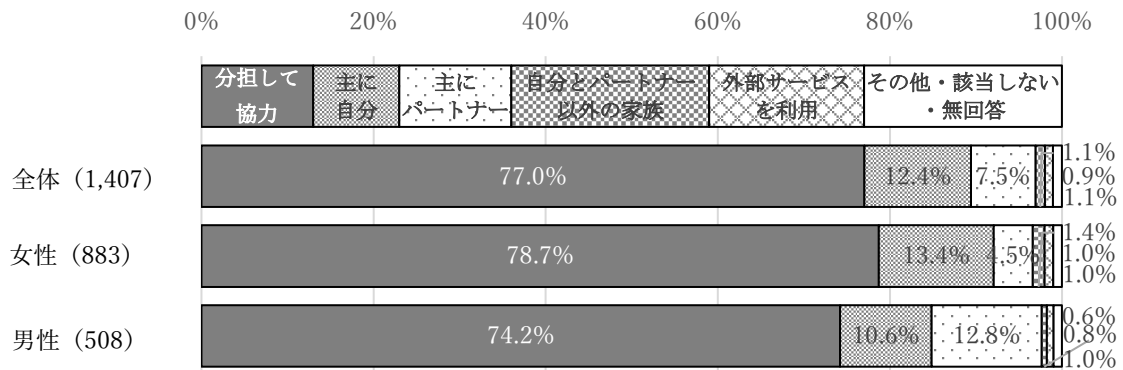
男性は「主にパートナー」を理想とする割合が女性より高く、特に「食事の支度・後片付け」で 21.3%と、女性の 2.8%を大きく上回っています。

「高齢者や障がい者、病人等の介護・看護」で外部サービスを希望する割合は女性 9.2%、男性 4.5%と他の項目に比べて高くなっています。

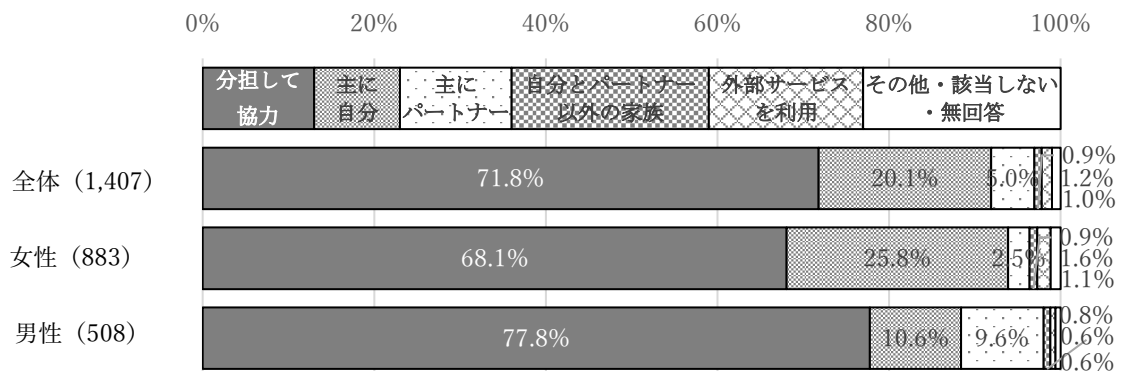
(ア) 食事の支度・後片付け (理想) (男女別)



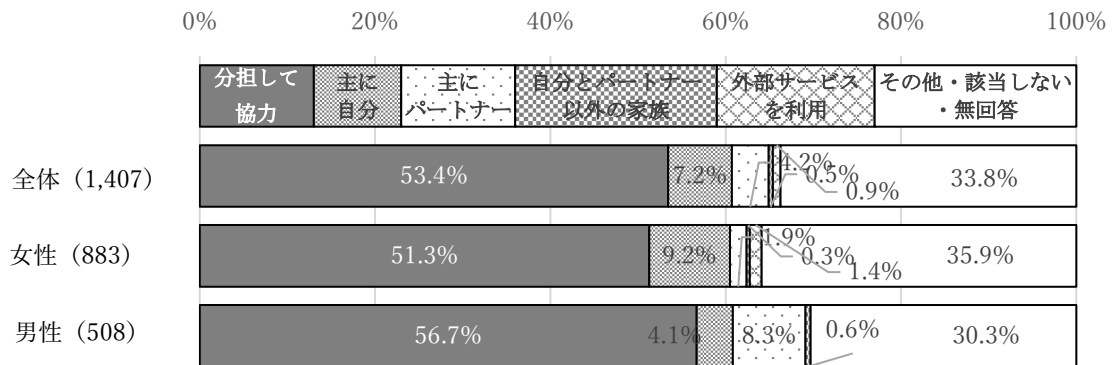
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し (理想) (男女別)



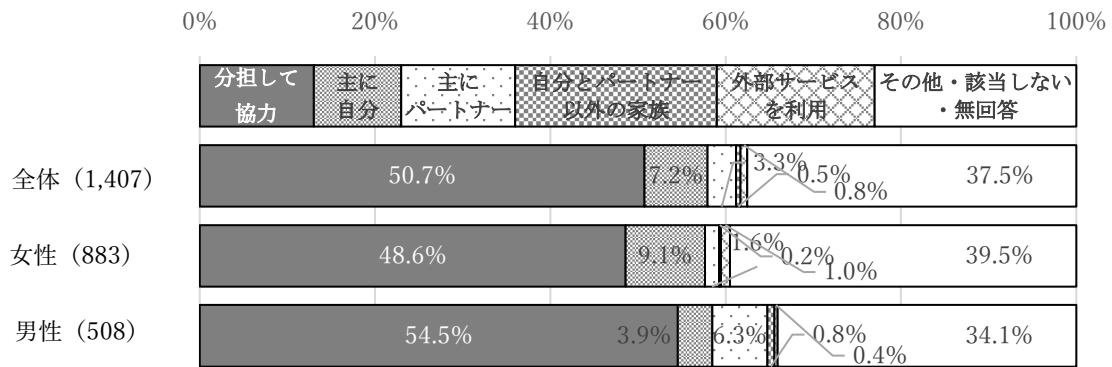
(ウ) 日常の買い物 (食料品・日用品) (理想) (男女別)



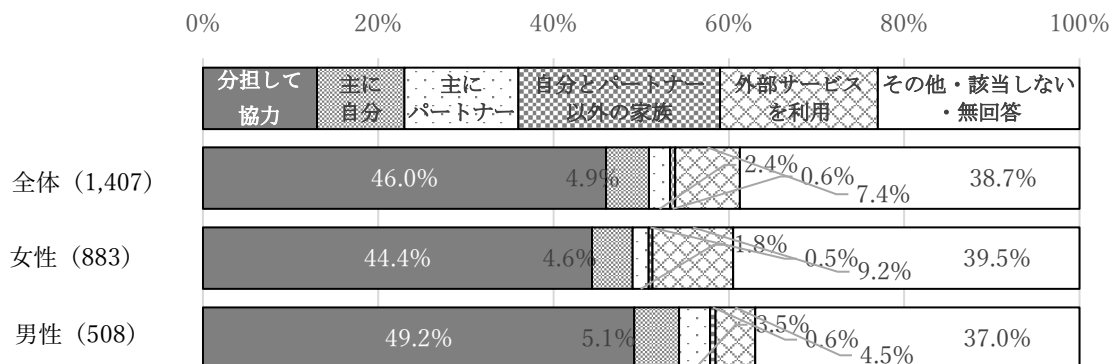
(エ) 子どもの身の回りの世話（理想）（男女別）



(オ) 子どもの学校行事への参加（理想）（男女別）

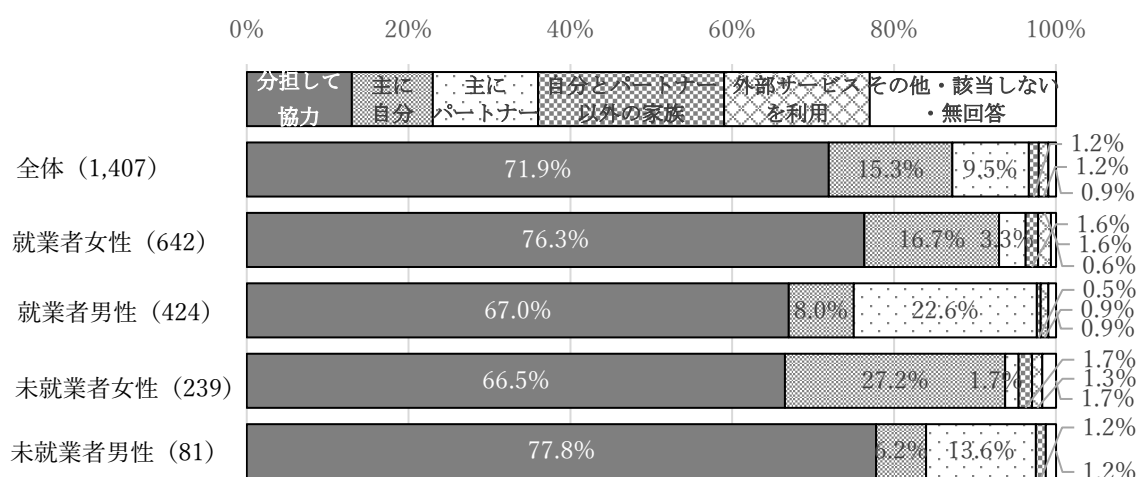


(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護（理想）（男女別）

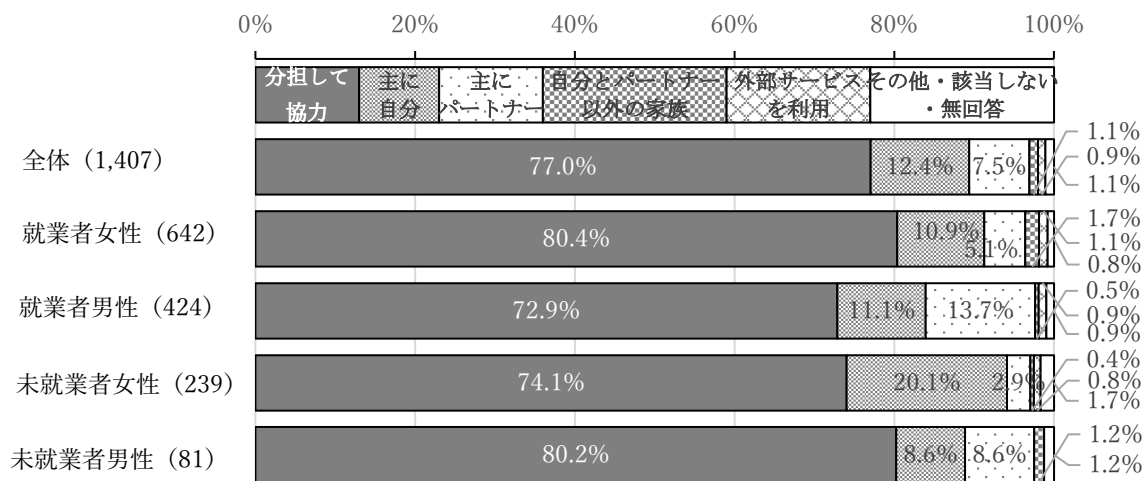


性・就業の有無別で見ると、全体的に理想は「分担して協力」を選択していますが、未就業女性では特に「食事の支度・後片付け」や「洗濯・掃除・ゴミ出し」、「日常の買い物」で「主に自分」の割合が高く、20～30%が「主に自分」と回答しています。一方、就業女性ではこの割合が低く、就業の有無が役割分担への意識に影響を与えている可能性があります。

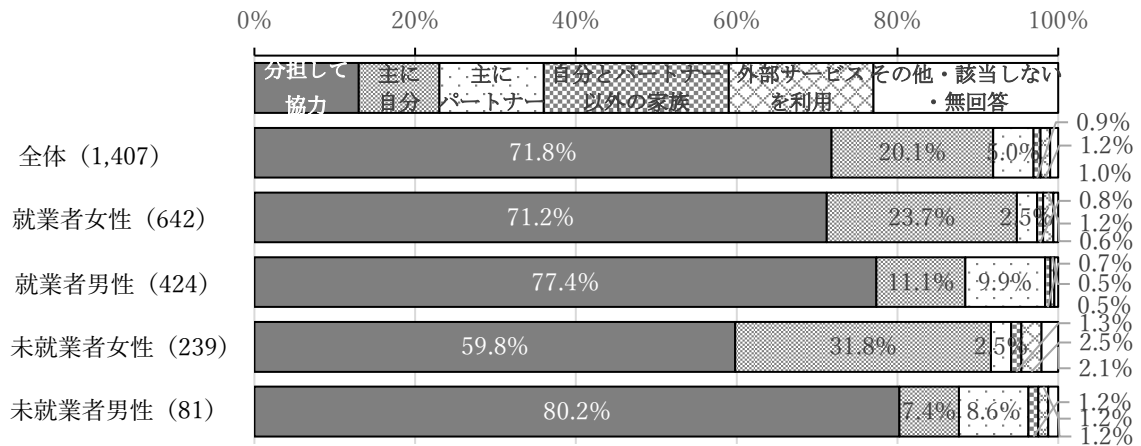
(ア) 食事の支度・後片付け (理想) (性・就業の有無別)



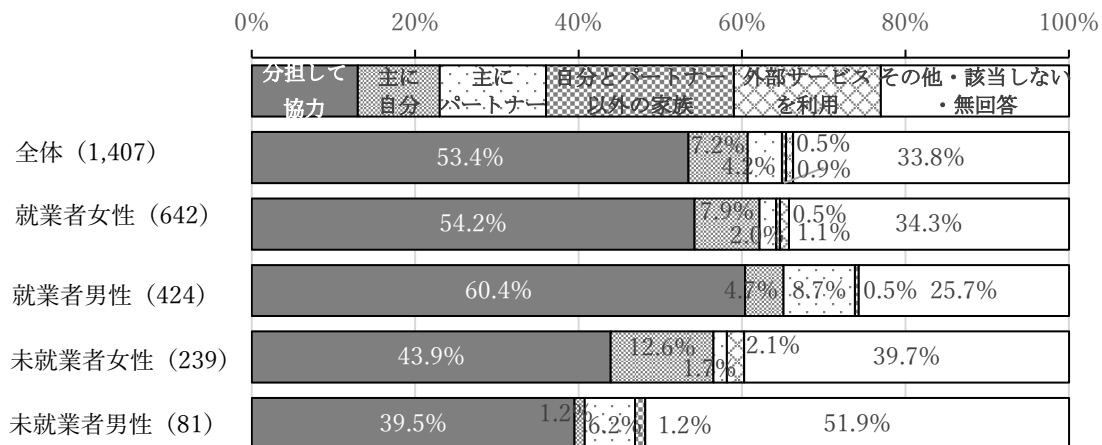
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し (理想) (性・就業の有無別)



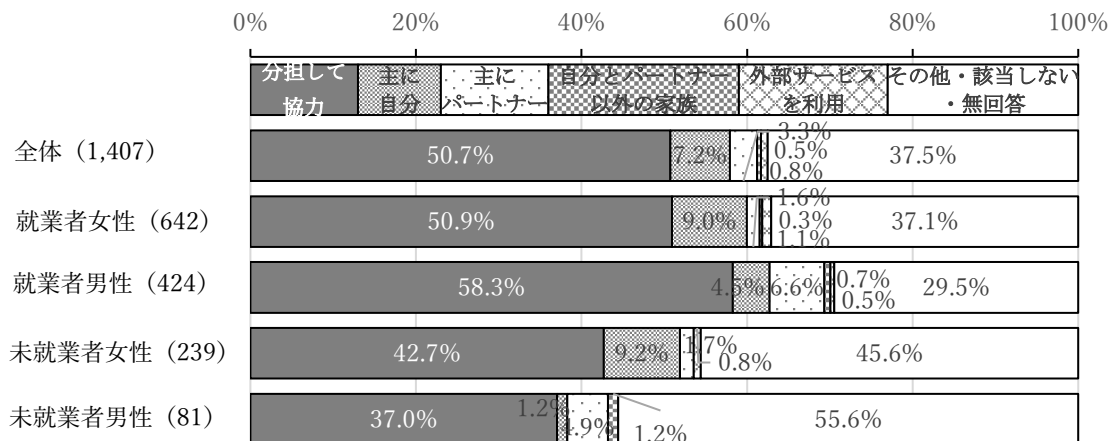
(ウ) 日常の買い物（食料品・日用品）（理想）（性・就業の有無別）



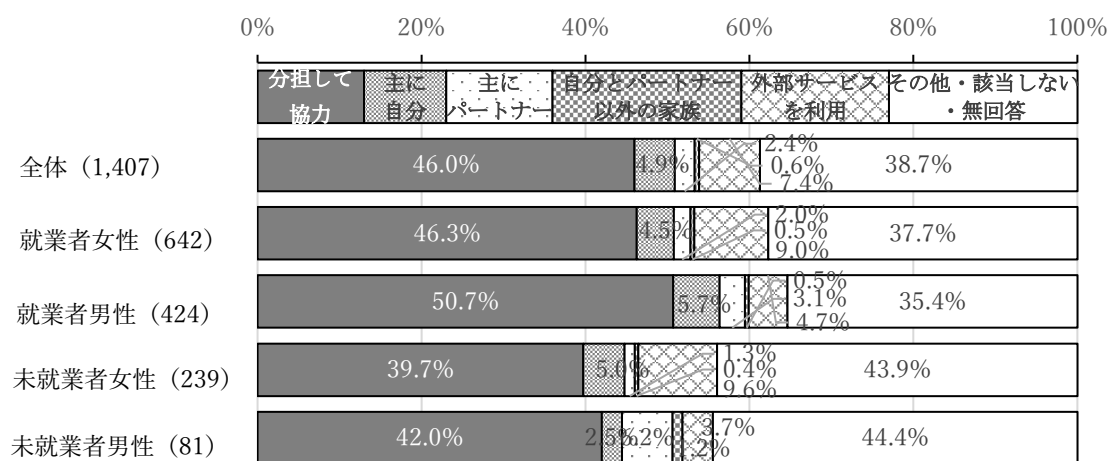
(エ) 子どもの身の回りの世話（理想）（性・就業の有無別）



(オ) 子どもの学校行事への参加（理想）（性・就業の有無別）



(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護（理想）（性・就業の有無別）



現実（Q10）と理想（Q12）を比較すると、理想の「分担して協力」の割合が現実を大幅に上回っています。ほとんどの項目で、「分担して協力」を希望する割合が現実より 20 ポイント以上高く、特に「食事の支度・後片付け」「洗濯・掃除・ゴミ出し」「日常の買い物」で顕著です。現実では女性が主に担う割合が多い中、平等な役割分担を強く望んでいることが明確です。

「主に自分」の割合は現実が理想より高く、特に未就業女性において顕著に見られます（例：食事の支度で現実 81.2%、理想 27.2%）。就業の有無にかかわらず、現実では自己負担が大きい状況が続いており、それが改善されたいと感じている可能性があります。

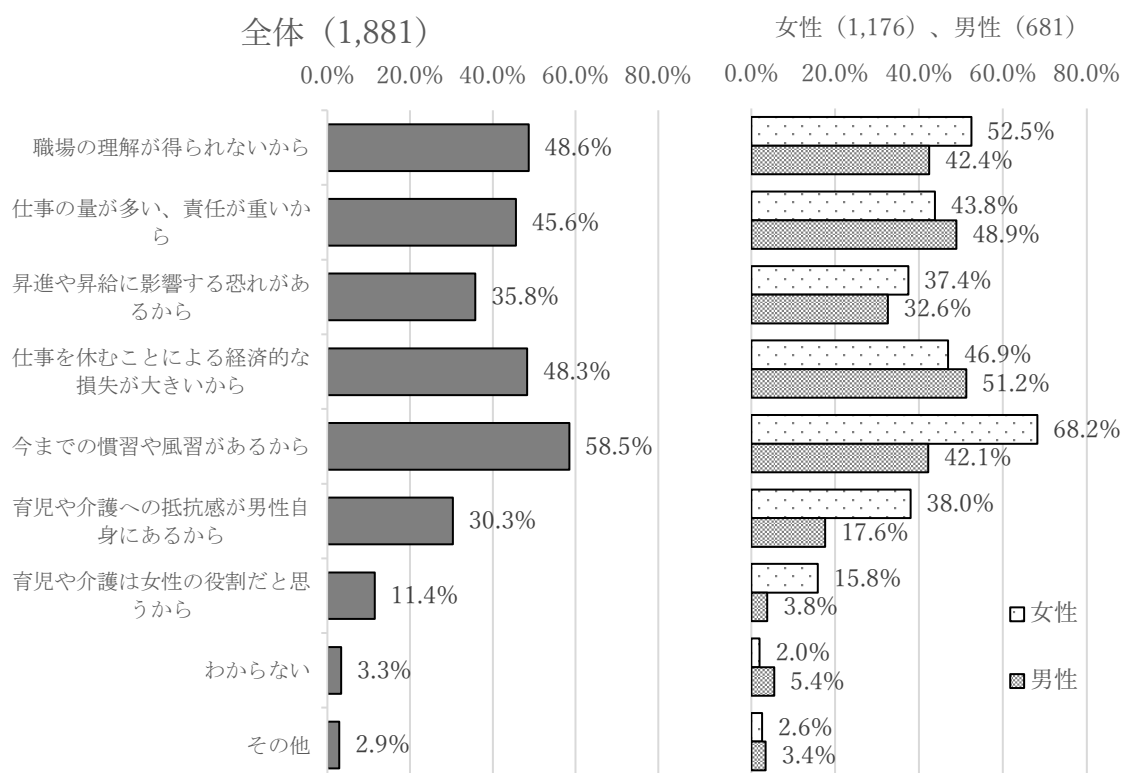
育児や介護では、現実と理想に差があり、現実で「外部サービス利用」が少ない一方、理想ではこれを選ぶ割合が増え（例：高齢者介護で理想 7.4%、現実 2.3%）、理想としては外部支援を活用したい意向が伺えます。

就業者の男女ともに「分担して協力」を望む割合が未就業者より高く、特に女性で顕著です（例：食事の支度で就業女性 76.3%、未就業女性 66.5%）。しかし、現実では負担が偏る傾向にあり、就業女性に「主に自分」の負担が集中しやすく（例：洗濯で現実 52.2%、理想 10.9%）、働きながらも家事負担を抱える傾向が見られます。一方、未就業者では現実でも理想でも「主に自分」が選ばれる割合が相対的に高く、生活スタイルが理想にも影響を与えていることが示唆されます。

Q13 男性の育児や介護にかかわる時間が少ないと言われていますが、その理由や原因について、あなたはどのように考えますか（複数選択可）。

「今までの慣習や風習があるから」が58.5%で最も多く、「職場の理解が得られないから」（48.6%）、「仕事を休むことによる経済的な損失が大きいから」（48.3%）と続いています。

男女別に見ると、「今までの慣習や風習があるから」「育児や介護への抵抗感が男性自身にあるから」は男性に比べ、女性の割合が高く、「仕事を休むことによる経済的な損失が大きいから」や「仕事の量が多い、責任が重いから」は女性に比べ男性の割合がやや高くなっています。



男女別・年代別に見ると、次のような特徴がみられます。

「今までの慣習や風習があるから」は年齢が上がるほど回答率が高くなる傾向がみられ、特に女性では 60 歳代（73.3%）が最も高くなっています。年齢が若いほど「慣習や風習」の影響を重視していません。

若年層男性は経済的・仕事上の制約を感じており、「仕事を休むことによる経済的な損失が大きいから」は男性 20 歳代で 65.8%と突出しています。女性では 30 歳代（53.9%）が高い結果となっています。

「育児や介護は女性の役割だと思うから」は女性 70 歳以上で 25.0%と高くなっています。一方、男性は全年代で回答率が低くなっており、性別役割意識は女性の高齢層で顕著です。

男女別・子どもの有無別で見ると、次のような特徴が見られます。

子どものいる女性は「職場の理解が得られないから」や「仕事を休むことによる経済的な損失が大きいから」の回答が多く、それぞれ 55.4%、52.5%となっています。子どものいる女性は「職場環境」や「経済的負担」をより強く意識していることが伺えます。

経済的負担については、子どものいる男性の回答も 54.9%と高くなっています。

「仕事の量が多い、責任が重いから」は子どものいる男性で 56.2%と、子どものいない男性（46.8%）よりも高くなっていることから、男性は子どもの有無で「仕事」への意識が異なることがわかります。

子どもの有無にかかわらず女性は「今までの慣習や風習があるから」の回答率が高く、特に子どものいない女性では 69.3%に達しています。

男性の育児や介護にかかわる時間の少ない理由

(性・年代別／性・子どもの有無別)

			全体	得職 場の理 解が ない	い仕 事、責 任が多 いから	影昇 進や昇 給に あるから	的と事 なによる 損失が経済 的	や今 までの慣 習がある	性の育 児や介 護に感 がある男 性	女育 児や介 護は 女性 の役割 だと思 うから	わ から ない	そ の 他	
全体			1881 100.0%	915 48.6%	857 45.6%	673 35.8%	909 48.3%	1100 58.5%	570 30.3%	215 11.4%	62 3.3%	54 2.9%	
性・年代別	女性	計	1176 100.0%	617 52.5%	515 43.8%	440 37.4%	552 46.9%	802 68.2%	447 38.0%	186 15.8%	23 2.0%	30 2.6%	
		20歳未満	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	— —	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	— —	— —	
		20歳代	55 100.0%	30 54.5%	17 30.9%	24 43.6%	21 38.2%	29 52.7%	10 18.2%	8 14.5%	3 5.5%	2 3.6%	
		30歳代	167 100.0%	105 62.9%	76 45.5%	89 53.3%	90 53.9%	106 63.5%	70 41.9%	26 15.6%	2 1.2%	5 3.0%	
		40歳代	268 100.0%	134 50.0%	125 46.6%	99 36.9%	127 47.4%	174 64.9%	108 40.3%	42 15.7%	9 3.4%	9 3.4%	
		50歳代	406 100.0%	193 47.5%	186 45.8%	126 31.0%	188 46.3%	293 72.2%	148 36.5%	57 14.0%	6 1.5%	8 2.0%	
		60歳代	206 100.0%	119 57.8%	81 39.3%	80 38.8%	92 44.7%	151 73.3%	86 41.7%	34 16.5%	— —	3 1.5%	
		70歳以上	72 100.0%	35 48.6%	29 40.3%	21 29.2%	34 47.2%	47 65.3%	24 33.3%	18 25.0%	3 4.2%	3 4.2%	
		計	681 100.0%	289 42.4%	333 48.9%	222 32.6%	349 51.2%	287 42.1%	120 17.6%	26 3.8%	37 5.4%	23 3.4%	
		20歳未満	6 100.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	3 50.0%	— —	— —	2 33.3%	— —	
	男性	20歳代	38 100.0%	17 44.7%	21 55.3%	16 42.1%	25 65.8%	18 47.4%	8 21.1%	1 2.6%	1 2.6%	— —	
		30歳代	102 100.0%	43 42.2%	50 49.0%	40 39.2%	58 56.9%	31 30.4%	10 9.8%	2 2.0%	4 3.9%	3 2.9%	
		40歳代	155 100.0%	70 45.2%	89 57.4%	54 34.8%	90 58.1%	56 36.1%	18 11.6%	6 3.9%	5 3.2%	11 7.1%	
		50歳代	173 100.0%	66 38.2%	86 49.7%	42 24.3%	77 44.5%	64 37.0%	22 12.7%	5 2.9%	10 5.8%	5 2.9%	
		60歳代	134 100.0%	59 44.0%	61 45.5%	40 29.9%	64 47.8%	76 56.7%	38 28.4%	7 5.2%	9 6.7%	4 3.0%	
		70歳以上	73 100.0%	32 43.8%	24 32.9%	28 38.4%	34 46.6%	39 53.4%	24 32.9%	5 6.8%	6 8.2%	— —	
		その他無回答	24 100.0%	9 37.5%	9 37.5%	11 45.8%	8 33.3%	11 45.8%	3 12.5%	3 12.5%	2 8.3%	1 4.2%	
		性・子どもの有無別	女性	いる	276 100.0%	153 55.4%	146 52.9%	131 47.5%	145 52.5%	178 64.5%	100 36.2%	42 15.2%	4 1.4%
	いない			900 100.0%	464 51.6%	369 41.0%	309 34.3%	407 45.2%	624 69.3%	347 38.6%	144 16.0%	19 2.1%	24 2.7%
	男性		いる	153 100.0%	53 34.6%	86 56.2%	55 35.9%	84 54.9%	51 33.3%	19 12.4%	6 3.9%	3 2.0%	9 5.9%
			いない	528 100.0%	236 44.7%	247 46.8%	167 31.6%	265 50.2%	236 44.7%	101 19.1%	20 3.8%	34 6.4%	14 2.7%
	その他無回答		24 100.0%	9 37.5%	9 37.5%	11 45.8%	8 33.3%	11 45.8%	3 12.5%	3 12.5%	2 8.3%	1 4.2%	

Q14 子どもたちが「男女は平等であること」を理解するために、何が重要だと思いますか。

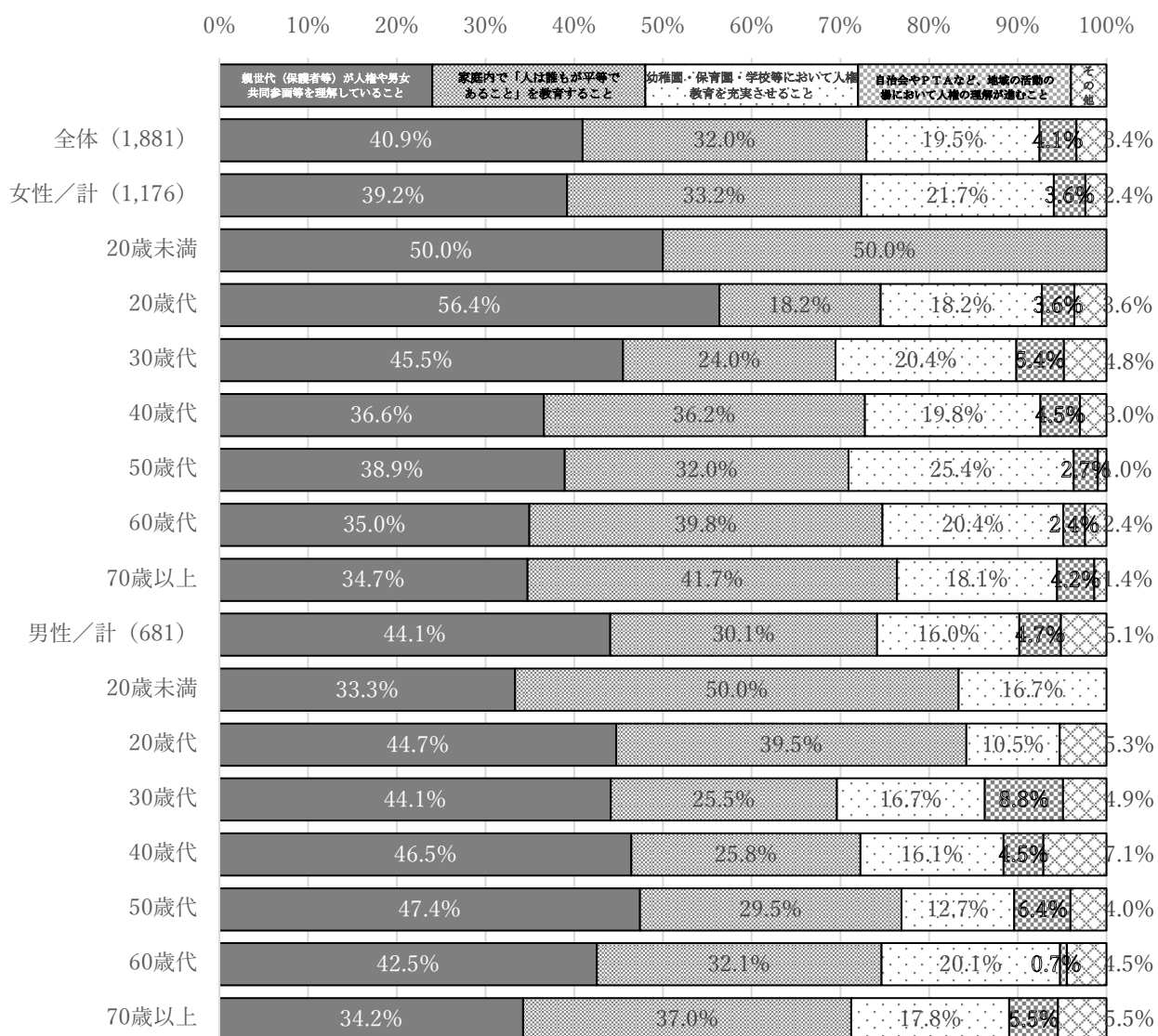
「親世代（保護者等）が人権や男女共同参画等を理解していること」「家庭内で「人は誰もが平等であること」を教育すること」のいずれかで回答全体の70%を占めています。「地域活動」は全体を通じて少ない傾向にあります。

男女別で見ると、男性は女性よりも「親世代の理解」をやや重視する傾向にあり、女性は「親世代の理解」と「家庭内での教育」の差が小さくなっています。

男女共通で、年齢が上がるほど「家庭内での教育」を重視する傾向が見られます。女性では60歳代以降で約40%となり、男性でも70歳以上で37.0%に達しています。

女性では「学校での教育」の割合が20歳代～50歳代で安定しています（約20%前後）が、男性では約10～16%でやや低く、「学校での教育」の重要性は男女で異なる傾向が伺えます。

子どもたちが「男女は平等であること」を理解するために重要だと思うこと
(性・年代別)



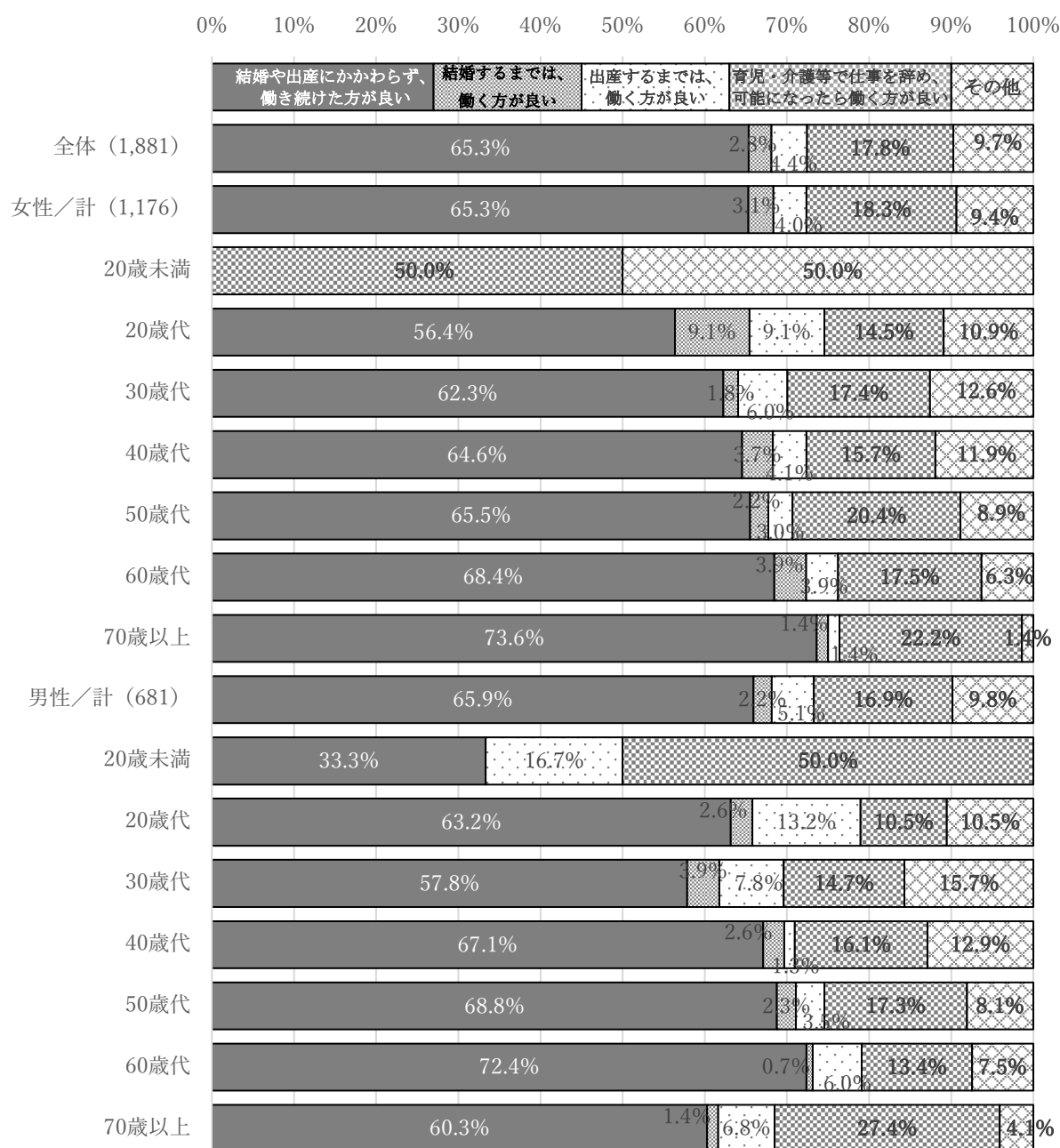
3 働くことにおける男女共同参画について

Q15 女性が働くことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

「結婚や出産にかかわらず、働き続けた方が良い」という回答が 65.3%と最も多く、男女による差も見られません。一方で「育児・介護等で仕事を辞め、可能になったら働く方が良い」という回答も女性 18.3%、男性 16.9%で一定の割合を占めています。

男女別、年代別に見ると、「結婚や出産にかかわらず、働き続けた方が良い」という回答が女性は 60 歳代で 68.4%、70 歳以上で 73.6%、男性は 60 歳代の 72.4%でピークを迎えており、男女ともに年齢が上がるほど「働き続ける」選択肢を支持する傾向が強くなっています。また、30 歳代、70 歳以上を除き、男性の方が女性より「働き続ける」選択肢を支持しています。

女性が働くことについて（男女・年代別）



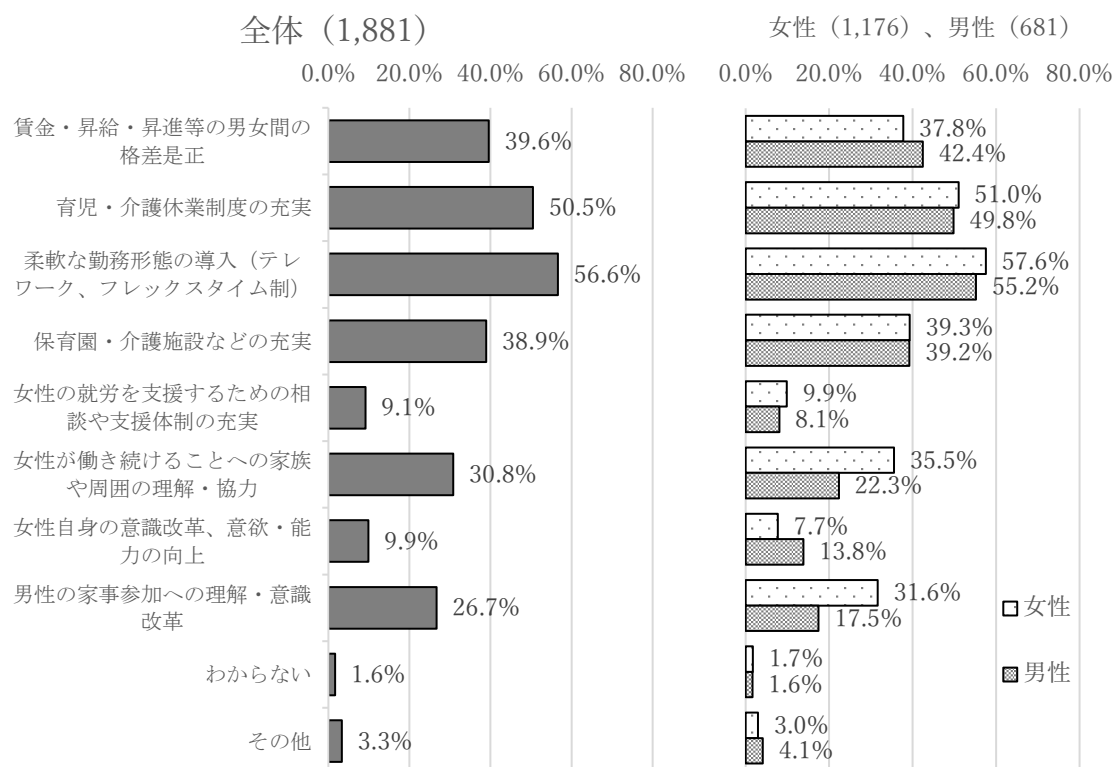
Q16 あなたは、女性が離職せずに長く働き続けるために、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで選択可）。

「柔軟な勤務形態の導入（テレワーク、フレックスタイム制）」が56.6%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の充実」が50.5%と続いています。

「賃金・昇給・昇進等の男女間の格差是正」「保育園・介護施設などの充実」「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」「男性の家事参加への理解・意識改革」も約3～4割と高くなっています。

男女別に見ると、「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」や「男性の家事参加への理解・意識改革」においては、女性の回答率に比べ（35.5%、31.6%）、男性は低め（22.3%、17.5%）となっています。

一方で「賃金・昇給・昇進等の男女間の格差是正」は男性（42.4%）が女性（37.8%）を上回っています。



男女・年代別に見ると、若年層は「柔軟な勤務形態（テレワーク、フレックスタイム制）」が男女ともに高い（女性 30 代 74.3%、男性 30 代 61.8%）一方で、「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」や「男性の家事参加への理解・意識改革」は低めでした。

50 歳代女性、70 歳以上女性では「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」の支持が他の年代よりも高くなっています（50 歳代 40.9%、70 歳以上 41.7%）。

50～70 歳以上男性は、30～40 歳代男性と比べ「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力」や「賃金・昇給・昇進等の男女間の格差是正」の支持が高めの傾向にあります。

女性が離職せずに働き続けるために重要なこと（男女・年代別）

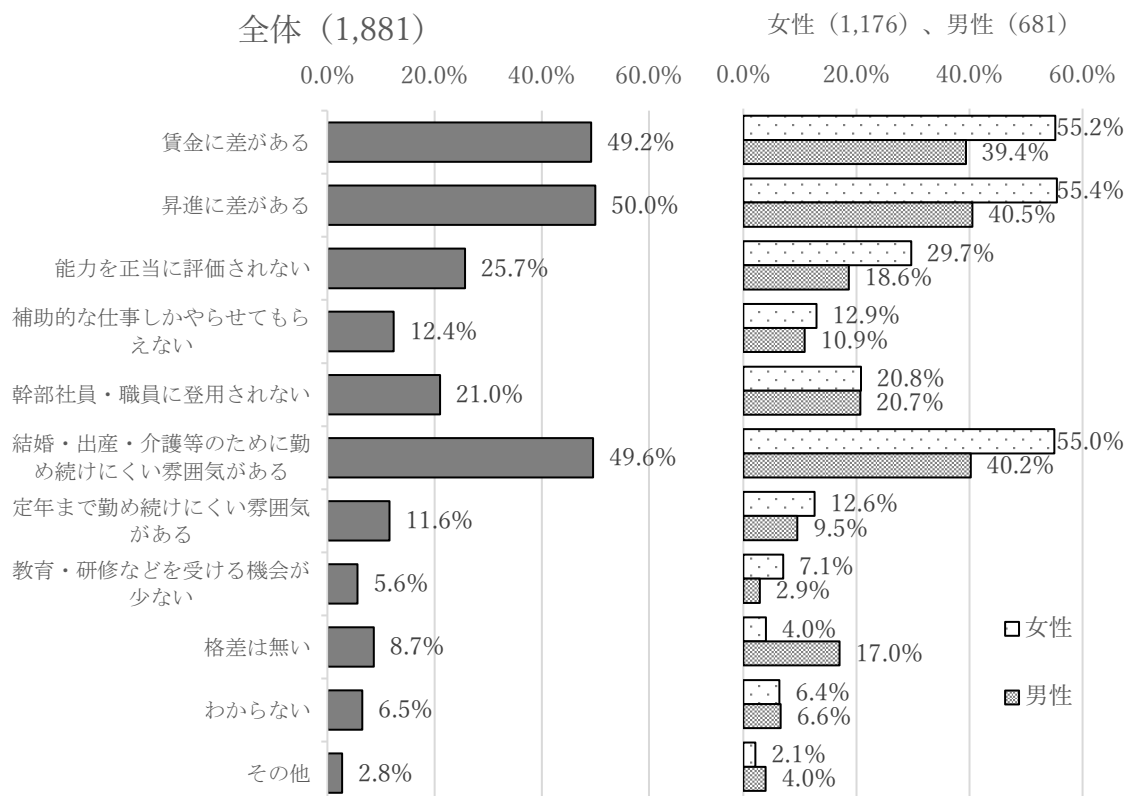
		全体	の賃金・昇給・昇進等 の男女間の格差是正	育児・介護休業制度 の充実	柔軟な勤務形態の導入（テレワーク、フレックスタイム制）	保育園・介護施設などの充実	女性の就業体制の充実 （労働相談や支援）	女性への家族や周囲の理解・協力	女性自身の意識改革、意欲・能力の向上	男性の家事参加への理解・意識改革	わからない	その他
全体		1881 100.0%	744 39.6%	950 50.5%	1065 56.6%	732 38.9%	172 9.1%	579 30.8%	186 9.9%	502 26.7%	31 1.6%	63 3.3%
女性	計	1176 100.0%	444 37.8%	600 51.0%	677 57.6%	462 39.3%	116 9.9%	418 35.5%	91 7.7%	372 31.6%	20 1.7%	35 3.0%
	20歳未満	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	— —	— —	2 100.0%	— —	1 50.0%	— —	— —
	20歳代	55 100.0%	15 27.3%	27 49.1%	38 69.1%	28 50.9%	8 14.5%	16 29.1%	4 7.3%	12 21.8%	1 1.8%	1 1.8%
	30歳代	167 100.0%	68 40.7%	77 46.1%	124 74.3%	74 44.3%	13 7.8%	37 22.2%	8 4.8%	49 29.3%	4 2.4%	12 7.2%
	40歳代	268 100.0%	102 38.1%	126 47.0%	146 54.5%	85 31.7%	27 10.1%	98 36.6%	25 9.3%	94 35.1%	6 2.2%	10 3.7%
	50歳代	406 100.0%	161 39.7%	194 47.8%	218 53.7%	158 38.9%	44 10.8%	166 40.9%	35 8.6%	136 33.5%	5 1.2%	6 1.5%
	60歳代	206 100.0%	77 37.4%	131 63.6%	121 58.7%	80 38.8%	19 9.2%	69 33.5%	11 5.3%	59 28.6%	3 1.5%	5 2.4%
	70歳以上	72 100.0%	20 27.8%	44 61.1%	29 40.3%	37 51.4%	5 6.9%	30 41.7%	8 11.1%	21 29.2%	1 1.4%	1 1.4%
男性	計	681 100.0%	289 42.4%	339 49.8%	376 55.2%	267 39.2%	55 8.1%	152 22.3%	94 13.8%	119 17.5%	11 1.6%	28 4.1%
	20歳未満	6 100.0%	3 50.0%	2 33.3%	4 66.7%	3 50.0%	— —	1 16.7%	1 16.7%	— —	— —	— —
	20歳代	38 100.0%	18 47.4%	18 47.4%	22 57.9%	12 31.6%	4 10.5%	11 28.9%	3 7.9%	10 26.3%	— —	2 5.3%
	30歳代	102 100.0%	28 27.5%	57 55.9%	63 61.8%	46 45.1%	7 6.9%	19 18.6%	17 16.7%	16 15.7%	1 1.0%	4 3.9%
	40歳代	155 100.0%	58 37.4%	71 45.8%	89 57.4%	60 38.7%	11 7.1%	32 20.6%	21 13.5%	33 21.3%	5 3.2%	9 5.8%
	50歳代	173 100.0%	82 47.4%	74 42.8%	95 54.9%	69 39.9%	10 5.8%	41 23.7%	29 16.8%	27 15.6%	3 1.7%	7 4.0%
	60歳代	134 100.0%	66 49.3%	78 58.2%	68 50.7%	55 41.0%	15 11.2%	26 19.4%	13 9.7%	20 14.9%	1 0.7%	3 2.2%
	70歳以上	73 100.0%	34 46.6%	39 53.4%	35 47.9%	22 30.1%	8 11.0%	22 30.1%	10 13.7%	13 17.8%	1 1.4%	3 4.1%
その他、無回答		24 100.0%	11 45.8%	11 45.8%	12 50.0%	3 12.5%	1 4.2%	9 37.5%	1 4.2%	11 45.8%	— —	— —

Q17 女性が働く上で男性との格差があると思いますか（複数選択可）。

「賃金に差がある」「昇進に差がある」「結婚・出産・介護等のために勤め続けにくい雰囲気がある」にはそれぞれ 50%程度の回答がありました。「格差は無い」は 8.7%と低くなっています。

男女別に見ると、「格差は無い」「わからない」「その他」を除き全ての項目で女性の方が多く格差があると回答しています。「賃金に差がある」「昇進に差がある」「結婚・出産・介護等のために勤め続けにくい雰囲気がある」で女性は 55%以上、男性は 40%前後と、女性の方が約 15 ポイント以上高くなっています。

「格差は無い」は、男性が 17%であるのに、女性は 4.0%と 10 ポイント以上低くなっており、全体的に男女の認識に差があります。



性・年代別に見ると、「賃金に差がある」「昇進に差がある」では 60 歳代・70 歳以上が男女共に高くなっています。(女性 72.2%・64.1%、男性 65.8%・65.8%)

また、女性は全年代で「結婚・出産・介護等のために勤め続けにくい雰囲気がある」の回答が多くなっています。

性・年代別勤務形態別で見ると、「正社員、正職員」と「契約、派遣、嘱託の社員」で全体的に男女による差が大きくなっています。

また、男女ともに無職で「賃金に差がある」（女性 75.0%、男性 57.8%）や「昇進に差がある」（女性 59.2%、男性 58.8%）の回答が高くなっています。

女性が働く上で男性との格差があると思うこと（性・年代別）

			全体	賃金に差がある	昇進に差がある	能力を正 さに評	補 助 的 な 仕 事 を し て も し な い	に 幹 部 社 員 ・ 職 員	結 婚 ・ 出 産 ・ 介 護 等 の た め に 勤 め 続 け に 困 り が あ る	定 年 ま で 勤 め 続 け が あ る	を 教 育 ・ 研 修 機 会 が あ る	格 差 は 無 い	わ か ら な い	そ の 他
全体			1,881 100.0%	926 49.2%	940 50.0%	483 25.7%	233 12.4%	395 21.0%	933 49.6%	218 11.6%	106 5.6%	163 8.7%	122 6.5%	52 2.8%
性・年代別	女性	計	1,176 100.0%	649 55.2%	652 55.4%	349 29.7%	152 12.9%	245 20.8%	647 55.0%	148 12.6%	83 7.1%	47 4.0%	75 6.4%	25 2.1%
		20歳未満	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	— —	— —	— —	1 50.0%	— —	— —	— —	1 50.0%	— —
		20歳代	55 100.0%	17 30.9%	27 49.1%	9 16.4%	4 7.3%	10 18.2%	29 52.7%	6 10.9%	0 0.0%	8 14.5%	3 5.5%	1 1.8%
		30歳代	167 100.0%	92 55.1%	101 60.5%	46 27.5%	24 14.4%	45 26.9%	97 58.1%	33 19.8%	13 7.8%	5 3.0%	6 3.6%	7 4.2%
		40歳代	268 100.0%	133 49.6%	132 49.3%	67 25.0%	34 12.7%	50 18.7%	139 51.9%	28 10.4%	16 6.0%	11 4.1%	23 8.6%	8 3.0%
		50歳代	406 100.0%	215 53.0%	224 55.2%	125 30.8%	58 14.3%	85 20.9%	238 58.6%	57 14.0%	31 7.6%	16 3.9%	24 5.9%	6 1.5%
		60歳代	206 100.0%	139 67.5%	132 64.1%	78 37.9%	26 12.6%	43 20.9%	110 53.4%	19 9.2%	15 7.3%	6 2.9%	11 5.3%	3 1.5%
		70歳以上	72 100.0%	52 72.2%	35 48.6%	24 33.3%	6 8.3%	12 16.7%	33 45.8%	5 6.9%	8 11.1%	1 1.4%	7 9.7%	— —
		その他・無回答	681 100.0%	268 39.4%	276 40.5%	127 18.6%	74 10.9%	141 20.7%	274 40.2%	65 9.5%	20 2.9%	116 17.0%	45 6.6%	27 4.0%
	男性	20歳未満	6 100.0%	2 33.3%	— —	3 50.0%	2 33.3%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
		20歳代	38 100.0%	14 36.8%	12 31.6%	2 5.3%	4 10.5%	7 18.4%	20 52.6%	4 10.5%	— —	3 7.9%	4 10.5%	— —
		30歳代	102 100.0%	29 28.4%	28 27.5%	14 13.7%	6 5.9%	15 14.7%	45 44.1%	9 8.8%	2 2.0%	16 15.7%	10 9.8%	2 2.0%
		40歳代	155 100.0%	53 34.2%	46 29.7%	23 14.8%	15 9.7%	26 16.8%	64 41.3%	12 7.7%	1 0.6%	34 21.9%	14 9.0%	11 7.1%
		50歳代	173 100.0%	52 30.1%	65 37.6%	34 19.7%	15 8.7%	33 19.1%	54 31.2%	15 8.7%	4 2.3%	40 23.1%	9 5.2%	7 4.0%
		60歳代	134 100.0%	70 52.2%	77 57.5%	31 23.1%	19 14.2%	33 24.6%	57 42.5%	11 8.2%	3 2.2%	17 12.7%	5 3.7%	6 4.5%
		70歳以上	73 100.0%	48 65.8%	48 65.8%	20 27.4%	13 17.8%	27 37.0%	34 46.6%	14 19.2%	10 13.7%	6 8.2%	3 4.1%	1 1.4%
		その他・無回答	24 100.0%	9 37.5%	12 50.0%	7 29.2%	7 29.2%	9 37.5%	12 50.0%	5 20.8%	3 12.5%	— —	2 8.3%	— —
	女性	正社員、正職員	353 100.0%	186 52.7%	198 56.1%	99 28.0%	45 12.7%	76 21.5%	161 45.6%	37 10.5%	28 7.9%	22 6.2%	15 4.2%	11 3.1%
		契約、派遣、嘱託の社員	104 100.0%	64 61.5%	64 61.5%	32 30.8%	15 14.4%	24 23.1%	52 50.0%	10 9.6%	5 4.8%	5 4.8%	8 7.7%	7 6.7%
		パート、アルバイト	368 100.0%	179 48.6%	186 50.5%	94 25.5%	33 9.0%	63 17.1%	226 61.4%	48 13.0%	13 3.5%	11 3.0%	25 6.8%	1 0.3%
		自営業、経営者、自由業（社長、店主、開業医、起業家、フリーランスなど）	50 100.0%	30 60.0%	29 58.0%	17 34.0%	9 18.0%	12 24.0%	31 62.0%	9 18.0%	8 16.0%	2 4.0%	4 8.0%	1 2.0%
		家事専従	211 100.0%	126 59.7%	127 60.2%	70 33.2%	36 17.1%	51 24.2%	125 59.2%	33 15.6%	23 10.9%	5 2.4%	17 8.1%	3 1.4%
		学生	7 100.0%	3 42.9%	1 14.3%	1 14.3%	— —	— —	4 57.1%	1 14.3%	— —	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%
		無職	76 100.0%	57 75.0%	45 59.2%	32 42.1%	13 17.1%	19 25.0%	46 60.5%	10 13.2%	5 6.6%	1 1.3%	4 5.3%	1 1.3%
	男性	正社員、正職員	425 100.0%	143 33.6%	147 34.6%	61 14.4%	36 8.5%	72 16.9%	152 35.8%	31 7.3%	4 0.9%	86 20.2%	32 7.5%	19 4.5%
		契約、派遣、嘱託の社員	41 100.0%	16 39.0%	22 53.7%	11 26.8%	8 19.5%	16 39.0%	17 41.5%	5 12.2%	2 4.9%	7 17.1%	1 2.4%	1 2.4%
		パート、アルバイト	32 100.0%	15 46.9%	16 50.0%	8 25.0%	3 9.4%	6 18.8%	16 50.0%	6 18.8%	2 6.3%	1 3.1%	4 12.5%	2 6.3%
		自営業、経営者、自由業（社長、店主、開業医、起業家、フリーランスなど）	67 100.0%	29 43.3%	28 41.8%	22 32.8%	11 16.4%	16 23.9%	36 53.7%	9 13.4%	4 6.0%	9 13.4%	3 4.5%	3 4.5%
		家事専従	2 100.0%	— —	— —	1 50.0%	— —	— —	1 50.0%	— —	— —	— —	— —	— —
		学生	8 100.0%	4 50.0%	1 12.5%	3 37.5%	3 37.5%	— —	2 25.0%	1 12.5%	— —	— —	— —	— —
		無職	102 100.0%	59 57.8%	60 58.8%	21 20.6%	13 12.7%	30 29.4%	48 47.1%	12 11.8%	8 7.8%	11 10.8%	5 4.9%	2 2.0%
		その他・無回答	11 100.0%	6 54.5%	4 36.4%	4 36.4%	1 9.1%	1 9.1%	4 36.4%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	— —

Q18 「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について、あなたの「現状」に当てはまるものを選択してください。

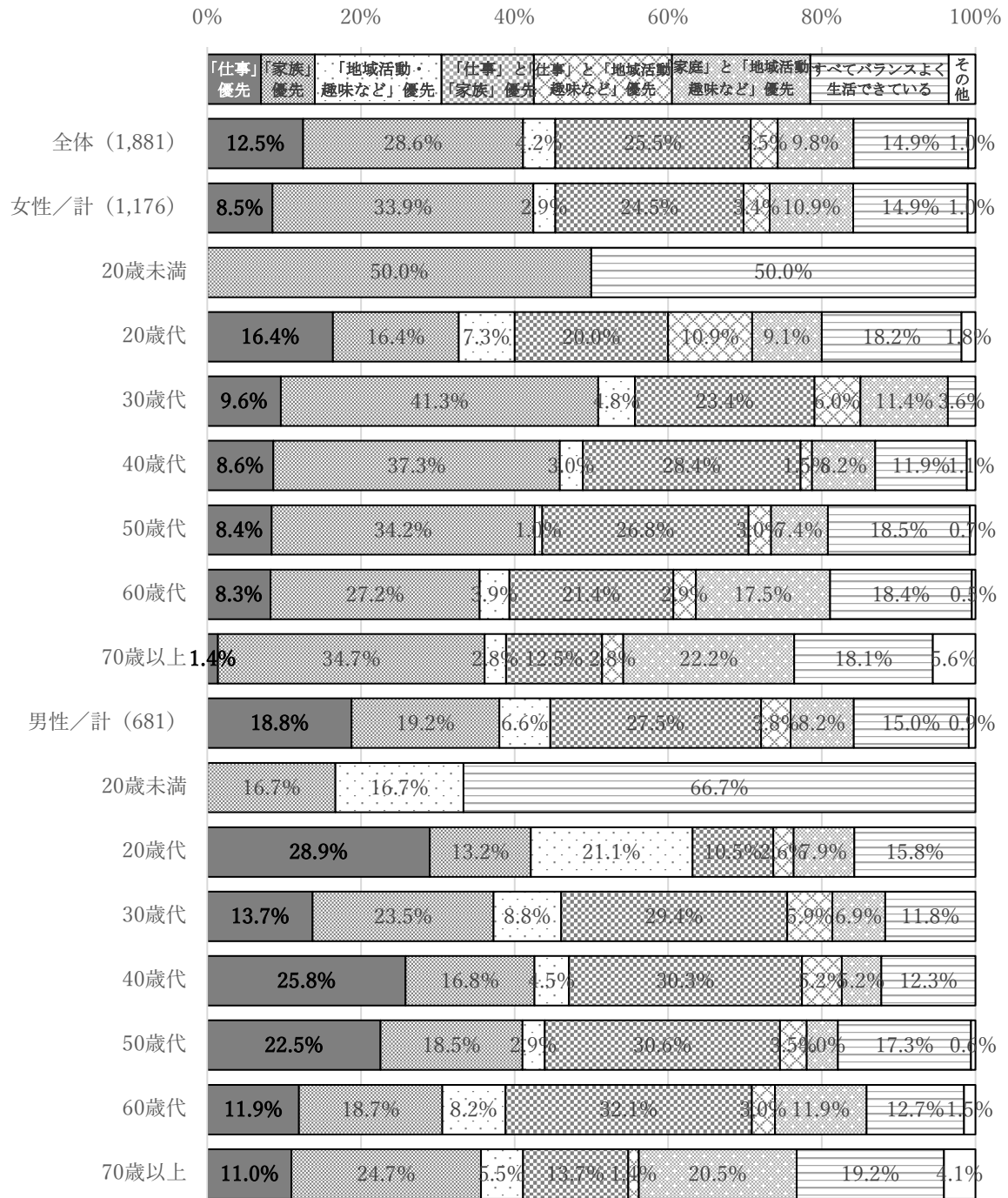
全体を通じて「家族優先」「仕事と家族優先」の回答が多くなっています。

男性は「仕事」優先が 18.8%と高く、女性の 8.5%の 2 倍以上です。女性は「家族」優先が 33.9%と高く、20 歳代以下を除き「家族」優先が「仕事」優先を上回っています。男女別で比較しても、男性の「家族」優先（19.2%）を大きく上回っています。また、男性はどの年代でも「家族」優先が女性より低くなっています。

年代別では、男性は全年代を通じて「仕事」と「家族」を両立する割合が高い一方、女性は「地域活動・趣味など」優先やバランス型が年代によって増える傾向があります。

70 歳以上になると男女とも「地域活動・趣味など」優先が 20%を超え、他の年代と異なる傾向が見られています。

「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について
(現実) (性・年代別)

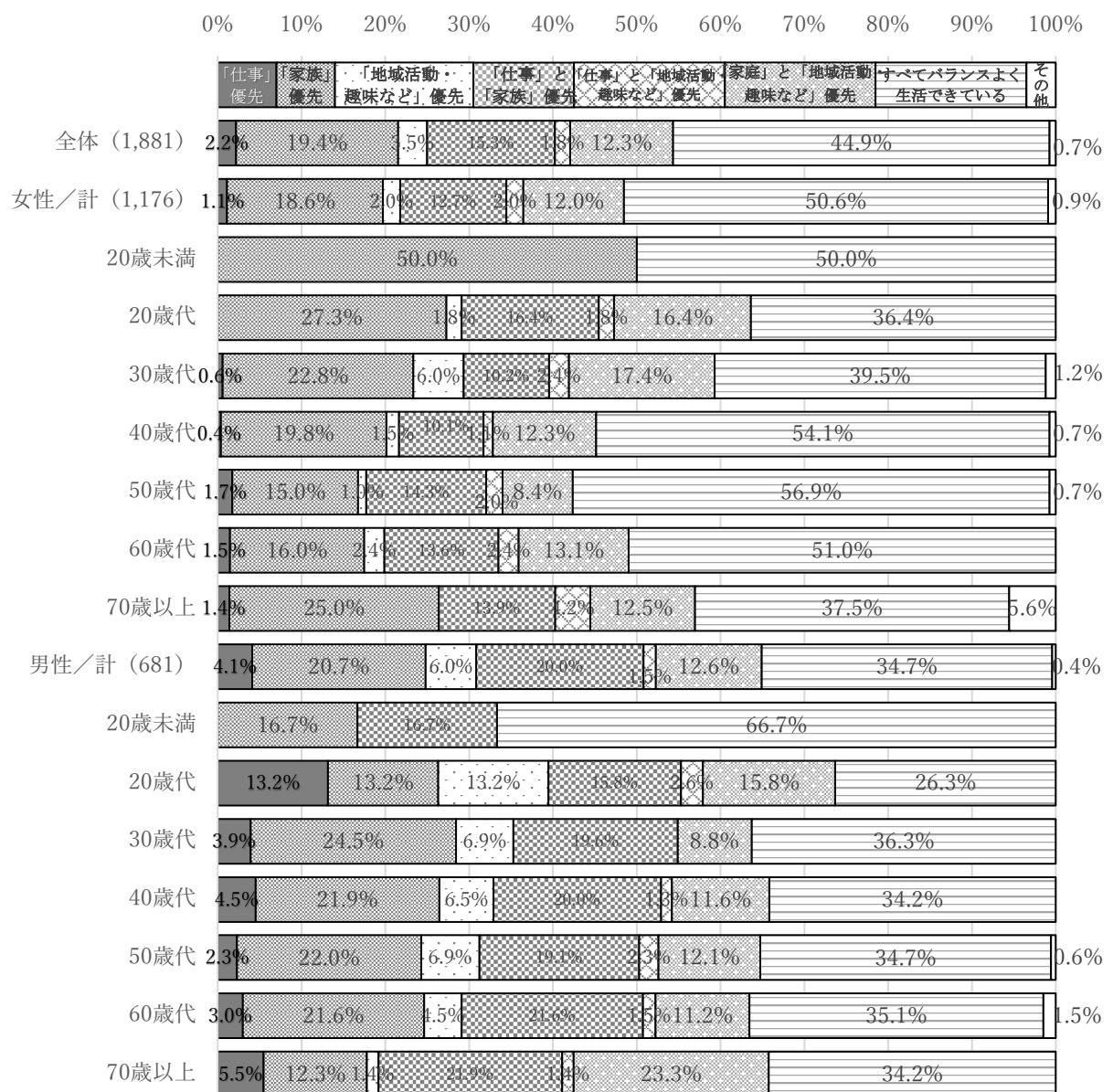


Q19 あなたの理想とする「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について、あてはまるものを選択してください。

「すべてバランスよく生活できている」が一番多いですが、男女別に見ると、女性は50.6%、男性は34.7%と10ポイント以上の差が見られます。

男性は回答の傾向に年代による大きな違いが見られませんが、女性は年代によって理想に変化が見られます。

「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について
(理想) (性・年代別)



現実と理想を比較すると、「現実」では低い割合だった「すべてバランスよく生活できている」が、「理想」では全体的に大きく上昇しています。特に女性は 20 歳代以下と 70 歳以上を除き、30 ポイント以上の差があり、顕著なギャップが見られます。また、女性では現実で「家族」優先の割合が高いですが、理想では「すべてバランスよく生活できている」や「家族と趣味」を選ぶ割合が増加しています。

男性は、「仕事」優先が理想では大きく減少し、「家庭と地域活動」優先や「すべてバランスよく生活できている」の割合が増加しており、現実では「仕事」を優先していますが、仕事以外にも目を向けたいという理想のあることが分かります。

4 L G B T Q +について

Q20 社会全体において、L G B T Q +に関する理解は進んでいると思いますか。

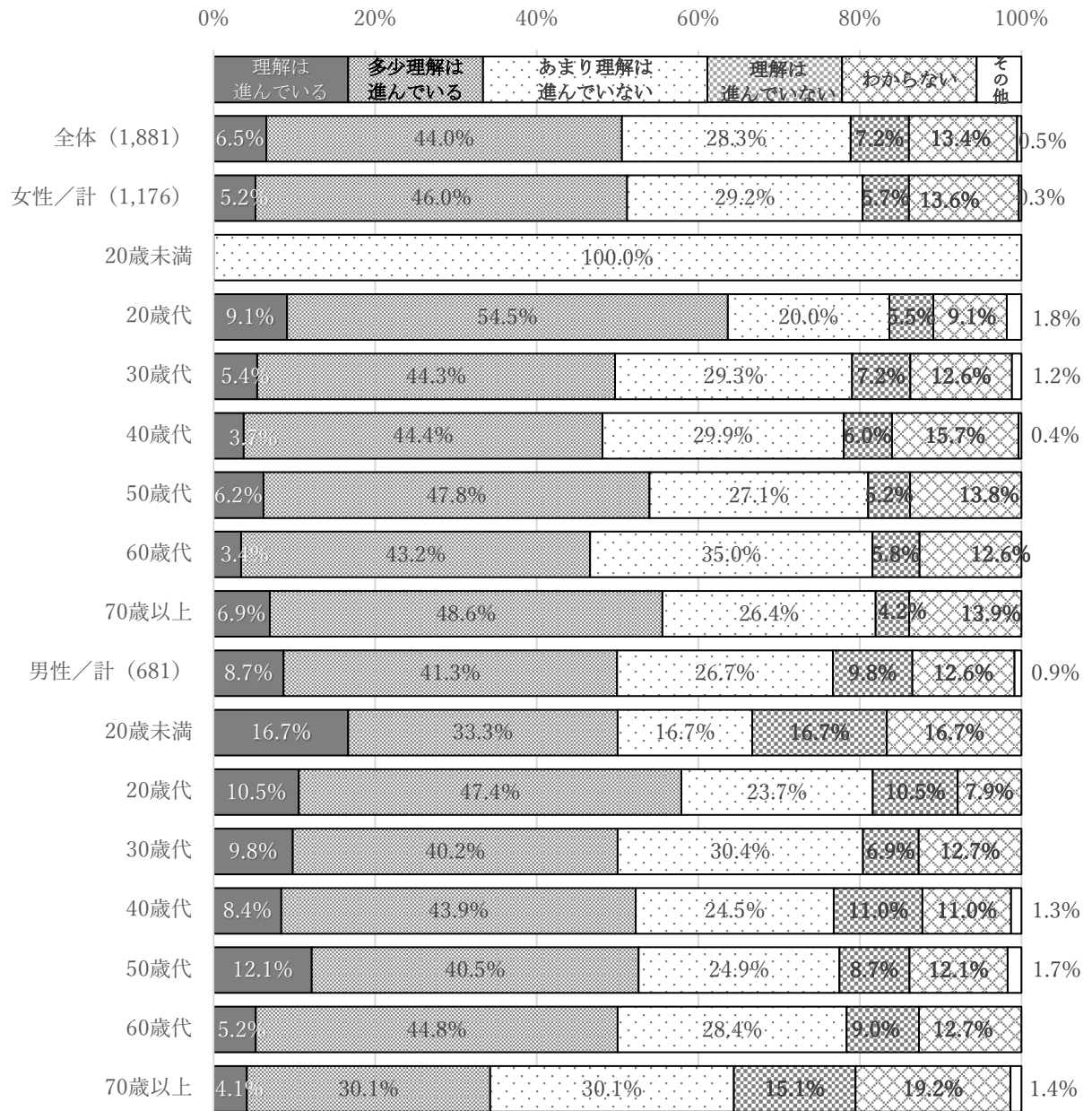
「理解は進んでいる」(6.5%)と「多少理解は進んでいる」(44.0%)を合わせると過半数を超え、理解が進んでいると感じている人が多くなっています。一方で「あまり理解は進んでいない」(28.3%)「理解は進んでいない」(7.2%)という回答も合計で35.5%と3分の1を占めています。

男女別に見ると、「理解は進んでいる」と回答した割合は男性が女性より高く、「多少理解は進んでいる」は男性より女性が高くなっています。両方を合わせると、50歳代、70歳代を除き、男性の方が高くなっています。

男女別、年代別に見ると、20歳未満女性の「あまり理解は進んでいない」との回答が100%となっていますが、回答人数は2人となっています。

70歳以上の男性で「理解は進んでいる」(4.1%)、「多少理解は進んでいる」(30.1%)の回答が男性の他の年代や女性より低く、「理解は進んでいない」割合が高く(15.1%)なっています。

LGBTQ+に関する理解は進んでいるか（性・年代別）



Q21 LGBTQ+に関する正しい知識や理解の普及のために、どのようなことが必要だと思いますか（複数選択可）。

「子どもたちへの周知、啓発」（33.0%）が最も高く、次に「当事者とのコミュニケーションの場」（18.6%）や「SNSなどを活用した周知、啓発」（16.6%）が続いています。

「子どもたちへの周知、啓発」と回答した女性は、10ポイント以上男性を上回っています。



男女別、年代別に見ると、「SNSなどを活用した周知、啓発」は男女ともに、若い世代ほど高い回答となっています。

70歳以上の男性は他の年代よりも「講座やセミナーなどの開催」（35.6%）が高くなっています。

「子どもたちへの周知、啓発」は30歳代、40歳代の女性が高くなっています。

L G B T Q +に関する正しい知識や理解の普及のために必要だと思うこと
(性・年代別)

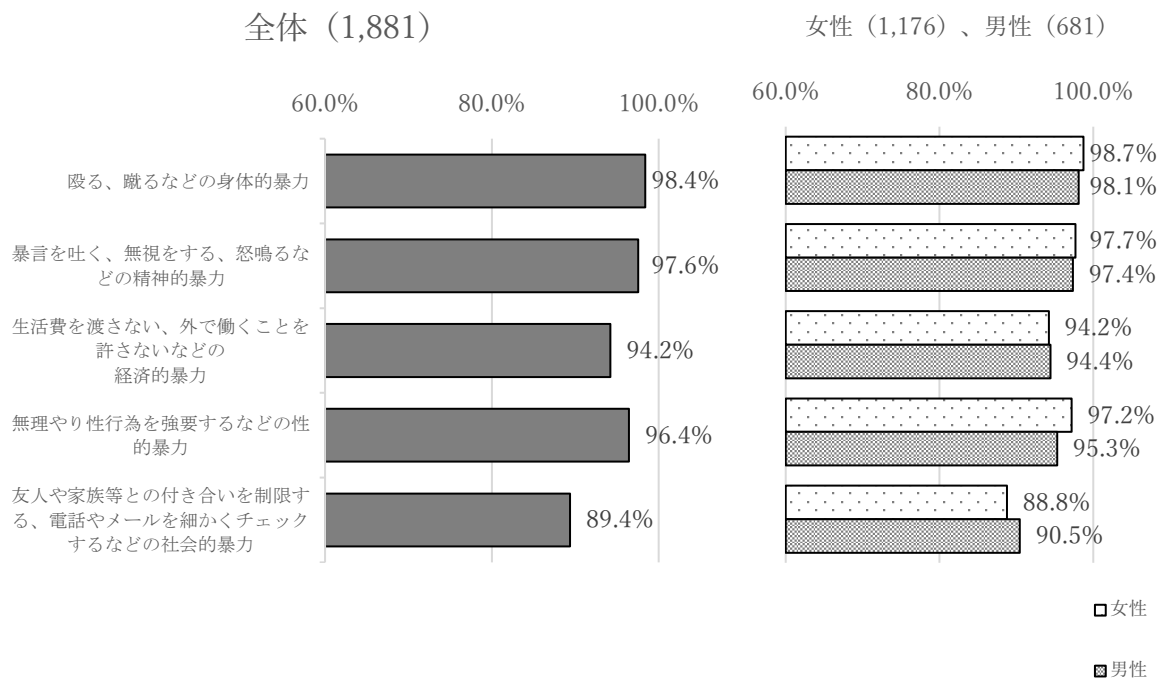
			全体	講座やセミナーなどの開催	パンフレットや冊子等の作成	子どもたちへの周知、啓発	当事者とのコミュニケーションの場	S N Sなどを活用した周知、啓発	その他
全体			1,881 100.0%	406 21.6%	355 18.9%	905 48.1%	511 27.2%	457 24.3%	111 5.9%
性・年代別	女性	計	1,176 100.0%	243 20.7%	237 20.2%	628 53.4%	339 28.8%	284 24.1%	53 4.5%
		20歳未満	2 100.0%	— —	— —	2 100.0%	— —	1 50.0%	— —
		20歳代	55 100.0%	12 21.8%	9 16.4%	27 49.1%	15 27.3%	21 38.2%	4 7.3%
		30歳代	167 100.0%	35 21.0%	38 22.8%	93 55.7%	53 31.7%	62 37.1%	12 7.2%
		40歳代	268 100.0%	47 17.5%	47 17.5%	159 59.3%	86 32.1%	68 25.4%	17 6.3%
		50歳代	406 100.0%	84 20.7%	91 22.4%	210 51.7%	112 27.6%	88 21.7%	16 3.9%
		60歳代	206 100.0%	47 22.8%	33 16.0%	104 50.5%	56 27.2%	35 17.0%	2 1.0%
		70歳以上	72 100.0%	18 25.0%	19 26.4%	33 45.8%	17 23.6%	9 12.5%	2 2.8%
	男性	計	681 100.0%	159 23.3%	113 16.6%	273 40.1%	161 23.6%	166 24.4%	56 8.2%
		20歳未満	6 100.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	— —
		20歳代	38 100.0%	8 21.1%	5 13.2%	12 31.6%	13 34.2%	12 31.6%	2 5.3%
		30歳代	102 100.0%	19 18.6%	14 13.7%	40 39.2%	24 23.5%	29 28.4%	7 6.9%
		40歳代	155 100.0%	42 27.1%	26 16.8%	65 41.9%	38 24.5%	45 29.0%	15 9.7%
		50歳代	173 100.0%	32 18.5%	24 13.9%	67 38.7%	47 27.2%	36 20.8%	16 9.2%
		60歳代	134 100.0%	31 23.1%	26 19.4%	64 47.8%	27 20.1%	30 22.4%	10 7.5%
		70歳以上	73 100.0%	26 35.6%	17 23.3%	24 32.9%	11 15.1%	11 15.1%	6 8.2%
	その他、無回答		24 100.0%	4 16.7%	5 20.8%	4 16.7%	11 45.8%	7 29.2%	— —

5 DVについて

Q22 あなたは、次のような行為がDVになり得ることを知っていますか。

「殴る、蹴るなどの身体的暴力」(98.4%)、「暴言を吐く、無視をする、怒鳴るなどの精神的暴力」(97.6%)、「無理やり性行為を強要するなどの性的暴力」(96.4%)、「生活費を渡さない、外で働くことを許さないなどの経済的暴力」(94.2%)は95%前後と高い回答となっています。「友人や家族等との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなどの社会的暴力」(89.4%)は他に比べ若干低くなっていますが、それでも高い割合となっています。

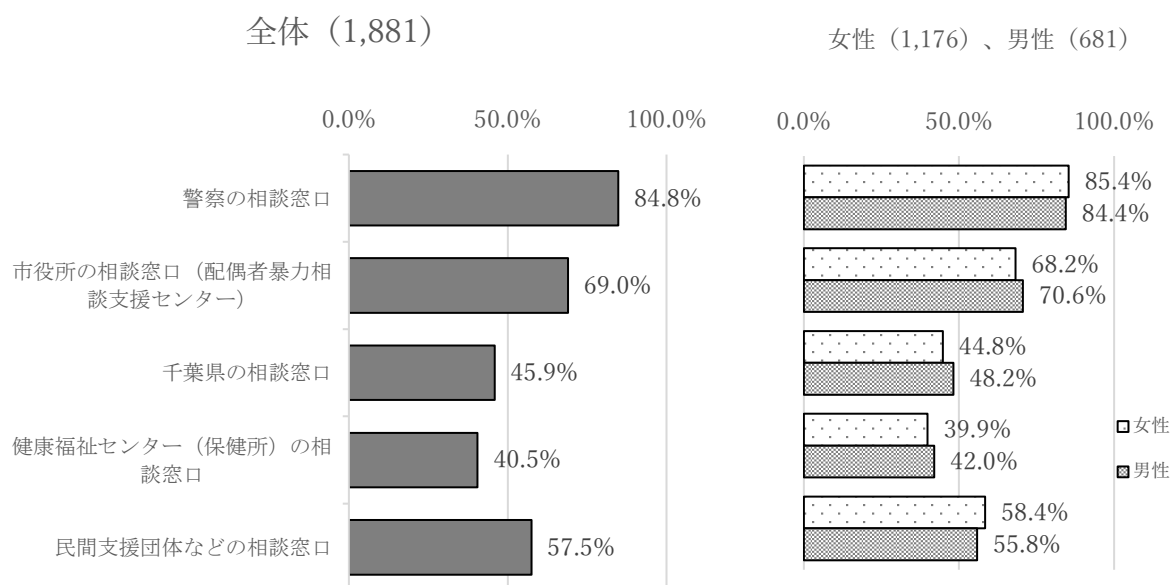
「性的暴力」については女性、「社会的暴力」については男性の回答がそれぞれ若干、高くなっています。



Q23 あなたは、DVを受けた時、選択肢にある機関で相談できることを知っていますか。

「警察の相談窓口」の認知度が最も高く（84.8%）、「市役所の相談窓口（配偶者暴力相談支援センター）」（69.0%）が続いています。一方、「千葉県の相談窓口」（45.9%）や「健康福祉センター（保健所）の相談窓口」（40.5%）の認知度は低くなっています。

男女別に見ると、「市役所の相談窓口（配偶者暴力相談支援センター）」や「千葉県の相談窓口」「健康福祉センター（保健所）の相談窓口」では男性の回答が女性よりやや高く、「民間支援団体などの相談窓口」では女性の認知度（58.4%）が男性（55.8%）を上回っています。

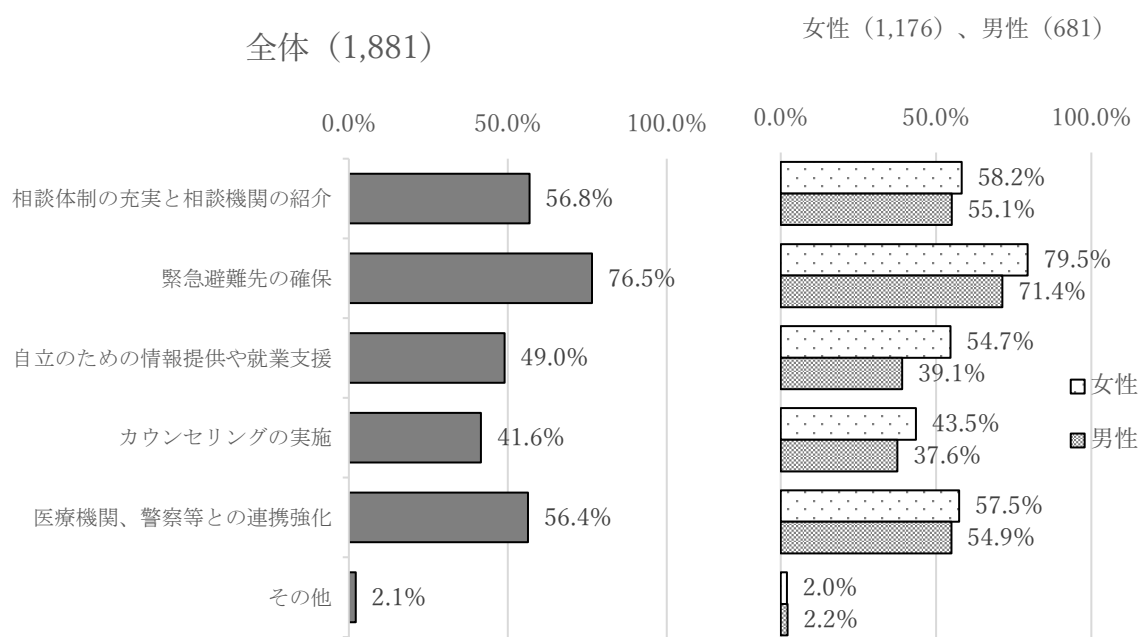


Q24 あなたは、DV被害者への支援として何が必要だと思いますか。あなたの考えに近いと考えるものを選択してください（複数選択可）。

「緊急避難先の確保」が76.5%と最も高くなっています。

「相談体制の充実と相談機関の紹介」「医療機関、警察等との連携強化」も過半数を超えた高い回答となっています。

男女別に見ると、「自立のための情報提供や就業支援」の回答は女性が54.7%と男性の39.1%を大きく上回っています。また、全ての項目で女性が男性の回答を上回っています。



男女別、年齢別で見ても「緊急避難先の確保」は性別・年齢に関わらず全年齢層で高い回答となっています。

DV 被害者への支援として必要だと思うこと（性・年代別）

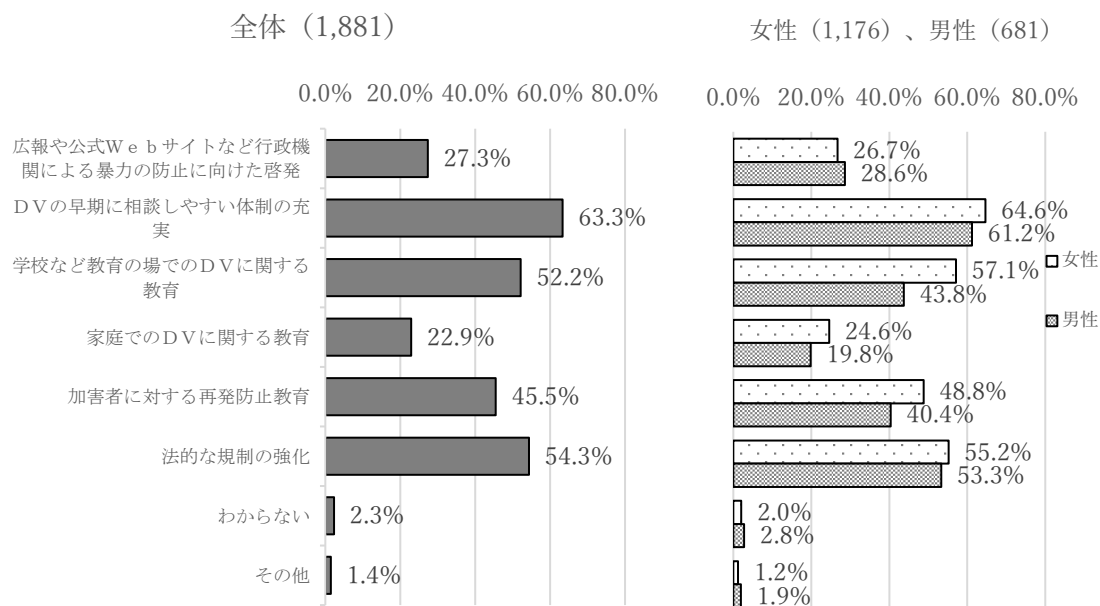
			全体	相談実態の紹介 充実との相制 機関の相制の 紹介の相制の	緊急避難先 の確保	自立の支援 や就情の 業報の 支提の 援供の	カウンセリング の 実施	警察等との 連携強化 医療機関 との	その他
全体			1881 100.0%	1069 56.8%	1439 76.5%	921 49.0%	782 41.6%	1060 56.4%	40 2.1%
性・年代別	女性	計	1176 100.0%	685 58.2%	935 79.5%	643 54.7%	512 43.5%	676 57.5%	23 2.0%
		20歳未満	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	— —	1 50.0%	2 100.0%	— —
		20歳代	55 100.0%	28 50.9%	40 72.7%	21 38.2%	19 34.5%	32 58.2%	2 3.6%
		30歳代	167 100.0%	102 61.1%	136 81.4%	98 58.7%	89 53.3%	101 60.5%	6 3.6%
		40歳代	268 100.0%	152 56.7%	207 77.2%	149 55.6%	114 42.5%	161 60.1%	9 3.4%
		50歳代	406 100.0%	234 57.6%	327 80.5%	235 57.9%	181 44.6%	225 55.4%	4 1.0%
		60歳代	206 100.0%	117 56.8%	167 81.1%	101 49.0%	79 38.3%	118 57.3%	2 1.0%
		70歳以上	72 100.0%	50 69.4%	57 79.2%	39 54.2%	29 40.3%	37 51.4%	— —
	男性	計	681 100.0%	375 55.1%	486 71.4%	266 39.1%	256 37.6%	374 54.9%	15 2.2%
		20歳未満	6 100.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%	3 50.0%	— —
		20歳代	38 100.0%	18 47.4%	28 73.7%	21 55.3%	18 47.4%	14 36.8%	— —
		30歳代	102 100.0%	46 45.1%	66 64.7%	29 28.4%	37 36.3%	50 49.0%	3 2.9%
		40歳代	155 100.0%	88 56.8%	114 73.5%	69 44.5%	61 39.4%	83 53.5%	6 3.9%
		50歳代	173 100.0%	93 53.8%	126 72.8%	57 32.9%	66 38.2%	101 58.4%	3 1.7%
		60歳代	134 100.0%	87 64.9%	100 74.6%	56 41.8%	40 29.9%	83 61.9%	2 1.5%
		70歳以上	73 100.0%	42 57.5%	50 68.5%	32 43.8%	31 42.5%	40 54.8%	1 1.4%

Q25 あなたは、DVの防止に向けて、どのような対策が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選択してください（複数選択可）。

「DVの早期に相談しやすい体制の充実」が63.3%で最も高く、「学校など教育の場でのDVに関する教育」（52.2%）と「法的な規制の強化」（54.3%）も過半数を超えています。

また、「加害者に対する再発防止教育」も45.5%と比較的高い回答となっています。

男女別に見ると、「広報や公式Webサイトなど行政機関による暴力の防止に向けた啓発」以外は男性より女性の回答が多く、特に「学校など教育の場でのDVに関する教育」や「加害者に対する再発防止教育」は女性の回答が高くなっています。



男女別、年代別に見ても「早期相談体制」「法的規制」は全年齢層で回答が高くなっています。また、「教育」については30代以降の世代で女性が男性の回答を上回っています。

DVの防止に向けて重要だと思う対策（性・年代別）

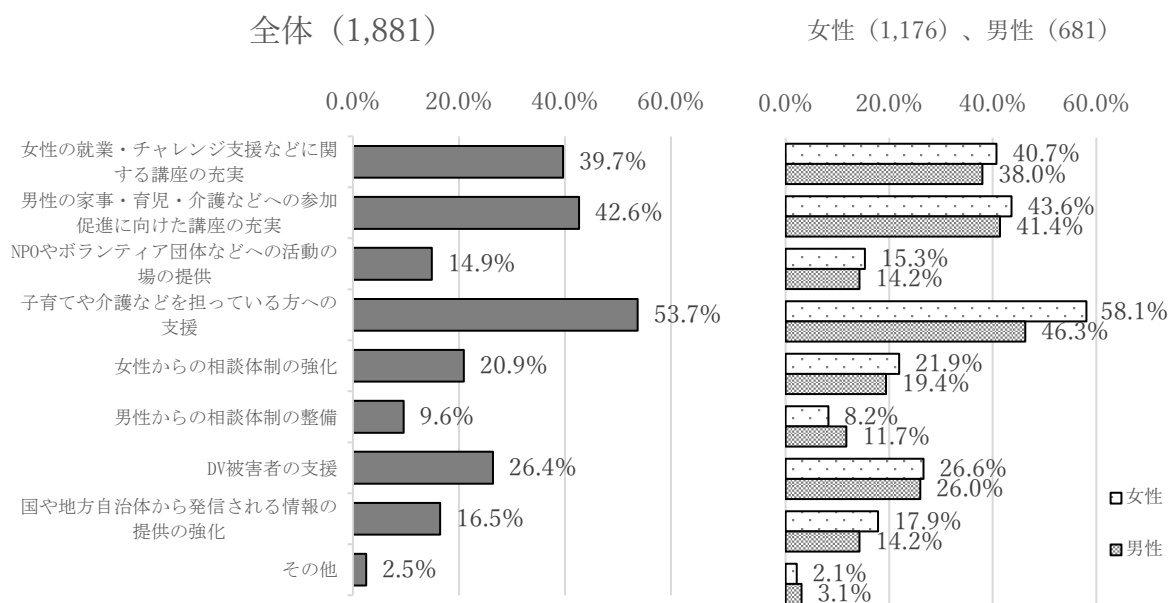
			全体	広報や公式Webサイト など行政機関による暴力 の防止に向けた啓発	DVの早期に相談し やすい体制の充実	学校など教育の場での DVに関する教育	家庭でのDVに関する 教育	加害者に対する再発 防止教育	法的な規制の強化	わからない	その他
全体			1881	514	1191	981	431	856	1022	43	27
			100.0%	27.3%	63.3%	52.2%	22.9%	45.5%	54.3%	2.3%	1.4%
性・年代別	女性	計	1176	314	760	672	289	574	649	24	14
			100.0%	26.7%	64.6%	57.1%	24.6%	48.8%	55.2%	2.0%	1.2%
		20歳未満	2	1	1	—	1	2	2	—	—
			100.0%	50.0%	50.0%	—	50.0%	100.0%	100.0%	—	—
		20歳代	55	12	28	24	14	26	23	3	2
			100.0%	21.8%	50.9%	43.6%	25.5%	47.3%	41.8%	5.5%	3.6%
		30歳代	167	26	106	88	48	93	102	3	3
			100.0%	15.6%	63.5%	52.7%	28.7%	55.7%	61.1%	1.8%	1.8%
		40歳代	268	67	159	157	73	138	153	7	5
			100.0%	25.0%	59.3%	58.6%	27.2%	51.5%	57.1%	2.6%	1.9%
		50歳代	406	118	271	236	97	186	215	6	4
			100.0%	29.1%	66.7%	58.1%	23.9%	45.8%	53.0%	1.5%	1.0%
		60歳代	206	63	146	122	35	103	117	4	—
			100.0%	30.6%	70.9%	59.2%	17.0%	50.0%	56.8%	1.9%	—
		70歳以上	72	27	49	45	21	26	37	1	—
			100.0%	37.5%	68.1%	62.5%	29.2%	36.1%	51.4%	1.4%	—
	男性	計	681	195	417	298	135	275	363	19	13
			100.0%	28.6%	61.2%	43.8%	19.8%	40.4%	53.3%	2.8%	1.9%
		20歳未満	6	1	2	2	—	3	4	—	—
			100.0%	16.7%	33.3%	33.3%	—	50.0%	66.7%	—	—
		20歳代	38	7	25	19	14	14	14	—	—
			100.0%	18.4%	65.8%	50.0%	36.8%	36.8%	36.8%	—	—
		30歳代	102	24	48	34	20	41	56	5	1
			100.0%	23.5%	47.1%	33.3%	19.6%	40.2%	54.9%	4.9%	1.0%
		40歳代	155	45	88	76	36	64	75	2	5
			100.0%	29.0%	56.8%	49.0%	23.2%	41.3%	48.4%	1.3%	3.2%
		50歳代	173	51	104	72	34	67	97	5	4
			100.0%	29.5%	60.1%	41.6%	19.7%	38.7%	56.1%	2.9%	2.3%
		60歳代	134	43	95	62	20	61	77	3	2
			100.0%	32.1%	70.9%	46.3%	14.9%	45.5%	57.5%	2.2%	1.5%
		70歳以上	73	24	55	33	11	25	40	4	1
			100.0%	32.9%	75.3%	45.2%	15.1%	34.2%	54.8%	5.5%	1.4%

6 市川市男女共同参画センターについて

Q26 今後、男女共同参画センターを強化または新たに実施すると良いと思う事業は何ですか。あなたの考えに最も近いものを選択してください（3つまで選択可）。

「子育てや介護などを担っている方への支援」が53.7%と最も高く、「男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実」(42.6%)、「女性の就業・チャレンジ支援などに関する講座の充実」(39.7%)が続いています。

「男性からの相談体制の整備」を除き、女性の回答が男性を上回っています。



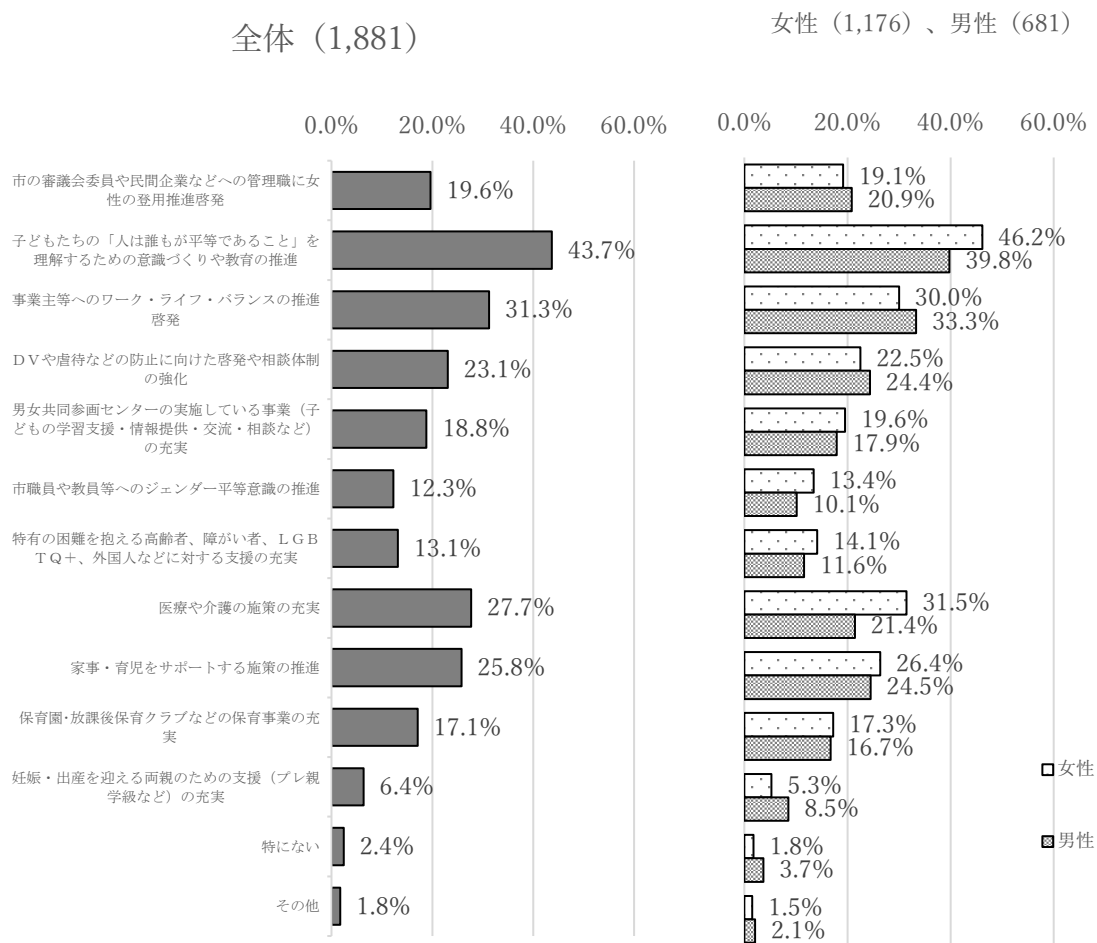
7 市の施策や事業に期待すること

Q27 男女共同参画社会を実現するため、今後、市は何に力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで選択可）。

「子どもたちの「人は誰もが平等であること」を理解するための意識づくりや教育の推進」が43.7%と最も高くなっています。

「事業主等へのワーク・ライフ・バランスの推進啓発」（31.3%）や「医療や介護の施策の充実」（27.7%）「家事・育児をサポートする施策の推進」（25.8%）が続いています。

「医療や介護の施策の充実」は、女性の回答が男性より10ポイントほど高くなっています。「事業主等へのワーク・ライフ・バランスの推進啓発」「DVや虐待などの防止に向けた啓発や相談体制の強化」「妊娠・出産を迎える両親のための支援の充実」は男性の回答が女性の回答を上回っています。



男女別、年代別に見ると、「家事・育児をサポートする施策の推進」は男女とも 30 歳代が最も高く、「子どもたちへの教育の推進」は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られます。

男女共同参画社会を実現するため、
今後、市が力を入れていくべきだと思うこと（性・年代別）

		全体	市の審議会委員や民間企業などへの管理職に女性の登用推進啓発	子どもたちの「人是谁もが平等でづくりや教育の推進	事業主等へのワーク・ライフ・バランスの推進啓発	DVや虐待などの防止に向けた啓	男女共同参画センターの実施して提供・交流・相談などの学習支援・情報	市職員や教員等へのジェンダー平等意識の推進	特有の困難を抱える高齢者、障がい者、LGBTQ+、外国人などに対する支援の充実	医療や介護の施策の充実	家事・育児をサポートする施策の推進	保育園・放課後保育クラブなどの保育事業の充実	妊娠・出産を迎える両親のための支援（プレ親学級など）の充実	特にな	その他
全体		1,881	369	822	588	434	354	231	247	521	485	321	120	46	33
		100.0%	19.6%	43.7%	31.3%	23.1%	18.8%	12.3%	13.1%	27.7%	25.8%	17.1%	6.4%	2.4%	1.8%
性・年代別	計	1,176	225	543	353	265	230	158	166	370	310	203	62	21	18
		100.0%	19.1%	46.2%	30.0%	22.5%	19.6%	13.4%	14.1%	31.5%	26.4%	17.3%	5.3%	1.8%	1.5%
	20歳未満	2	1	1	-	1	-	-	-	2	1	-	-	-	-
		100.0%	50.0%	50.0%	-	50.0%	-	-	-	100.0%	50.0%	-	-	-	-
	20歳代	55	9	20	22	5	6	6	8	10	19	17	9	2	1
		100.0%	16.4%	36.4%	40.0%	9.1%	10.9%	10.9%	14.5%	18.2%	34.5%	30.9%	16.4%	3.6%	1.8%
	30歳代	167	31	57	56	36	23	20	14	44	78	48	22	1	8
		100.0%	18.6%	34.1%	33.5%	21.6%	13.8%	12.0%	8.4%	26.3%	46.7%	28.7%	13.2%	0.6%	4.8%
	40歳代	268	46	121	90	54	55	37	36	74	74	43	10	6	4
		100.0%	17.2%	45.1%	33.6%	20.1%	20.5%	13.8%	13.4%	27.6%	27.6%	16.0%	3.7%	2.2%	1.5%
	50歳代	406	70	187	114	102	82	53	53	150	87	50	14	10	4
		100.0%	17.2%	46.1%	28.1%	25.1%	20.2%	13.1%	13.1%	36.9%	21.4%	12.3%	3.4%	2.5%	1.0%
	60歳代	206	43	111	51	52	46	33	43	72	43	33	4	-	1
		100.0%	20.9%	53.9%	24.8%	25.2%	22.3%	16.0%	20.9%	35.0%	20.9%	16.0%	1.9%	-	0.5%
	70歳以上	72	25	46	20	15	18	9	12	18	8	12	3	2	-
		100.0%	34.7%	63.9%	27.8%	20.8%	25.0%	12.5%	16.7%	25.0%	11.1%	16.7%	4.2%	2.8%	-
	計	681	142	271	227	166	122	69	79	146	167	114	58	25	14
		100.0%	20.9%	39.8%	33.3%	24.4%	17.9%	10.1%	11.6%	21.4%	24.5%	16.7%	8.5%	3.7%	2.1%
	20歳未満	6	-	2	-	-	-	2	2	2	-	-	-	-	-
		100.0%	-	33.3%	-	-	-	33.3%	33.3%	33.3%	-	-	-	-	-
	20歳代	38	5	17	11	8	3	3	4	8	11	6	7	2	-
		100.0%	13.2%	44.7%	28.9%	21.1%	7.9%	7.9%	10.5%	21.1%	28.9%	15.8%	18.4%	5.3%	-
	30歳代	102	11	28	40	19	8	10	5	23	42	30	14	2	1
		100.0%	10.8%	27.5%	39.2%	18.6%	7.8%	9.8%	4.9%	22.5%	41.2%	29.4%	13.7%	2.0%	1.0%
	40歳代	155	33	55	67	30	18	18	12	26	52	33	16	6	6
		100.0%	21.3%	35.5%	43.2%	19.4%	11.6%	11.6%	7.7%	16.8%	33.5%	21.3%	10.3%	3.9%	3.9%
	50歳代	173	44	67	55	56	29	6	18	40	34	20	12	10	2
		100.0%	25.4%	38.7%	31.8%	32.4%	16.8%	3.5%	10.4%	23.1%	19.7%	11.6%	6.9%	5.8%	1.2%
	60歳代	134	32	68	28	37	37	24	24	30	16	19	8	3	3
		100.0%	23.9%	50.7%	20.9%	27.6%	27.6%	17.9%	17.9%	22.4%	11.9%	14.2%	6.0%	2.2%	2.2%
	70歳以上	73	17	34	26	16	27	6	14	17	12	6	1	2	2
		100.0%	23.3%	46.6%	35.6%	21.9%	37.0%	8.2%	19.2%	23.3%	16.4%	8.2%	1.4%	2.7%	2.7%
	その他・回答しない	24	2	8	8	3	2	4	2	5	8	4	-	-	1
		100.0%	8.3%	33.3%	33.3%	12.5%	8.3%	16.7%	8.3%	20.8%	33.3%	16.7%	-	-	4.2%

◆自由記入

全回答者1,881人中、女性113人、男性60人、性別無回答2人の計175人の回答が寄せられました。

年代	女性	男性	無回答	合計
20歳代	2	3		5
30歳代	18	7		25
40歳代	27	11	1	39
50歳代	37	13	1	51
60歳代	17	15		32
70歳以上	12	11		23
合 計	113	60		173

※ここでは寄せられた意見を性・年代別に基本的に原文のまま掲載します。

自由意見	性別	年代
柏市の子育て支援が有名であったり、浦安市の産後ケアが充実していたりする中で、市川市は妊婦のタクシー補助がせっかくできたのになくなってしまいうなど、若い夫婦への支援が弱い印象を受けます。結婚を機に市川市に戻り、これからここで子育てをする可能性がある立場としては、補助の復活など支援が充実することに期待したいです。	女性	20歳代
①保育園と放課後保育クラブをさらに充実させて欲しい。 現在は放課後保育クラブは月に14日以上就労で申請ができるが月に10-12日ほどの勤務の人でも使えるようにしてほしい。 預けられる場所がなく困っている。 また、保育園は年度途中でも入園できるよう枠を増やして欲しい。 ②男女平等で育児をするために育児・家事をサポートする政策を出してほしい。 現在も女性が共働きで働きながら育児・家事を担っている人の割合が多いと思う。 体力的・精神的にも困窮することが多い。家事やシッターのチケットなどを市が補助してもらえたらありがたいと思う。 ③公共施設の老朽化・建て替えの促進。 特に小学校・中学校の老朽化が目立つようになってきており、子供を預けておくのに心配である。 早急に建て替え・改修を進め安心して子供が通えるようになって欲しい。	女性	20歳代
アンケートの”回答”について、恣意的なものが多い印象でした(各題目に対する設問数の偏りも然り) もう少し幅を持たせないで反発意識が湧いてしまい、こういった問題に取り組もうという意識や意欲が削がれてしまうことを懸念しております	男性	20歳代

自由意見	性別	年代
ICHICOの認知度を上げてほしい。また、ICHICOを使える店舗を増やして欲しい。地域活性化対策としてICHICOは個人的に結構いい政策だと感じました。これからも続けて欲しいです。	男性	20歳代
共同参画センターのような名称の施設を用いた女性向け積み立て投資の講座を目にするが男性向け積み立て投資講座を見たことはない。どういう意図があつてのことか単純に疑問である。 また、今回のアンケートにおいて女性とLGBTQ+についての意見を尋ねられたが男性については1問しかなかった。男性については問題がないとお考えかもしれないが平等を実行できていないものと感じ、男女共同参画において男性の当事者意識は削がれる。 上記講座の件も含め、女性支援を目的にするのであれば名目を変えることを推奨する。	男性	20歳代
市川市は、多少税金高くても制度が充実した平和に生活しやすい街(近接市区との差別化)をテーマにますます発展してほしいです。	女性	30歳代
頑張ってください。アンケートが有意義なものになりますように	女性	30歳代
駅前のムクドリと外国人も何とかしてください	女性	30歳代
出産した女性が働き続けるのは難しい。 2人以上子供を育てるためには夫の支援だけでなく祖父母の支援、職場の理解は必須。どうしても保育園の病児呼び出しは母親が主になる時点で、女性の賃金は上がらない。 子供を養うために稼げば稼ぐ程、重課税になっていくのも疑問。うちには2人小さい子供がいるが、共働きで額面一千万あってもこれ以上産むのは無理。最低限生かすだけなら必要ないかもしれないが、自分達がしてもらった経験を子供に経験させたりは可処分所得の減少、物価上昇、世間の目が厳しくなったりで難しい。	女性	30歳代
妻の出産時に夫側が産院へ通い（できれば泊まり）赤ちゃんの世話をすべて学ぶべきだと思います。そのように仕組みを作り指導していただきたいです。	女性	30歳代
少し本質的なテーマとはずれるかも知れませんが、プレママ・プレパパのセミナーについては、ぜひ第二子の方でも参加できるようにしていただけたら嬉しく思います。第一子の時に参加できなかった（仕事、コロナetc.）方もたくさんいると思います。 実際、妊婦体験をしてみたいと言っていた夫も、第一子の時はコロナ禍で実施しておらず、第二子では受け入れてもらえないとのことで断念せざるを得ませんでした。 そういった支援も充実していただけたら、今後のプレママ、プレパパにとっても有益な知見を得られるのではないかと思います。	女性	30歳代

自由意見	性別	年代
フットワークが軽く、住民の声を取り入れやすい地方自治からクォーター制を取り入れて、ジェンダーギャップ解消の取り組みをしている先進的な地域として内外にアピールした方が良い。 これは、国の法律の範疇ですが、選択的夫婦別姓の推進を市からも主張した方が良い。 都心部で働く子育て世帯が多い地域だからこそ共感や注目を集めると思う。 この、男女共同参画への積極的な活動を市のブランド化に利用した方が良い。 (母になるなら流山よりも市川市の方が立地条件的に有利だと思うから。) このアンケートの選択肢には「広報・周知」が目立つが本当に困っている人は情報に触れて考える余裕すらない。アウトリーチで行政が出向き困っている人を助けた方が良いと思った。 (全て理想ですが)	女性	30歳代
市川市に男女共同参画センターというものがあることを、このアンケートで知りました。もっとアナウンスして周知できたらと思いました。 さて、男女ともに講座で意識改革を目指すとするのは根本的な解決になっていないと常々考えています。なぜなら、講座を受けようという人はすでにこの問題に興味関心があったり意識が高い人だからです。 これらの問題について、大人が偏った意識を変えるというのは難しいことです。ある程度強制力がある法的規制がないと、この問題で本当に困っている人たちは助けられないと思います。 現在は、学校や様々なメディアでこのアンケートに出てくるような問題について子ども達の方が柔軟に受け入れています。 変わる必要があるのは意識なく加害している大人たちです。講座や啓発では何も変わらないので（そもそも自分のことと思わないので）、法的規制をもって強制的に市民全員が関わるようにすることが重要と思います	女性	30歳代
近い将来、性別でのカテゴライズがなくなり、個人としての価値がみいだせるような社会になっていきたいです。	女性	30歳代
こういった企画をしてくれるだけでも取り組もうという意志を感じて嬉しい。 格差は差別されてる側は差を感じるが、差別している側は差を感じず、受け入れる事が大変なので、子どものうちから平等は努力しないと作れないということを教育する方針としてほしい。	女性	30歳代
参画センターに相談に行ったりできる人は逃げられるし、立ち直れると思う。 そこにすら行けない、行かない、行くことができない人達をどう見つけてどう導いてあげるかが課題だと思う。	女性	30歳代

自由意見	性別	年代
女性や性的マイノリティなど、組織の上層や政治の場から排除されがちな属性の人たちの意見や要望が事業や支援に反映されにくいと感じています。全ては難しくとも、少ない声にもまずは耳を傾けてくれる自治体であることを望みます。	女性	30歳代
まずは市川市役所で働く、共働き家庭の方に伺ってみると良いのではないのでしょうか。保育園や学童からの第一連絡先は誰になっていますか？お母さんですか？お父さんですか？何故その順番にしたのですか？お子さんの看病をするのは誰ですか？何故その人なのですか？仕事の調整は？等、聞いてみたらどうでしょうか。官民様々だとは思いますが、恐らく調整させられているのはお母さんが多いのではないのでしょうか。それは何故なのでしょう。市川市を担う職員の方々・市議の方々・市長に考えていただきたい。上辺だけのシステムではなく、根本から考えることで男女共同参画は始まると思います。	女性	30歳代
子どもが小学校に上がった以降の家庭へのサポートの充実	女性	30歳代
どの組織もリーダーが男性であることが当たり前になっている。男性がやりたいというよりも、女性がリーダーは面倒だと感じ、サポート体制に回りがちで、女性の意識を変える必要があると思う。毎回座長を変えるなど、全ての人がリーダーの役割を担えるような環境整備があるといいと思う。	女性	30歳代
男女共同参画だけの問題ではないが、市川市は保育園学童などが不足しがちであるイメージがある。 割と財政は余裕がある方と思うので、流山市や愛知県長久手市の事例などを参考にして子供の預かりを充実させることが男女共同参画につながると思う。	女性	30歳代
春ごろに参加したセンターの講演が男児の加害性を責めるばかりのもので、男女平等のために女性自身ははどう働きかけるべきなのかの内容がなくて酷いものだった。あの時の経験から、男女共同参画センターの講演に行きたくても、あのような偏った姿勢の方をまた呼んでるのではないかと恐ろしくて申し込めていない	女性	30歳代
もっと真摯に向き合ってもらわないと困る。	女性	30歳代
知り合いの家庭を総合的にみて、男が育児・家事にどれだけ貢献するかというのはその人の育った環境に左右されている気がします。 偏見ですが、田舎の亭主関白と専業主婦の家庭で育ったらやはりそれがベースになり、怒鳴られたり叩かれたりしながら育ったらそれがベースになる。行政としてすべきは、親になる前のまだ頭が柔らかい子供たちに対し、「令和の時代では理想的な社会はこういう姿をしているんだよ」と、ある意味洗脳して行くことではないかと。	男性	30歳代

自由意見	性別	年代
子育て世代への支援として、保育園数増加で待機児童は減ったと思います。 次のステージで小学生になった際に、放課後保育の学童に入れるかが不安で なりません。	男性	30歳代
育休取得した者の代わりに仕事を担ってくれる人への、評価をする法律を 作って欲しい。 サポートをしても仕事が増えるだけでは、育休渡りづらくなるし、サポート するもののモチベーションもあがらない人が多いと思う。 宜しくお願い致します。	男性	30歳代
育休取得に関して、取得した者の仕事を代替してくれる人にも何かしらの補 助・評価をされるような法律を作って欲しい。 何も無しだと、育休を取るものも気を遣ってしまい取りづらい現状がある。 代わりにやっても何も無しだと、やり損になるだけで意欲が上がらない者も いる。	男性	30歳代
子供とその親に対して経済的に優しくしてほしい 産もうと思える負担感にしてほしい	男性	30歳代
男女共同参画という言葉自体のイメージで古くて取っつきにくい問題のよう に感じます。 もっと身近に感じられる言葉に代わると良いと思いました。	男性	30歳代
実のある施策にしてください	男性	30歳代
男女参画、男女平等、をすすめるのはよいことだとおもいます。が、質問が 「結婚して家庭がある方」限定の視点のように感じます。独身の女性はさら に除外され参画する想定にないのだろうか？と感じました。 市の行うイベントは子どもたちやファミリー対象のものが多く良いと思いま す、が、逆に、独身で女性の自分が参加できる繋がれるようなイベントには 市川では出会ったこともありません。	女性	40歳代
さらに住みやすい市川市となってほしい	女性	40歳代
市でというよりは社会全体の問題な気がする	女性	40歳代
子育て世帯へのサポートが不十分だと思います。	女性	40歳代
病児保育施設の充実や補助を充実してほしい。	女性	40歳代
女性が本当に働くことを望んでいるのかを見極めたうえで平等にすべきだ と思います。体力の差などもある中で同じ仕事はやはりできないですし、考え 方に偏りも出てくると思いますので、複数の世代の意見を取り入れつつ進め ていくことが重要だと思います	女性	40歳代

自由意見	性別	年代
そもそも男女共同参画というものがある事すら知らなかった。アンケートをやっているととても良い取り組みだと思った。 市川市が力を入れている（入れようとしている）なら知ってもらわなければ意味がないので、もっともっと発信して行った方がよいと思います。	女性	40歳代
これを行なった事により、どのように改善されたかを聞いた事がないのでそれが皆さんにわかるようにしていただけるとありがたいです。	女性	40歳代
男女共同参画という言い方をまず変えた方が良い	女性	40歳代
子どもに対する取組よりも、子どもの手本となれる大人が身近にたくさんいるようにしていくことが重要だと思う	女性	40歳代
余計なことに予算を使わず、市川市のブラック企業を撲滅してください。 ハローワークの求人は、年間休日が短かく勤務時間が長いのに給料が安かったり、驚くような求人が載っているので、企業に改善するように伝えるようにしてください。	女性	40歳代
DVによる住所非公開の支援処置で毎回証明書をもらわないといけない制度を変えて欲しい。毎回仕事は休めません。	女性	40歳代
子供が体調崩した際の医療保育の充実。 子供の室内で遊べる施設(アスレチック、トランポリン、ボルタリング、プール等)の充実。 小中学校をどこに行くか自由選択制で可制度。	女性	40歳代
女性が声を上げられる機会を増やすようにしてもらいたい。	女性	40歳代
そういう機関があることを初めて知りました。正直、私を含めて世の中の女性は既に諦めている人も多いと思います。 特に日本は世界の先進国の中でも女性が生きづらい、相変わらず男女不平等の国なので。これが是正されない限りは少子化が進み、どんどん人口も減り続けるだろうと思っています。政治家も経済界も動かしてるのは前時代的な考えのお爺さんばかり。今までもこの先も変わらないだろうと期待していません。 先行きが悪化しても何とか生きていけるよう、資産運用だけは抜かりなくやっています。	女性	40歳代
男女参画センターのことを知らない人がまだまだいるので、もっと周知されたら良いと思う。	女性	40歳代
結婚していない人、子供が居ない人、安月給でこき使われてる人等にも平等に目を向けて欲しいです。対象で無い人にも平等に支援を。	女性	40歳代

自由意見	性別	年代
地域団体や自治会などで活動していると、主に高齢の方の無自覚な差別が気になる。「女のくせに」と言われることはなくなってきたが、口に出していないだけだと感じることもある。子どもは特に軽視されていて、具体的には「男子が日焼けなど気にするな」「子どものくせに座るな」などの声かけ、住所氏名などの個人情報蔑ろにするなど。やんわり意見を伝えるようにはしているが、あまり聞いてもらえない。あの年代の価値観を変えるのは相当難しいと思うが、若い世代や子どもたちとの活動を希望してボランティアに来るのだから、昔の常識のままでは困る。ボランティア登録時に講座を受けるなどして意識を高めてから現場に出てほしい。どんな言動がアウトかというより、すべての人を尊重するという意識が必要。	女性	40歳代
病児保育の充実	女性	40歳代
新しい未来のために、女性が働いたり、自立して社会に参画していく支援をしてもらいたいです。現在30後半～50代前半の専業主婦で、子育てが落ち着いたので働こうかな、と悩んでいる世代を応援してもらえたら嬉しいです。（それより下の世代は、始めから就労継続の共働き世帯が多いような気がしています） また、子育てが落ち着き（幼稚園～学童期）もう一度就労をと考える母たちの一番の心の足枷が子どもたちへのサポートの少なさです。（フルタイム出ない場合は、学童も入れず） 母親たちが、自分たちの能力を少しでも社会に還元できるよう、未来の子どもたちへのサポートを充実してもらえれば、と思います（パートタイムでも利用できる、たとえば気軽な学童や、学童がわりの習い事等、寺子屋的な居場所づくり 費用支援など）	女性	40歳代
少なくとも20年前からウィズがあり、図書室に関連資料を数多く集め、男女共同参画をうたっていますが、この20年間で出産・育児をしている間、市の男女共同参画関連活動が役立っている・助けられたと感じたことは一度たりともありません。特に保育園や学校現場で「お母さん頑張って」「みんなこうしている」と教職員の方から言われることが多く、心が折れたことは一度や二度ではありません。「地域のために」という言葉の元、学校の集金やPTA活動・地域活動などの自発的・自主的ではない押し付けられた活動で、無償で労働力を提供させられてきたことに強い憤りを感じております。出産前はあまり感じなかったのに、母親になり育児をするようになってから「女性だから」という理由で軽く見られたり、地域活動で行政の下請けのようなことをやらされることに衝撃を受けました。本来行政がやるべきことを自治会・PTAに押し付けている市の姿勢を変えるべき。	女性	40歳代
夫と別居しています。dvを受けています。でも正社員のため受けられる支援が少ないです。私を殺す気ですか？	女性	40歳代

自由意見	性別	年代
男女共同参画では、主に人権についての教育を強化して行ってほしいです。小さい頃から、他者への尊厳を重んじて差別をなくし、お互いに人として認め合う事ができれば、犯罪へつながるような認知の歪みや感覚のズレなども小さくできるのではないかなと思います。	女性	40歳代
■自閉症児を育てています。放課後デイサービスでの療育を希望していますが、数が多く、安心して預けられる場所を見つけるのが大変です。仕事を続けるために、良質で安心な場がほしいです。	女性	40歳代
特定の市民だけが差別優遇することなく、市政の中で皆が平等にいられるような施策をお願いします。 税金を無駄にしないよう、お金の使い道についてはよく精査していただければと思います。	女性	40歳代
お年寄り(祖父祖母などの世代)が受け入れてくれないと難しいと思います。	女性	40歳代
何かしたいけど出来ない、事を無くし、できる方向に持っていけたら良いなと思いました。市の取り組みに中々参加までできて居ないのですが、想像以上に色々と考えて地域を良くしようとする人はいる様で嬉しい限りです。八幡宮の骨董市や、朝市など、講演会や文化に関することも。縦のつながりもできていくと良いなと思っています。	女性	40歳代
下手なこととして血税使うのはやめてください NPO法人とかいう中抜き団体とか撲滅を	男性	40歳代
能動的なアウトリーチ	男性	40歳代
なかなか難しい問題である。逆差別にならないように気をつけなければいけない。	男性	40歳代
共働きで経済的余裕を獲得しようとする親とひとりになってしまう子ども。共働きを否定は出来ない。子どもの孤立はいい大人にならない。学校からかえる場所が家以外にあってもいいのではないか。	男性	40歳代
LGBTQを盾におかしな言い訳やルールを認めないで欲しい。	男性	40歳代
結果の平等ではなく機会の平等に勤めてほしい。昨今の女性優遇は行き過ぎです。	男性	40歳代
過度に女性側の意見を反映しすぎることがないように気をつけて欲しい。	男性	40歳代
特に就業において、片親が育児で退職せざるを得ないことをどうにかするのが公的部門の最優先。今後は労働者不足になるため、女性が活躍できない会社は自然淘汰されるので啓発などへの出費は大して意味がない。	男性	40歳代
仕事をしてください	男性	40歳代
応援しています！	男性	40歳代

自由意見	性別	年代
まずは市川市の模範として、市川市役所という組織が理念を持ちつつ、体現するべきではないかと思う。それが結果として実を結んだ時に初めて、市川市民や市川市の法人にもその文化、慣習が伝わると考えている。	男性	40歳代
伊藤や鈴木はいません	回答しない	40歳代
何に付けても常に「男女」という語順なのがかねてから気になるので率先して時々「女男」を使ってみると先進的なのではと思います	女性	50歳代
少数派の尊重が多数派の犠牲の上に成り立つことがないように、少数派も多数派も、それぞれが平等に尊重されるよう願います。	女性	50歳代
DVについて、自分はよく知っていないのがわかりました。このアンケートが良いきっかけになりました。	女性	50歳代
行政の問題ではありませんが、市議会議員に女性が少なすぎると思います。もし女性が立候補するのに何らかの支障が存在するなら、それを軽減するための手助けを市として行えないかと考えます。仕事があったり子供がいても選挙活動や議員活動がしやすい環境であれば、女性のみならず男性にとっても好ましいはず。長い目で見れば、男女同数で様々な年代の方が議員でいる方が市にとっても市民にとってもプラスになると 생각합니다。男女共同参画推進のためにはこうした方面からのアプローチも欲しいです。	女性	50歳代
中学校や高校の制服がスラックスやキュロットからも選択できるようになった学校が増えたことはLGBTQを考慮した改革なのだと思います。しかし、人によってはカミングアウトの時期を強制されていると感じる人もいないのかと私は思いました。社会が正しく理解し、カミングアウトという認識ではなく、自然なことと捉えられる社会になるといいと思います。	女性	50歳代
啓発教育、相談できることなどが大事だと感じます。	女性	50歳代
男女共同参画センターの存在をこのアンケートで知りました。良い取り組みですね。ますますの発展に期待しています。	女性	50歳代
センターの名前が硬すぎて悪いので、もう少しイメージチェンジするために変えたほうが身近に感じられると思う。	女性	50歳代
「男女共同参画」というネーミングが分かりづらい 興味のある各講習会情報があったら出席したい	女性	50歳代
市川市のHPに男女共同参画センターのWindowがあることも知りませんでした。開いて見ます。	女性	50歳代
男女は生物学的な体力差や、能力差などがあると思います。なんでもかんでも平等にしたら良いではなく、性別ごとに適性に合った仕組みができてほしい。	女性	50歳代
男性も女性も意識改革をして行かなければ！！	女性	50歳代

自由意見	性別	年代
男女は身体的に既に平等ではありません。 が、結婚、子育てで、女性も働かなくてはならない社会保証制度です。子供を命懸けで産む女性が増え、生き生きと子育てできる社会になってほしいものです	女性	50歳代
児童館で子供を遊ばせている間に相談、勉強できるところになれば利用しやすいと思う	女性	50歳代
男女共同参画条例がちょっと？微妙に？違和感があります。「男女平等」ではなく「男女対等」。 そして「男らしさ」「女らしさ」「父性」「母性」がもとめられている？ 「家庭」が重視されている？ ジェンダーフリーが当たり前になっている今「個人」や「多様性」をきちんととうたうべきでは？ 家父長制みたいなものがやんわり肯定されていて気持ち悪い。 市川市の立場として世界標準の男女平等をきちんととうたったものにするべきではないでしょうか？ なんだか微妙にツッコミ所満載の恥ずかしい条例でびっくりしました。	女性	50歳代
一週間、男性が全ての家事をやる というのを市川市でやってみてほしい。 仕事をしながら、家事をする大変さや、 名も無い家事に気がついてほしいものです。 Q12 分担してとありますが、分担すると、1対9で、妻がやる事になりそうです。 家事を理解してもらわないと、男女共同参画はありえない。	女性	50歳代
生まれてからずっと市川市に住んでいます。 治安も良く、便利で良い土地と思っていますが、より暮らしやすく発展するならば、実際には殆どの時間を都内等に働きに出ている男性よりも、地元で過ごす時間が長いであろう女性達の視点は欠かせません。 是非とも幅広い世代の女性市民の声を聴き施策に取り入れて頂きたいと思います。	女性	50歳代
特に高齢の方々は理解されていない場面をよく見ます。子供の世代へも大切ですが、高齢者の理解をさせること、そのものが必要な気がします。	女性	50歳代
最低賃金の底上げ	女性	50歳代

自由意見	性別	年代
高齢化社会の日本において、いくら働き盛りの世代への支援や啓発を推進しても、男社会・家制度で生きてきた親世代が古い考えと価値観で足を引っ張っています。彼らに現代社会における価値観の変化、男女平等、ジェンダー平等を理解させない限り、男女共同参画は難しい。 産後や育児中の社会復帰を希望しても、立場上強い義両親が反対する。特に姑は同性なのに考えの古い、味方にはならない高い壁。働き盛りの当事者に啓発する以上に、昭和世代65歳以上の高齢者を対象とした啓発を促進して欲しい。明るみに出ない親世代の壁が、現代女性らの足を陰で引っ張る一番の原因であることに社会は気付いて欲しい。義母の反対で精神的に追い込まれ、積み上げてきたキャリアを捨てざるを得ず社会復帰を諦めた私のような女性たちが少しでも減るような取り組みを切に望みます。	女性	50歳代
なかなか周知するのは難しいが発信し続けていくしかない。	女性	50歳代
啓発講座に参加してもらうのを待っているのではなく、例えば公民館やスポーツセンターでの活動や行事で集まっている人達に向け、チラシ配りと2、3分の話をしたりしてきっかけ作りをする。若い人よりも高齢者の方が意識が低いと思うので。	女性	50歳代
頑張ってください	女性	50歳代
ベルヴィの活動の日を市報の小さな記事ではなく、図書館など、大きなチラシを公民館の壁や銀行に貼って欲しい。とても良い事業であり、参加もしています。実際にDVで、生活費を止められているが、相談窓口は知ったが生活は楽にならずむしろ苦しいが、ベルヴィのスタッフと触れ合う事で気持ちを和ませて我慢している。ナプキンの支援とか、食料品の支援とか、開催日に、支給してくれたら嬉しい。千葉県の千葉市並に、講座とか、開催して欲しい、世田谷区の男女共同参画センターみたいな、相談体制を至急開催して欲しい。	女性	50歳代
このようなアンケートで色々と勉強になったのもあります。ありがとうございました。	女性	50歳代
日本の政界もそうですが、これを意識し過ぎて、無理矢理女性を要職に登用するような風潮には違和感があります。 仕事はあくまで能力重視で評価されるべきと考えます。 野田市で、学校の教師にSOSを出していたにも関わらず親からの暴力を止められなかった事件があったかと思いますが、大人の女性だけでなく、虐待を受けている子供が安全に助けを求められる場が必要だと思います。 市川市は教育熱心な保護者も多いこともあってか、経済的及び知的レベルの高い保護者による子供への言葉の暴力も子育て中にしばしば目にしました。 殴る蹴るの暴力だけでなく、多感な時期に親から受ける言葉の暴力がもたらす結果を考えると、子供達が親に知られずに相談できる場があっても良いのではないかと思います。	女性	50歳代

自由意見	性別	年代
高齢者へのモラルの徹底。 歩きタバコ、唾を吐く、自転車に乗っての喫煙、ハラスメントをしている意識が低すぎます。	女性	50歳代
アンケートを実施されていることから市川市の取り組みがうかがえました。 このようにアンケートで発信されると頭の中に入ってきます。	女性	50歳代
女性に男性化を強要するのは男女平等とは言えない。女性が女性であることのハンデを補う政策は必要だと男性に理解を促して欲しい。極端に言えば、ウチの会社は男女格差はありません。なので産休も生理休暇ありません…では平等でない。	女性	50歳代
医療や介護の施策の充実（今は全く足りてないと思う）社会の弱者に対して一般人と同じ生活ができるような支援を絶え間なくうけられることを切に望む	女性	50歳代
介護や仕事で家事が疎かになってしまいそうな時に、ちょっとした事や短時間だけ利用できるサービスがあると嬉しい！	女性	50歳代
定員になどあると思うが、子供が複数人いても、同じ保育所に預けられる様にしてほしい。多少の発熱や風邪程度なら、別室にて看護資格のある方にみてもらえたら、母親ばかり休まずに済むのになと考える。	女性	50歳代
自己啓発等の講座や講演、セミナーの企画を増やして欲しい （女性と子どもの）護身術の講座を企画して欲しいです 女性の為の法律相談（弁護士）の相談回数と頻度をもう少し緩和していただけるとありがたいです	女性	50歳代
友人がモラルハラスメントと経済DVを配偶者から受けていました。しかし友人は自分が受けているそれらのことがDVとは認識していませんでした。気づかずに困難な状況にある女性が多いと思います。もっと周知される方法を考えていただけますと幸いです。 また千葉県では学校の名簿が男女別と聞きました。東京都では9割以上が男女混合です。こういった小さなことの積み重ねで、男性優位という意識を子供たちに植え付けると思います。教育の場では性別で能力や適正に差があるような振る舞いではなく、平等で偏見のない指導をお願いしたいです。	女性	50歳代
市川市では、主権者教育について、小学校から模擬選挙など行って、若者が政治に関心が持てる授業、教育を行ってほしい。	女性	50歳代
講座を開催する際には、気軽に参加出来るよう、駅ビル内のイベントスペースで、平日夕方の時間にするなどしてほしいです。	女性	50歳代
女性の支援も大切ですが、それは随分と充実してきた様子なので、今後は男性の視野を拡げる支援をお願いします	女性	50歳代

自由意見	性別	年代
費用対効果を考えて行動してほしいのと、定期的に効果検証をして欲しい。 要は無駄金使うな！	男性	50歳代
個人と企業と両方への働きかけが必要と思う	男性	50歳代
月並みでは無い、独自のプランをぜひ持ってください。	男性	50歳代
既に実施済みでしたら申し訳御座いません 職員の採用数を男女同じにする 世代間の男女比率を合わせるため中途採用を募集し、新規採用は男女同じ人数を採用する	男性	50歳代
子育て支援にまわすべきだし、これだけ任用職員の時給が高いのはおかしい。	男性	50歳代
何を活動しているか、 どこに問い合わせするかを、広くアナウンスして欲しい	男性	50歳代
ある特定の団体に税金を投入するような余計なことはしないでほしい。	男性	50歳代
アンケート項目に学校で行うみたいな回答があったが、学校は何でもやる場所ではない。もしどうしても学校でやるのなら市の職員が自ら事業計画を立てて、市内全校に問い合わせ、計画をたてればよい。 学校にポスターやチラシを配布するだけでは効果はかなり低い	男性	50歳代
専門性の高い知識や経験をもった職員の採用	男性	50歳代
市川市が男女共同参画について、どのような取り組みを積極的に行っているのかが、市民に対して十分発信されていないように思われます。	男性	50歳代
市が率先して、まずは、自分たちから市役所内を変えていくことが大事だと思う。	男性	50歳代
識者の意見が割れている男女共同参画の定義に納得できるものと無いものがある限り無駄な事だと思います	男性	50歳代
左翼的講師迎えての講演会はするな	男性	50歳代
入試問題に近年、女性の家事育児介護などのアンペイドワークについての、問題が増えている。国連でも議論がなされている。とくに男子校の入試問題で。男子学生が「女性の平均労働時間と家事時間がほぼ同時間なのに、対し、男性は仕事の時間がほとんどで、家事は平均1週間50分、非常に少ないというのに驚いた」とはなしていた。グラフや図の方が、男女差別などへの理解が深まるのだと知った。また、全然知らないのだなとも感じた。ケアは男性もできる。当たり前だが、ケアは女性の方が向いているという偏見は根強い。教育は素晴らしい。まあ、青山学院など難関私立は男女の合格得点をオープンにしているが、女性の方が合格得点が高い。女性は優秀でもある。職場では、伊藤忠商事のように出生率が爆上がりしている会社もある。朝型、ノー残業。	回答しない	50歳代

自由意見	性別	年代
今日本において、市政、国政を担っている人達が男女の平等について真剣に考える事は不可能に近いと感じる。ここ10年～20年で変わらないと思うが、その先に希望を待ち、少しでも前進することを希む。	女性	60歳代
昭和時代に生まれた特に中高年の我々、またその世代に育てられた人たち。頭ではわかっているけどいろんなことがアップデートできていない、なかなか理解できない、ゼネレーションギャップについていけないなど。その世代がまずは理解し、これからの人たちを応援しなければと思います。また女性だけに目が向きがちですが、男性だって辛いことはたくさんあると思います。	女性	60歳代
最近では、上記の言葉が、耳に入りどんな事だろう？と私自身、興味を持っています。 だから、このような言葉、相談場所など身近に感じられるよう、子どもから、大人まで、誰にでもわかりやすく、身近に感じられる冊子づくりなどからスタートし、知る！からが大事ではないでしょうか？ 住みやすい街、市川市であってほしいと願います。	女性	60歳代
これからも色んな人の意見を聞いて、進めて欲しいと思います。	女性	60歳代
実態を知らないのになんともいえないが、市議や公務員の女性比率と、ジェンダー差別に対しての意識改革は進んでいますか？	女性	60歳代
沢山の若い方が興味を持つ事ができたら良いと思います	女性	60歳代
市川市は色々進んで取り組んでくれていると思う	女性	60歳代
力を入れるための現場を視察する事は仕事では無く人間として当たり前の行動であって欲しい。	女性	60歳代
男女共同参画に関する情報の発信をもっと行っていただければと思います。	女性	60歳代
直接かわらないのでよくわからないのが本音。もっと分かりやすい言葉か直接一回でも関われるチャンスがあればと思います。	女性	60歳代
市川市が男女共同参画のために活動されているのはよく知っていますが、もっと広報活動を色々な媒体で広範囲にしてアピールしてもいいと思います。 男女参画センターの存在すら知らない人も多いと思いますので。	女性	60歳代
40年前の働く女性は、まわりに結婚後主婦が多く、家庭内も地域内も学校内そして職場での環境は厳しいものでした。男女共同参画導入後、職場で管理者となり、ワークライフバランスを進めましたが、個々の理解を進めたり風土変化には時間が必要でした。市川市には継続した支援（どの世代にも）や研修をお願いします。	女性	60歳代

自由意見	性別	年代
今、女性でも市内で企業を考えている方が増えていると思う。でも一步を踏み出せない！と言う意見を特に年配者から聞く。何かをしたいけどしかた分からない人達への相談窓口の充実、機械物の苦手な人へのヘルプ体制がまだ足りない気がする。	女性	60歳代
今のままでいいと思います。	女性	60歳代
先ずは市役所内部から、能力ある職員を男女差別なく育て上げる	女性	60歳代
まだまだ女性自身の意識が昔と変わっていない気がします。男性に依存する意識が根強く残ってます。ぜひ市川市が率先して意識改革をして欲しいです。女性だから、男性だからではなく、個人の能力に応じて登用されるようになって欲しいです	女性	60歳代
審議会など市で行う事には男女共同参画になるようにすることが変えていく一歩になっていく。市川市役所の中でもその意識を持っていたほしい。地域も企業の中もまだまだ男女は平等ではない。市民としては平等に対応されることを常を感じられるように対応してほしい。	女性	60歳代
この質問設定は専業主婦の存在を考えていないと思う。	男性	60歳代
何をしたいが先にあり、次に行動するための障害があるのか？話し合いや条例で自由に参加出来るのか？ 入口のハードルが低い事が最高。	男性	60歳代
広報などなど、もっと生々しく周知徹底して欲しい。意気を感じるよう伝えて欲しい。	男性	60歳代
特に無いが、今回のアンケート結果を先ずは推進させるのが大事だと思う。	男性	60歳代
絶対に平等にはならない。限りなく平等に近づけるだけである。体の仕組みが違うのだから！また、少子化、人口減少の方が優先では無いのですか？公務員の定数も減らさないといけません。	男性	60歳代
情報発信を宜しくお願いしたいと思います。	男性	60歳代

自由意見	性別	年代
完全なる平等は100%ありえない。 義務があるから権利があるが、現代の風潮では権利の主張のみ主張し義務は果たさない者が多く、言った者勝ちが横行している。 道徳、法律など教育無くして実行するのが当然という個人意識の低下。相手を思いやる日本人の気持ちが腐敗した。 具体的には、事が起きてからの行政行動、予防の定なし。我が物顔の自転車ですが車両として教育していますか??それに伴う逆走、車両進入禁止自転車を除く表記の有無ほか道路交通法を教育していますか??イヤホン聴きながら走行などその場しのぎの中途半端な取り締まりで解消しません。権利を主張するなら義務納税教育人権を果たせ。その上で申し出る、と言いたい。行政も聞いているだけでなく、平等に双方意見に耳を傾けて対峙して欲しい。	男性	60歳代
「市民への定期-常統的な情報提供」と「学校教育現場での児童-生徒への断続的な教育」→【情報提供と教育】	男性	60歳代
あの～スマホで回答してますが文字が小さすぎて読めない（笑）	男性	60歳代
もう少し男女参画についての広報が必要だと思う	男性	60歳代
市川市には長く住んでいるが、男女参画センターの施設利用くらいしかない。もっと情報提供などの広報が必要。	男性	60歳代
ポリティカル・コレクトネスやフェミニズムを推進するNPOなどへの補助や公的援助は止めるべきと考えます	男性	60歳代
国全体で人口が減少する、少子化が進む中、合わせて、労働人口も減少していきます。 市民が明るくいきいき過ごすために、子育てがしやすい環境整備（含給付金）や女性の特性をいかした職場の拡大など、NPOと連携した誰も安心して過ごせる居場所など、全世代を対象とした幅広い対策がより一層加速的に求められていると思います。 男性向けの家事労働への参加を啓蒙するセミナー実施などもいいかと思います。AII市川での取り組みかと思います。	男性	60歳代
一般に活動が知られていないので、今回のようなアンケートのような取り組みで、露出を高めるのは良いことと思う。	男性	60歳代
子供世代への教育、啓蒙活動が重要。	男性	60歳代
市川市の男女共同参画推進の条例を現在の意味の男女共同参画の考えに沿ったものに改訂して欲しい。	女性	70歳以上
出産子育て中 今の産休のように 短期間では無くて 小学校卒業まで 休職を認める。 給与は無くても良い人で 元の会社に正社員として戻れる選択肢を作る。 夏休み等 長期間学校等が休みの間はテレワークを認める 正社員の枠を もう少し 柔軟に考えて広げたら良いと思う。	女性	70歳以上

自由意見	性別	年代
市川市は、他市と比べるとかなり進んでいると思うので、この体制を続けていただきたいと思う。	女性	70歳以上
今の働き方は時間制限のない、いつでも仕事ができる反面、土日に仕事をしなくてはならないシステムが可哀想に感じる 若い人が健康でいて欲しい	女性	70歳以上
市川市の広報（毎号）に子供から後期高齢者でも理解しやすいように記載してはどうか、と思う。 たまには、漫画ぽくしてはいかがでしょうか？	女性	70歳以上
施設の送迎を良くみますが、お迎えの親御さんも、皆さんそれなりの高齢者で、とても気の毒になります。 いつも、何とかならないものかと思わされます。	女性	70歳以上
自治会も参加する	女性	70歳以上
自治会も参加する	女性	70歳以上
退職した高齢者なので	女性	70歳以上
どの年代の人でも、気持ち良く生活できる町になると良いなと思っています。	女性	70歳以上
市、県、国、一般の会社等においても、管理職の女性比率が低いと思う。 女性が「男性並み」に働くことを求められるのではなく、女でも男でも家庭との両立がはかれるような抜本的な「働き方改革」？が必要。 男性の長時間労働は、主に女性が担う無償の家事労働等に支えられているということを社会全体で理解すべき。	女性	70歳以上
自分が、見、聞いた事実を速やかにかに通報出来るシステムを作ってほしい。 手遅れにならない様に !!	女性	70歳以上
男女共同参加のテーマに限らず、生活の問題点について、他市を見習って行く姿勢が必要と思います。 又、横の連絡連携が足りてないとジャンジャンます。	男性	70歳以上
市川市は男女共同参画に積極的に取り組まれていると思います。 市民の意識改革が必要ですね。	男性	70歳以上
次の提案をしたが送信が完了しなかったので違う意見になりますが宜しくお願ひします 南行徳から都営新宿線を利用するのに時間が掛かり乗り換えが不便です 南行徳駅から一之江駅迄のバス路線新設を切にお願い致します	男性	70歳以上
どんな問題も自分の問題として考えてみる勇気と度胸が必要と考えます。	男性	70歳以上
今回のアンケートも実施事項の一例かも知れませんが、やっている事のPRがもっと必要かと思ひます	男性	70歳以上
アメリカの民主党に感化された、差別意識を余り強調しないで、 日本の生活状況に合った意識を創る必要が有ると思う。	男性	70歳以上

自由意見	性別	年代
平等達成までは、男女の言葉を全て女男に訂正して、市民に意識改革を促す。 例えば、女男共同参画に名前を変更する。	男性	70歳以上
広報いちかわやホームページなどで特設コーナーを設けて常に活動を知らせる。NPOや企業、学校、医療期間と連携を密接、具体的にする。	男性	70歳以上
「広報いちかわ」をつぶさには読んでいませんが、紙面に男女共同参画に関するコーナーを設け、継続した啓発活動が必要だと思います。 そこには当然ながら、男女共同参画が市川市よりも進んでいる自治体の事例掲載も必要だと思います。	男性	70歳以上
活動状況のPRが足りない	男性	70歳以上
市川市が他より住みやすい所になるようお願いします。	男性	70歳以上

男女共同参画に関するアンケート

アンケート回答にあたってのお願い等

令和8年度の市川市男女共同参画基本計画・実施計画等の策定にあたり、市民の皆様の意識調査をおこなうものです

- 1 個人が特定されたり、ほかの目的で利用されることはありません
- 2 回答は、あてはまるチェックボックスを選択してください
- 3 「その他」を選んだ場合は、必要に応じて具体的な内容もご記入ください
- 4 この調査の結果は市川市公式ホームページ等で公表します

はじめに、あなたのことをお聞かせください。（令和6年7月1日現在）

Q2 あなたのお住まいについて

1	市川市	1,823
2	市川市以外（市内在学・在勤の方）	36
3	市川市以外（市内在学・在勤でない方）	18
	無回答（空白）	4
計		1,881

Q3 あなたの性別について

1	男性	681
2	女性	1,176
3	その他	1
4	回答しない	23
	無回答（空白）	0
計		1,881

Q4 あなたの年齢について

1	20歳未満	8
2	20歳代	93
3	30歳代	276
4	40歳代	431
5	50歳代	587
6	60歳代	341
7	70歳以上	145
	無回答（空白）	0
計		1,881

Q5 あなたの働き方等について

1	正社員、正職員	787
2	契約、派遣、嘱託の社員	149
3	パート、アルバイト	405
4	自営業、経営者、自由業（社長、商店主、開業医、起業家、フリーランスなど）	118

5	家事専従	215
6	学生	16
7	無職	180
8	その他	11
	無回答（空白）	0
	計	1,881

Q6 結婚について

1	結婚している（事実婚、パートナーシップを含む）	1,407
2	結婚していない（離婚や死別も含む）	474
	無回答（空白）	0
	計	1,881

Q7 中学生以下のお子さんはいらっしゃいますか（同居の子に限ります）。

1	いる	434
2	いない	1,447
	無回答（空白）	0
	計	1,881

◎ 男女共同参画（社会）について

Q8 次の言葉を知っていますか。

		ある程度 意味まで 知っている	聞いたこ とはある が意味ま で知らない	聞いたこ とがない	無回答 （空白）	計
(ア)	男女共同参画社会	1,094	604	170	13	1,881
(イ)	ジェンダー	1,607	243	18	13	1,881
(ウ)	ワーク・ライフ・バランス	1,325	393	147	16	1,881
(エ)	デートDV	833	525	499	24	1,881
(オ)	LGBTQ+	1,224	457	167	33	1,881

Q9 あなたは、以下の場面で男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画は進んでいると思いますか。

		そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらか と言えば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答 （空白）	計
(ア)	家庭の中で	480	682	444	211	52	12	1,881
(イ)	職場の中で	330	782	468	195	93	13	1,881
(ウ)	学校生活などの教育の場で	315	844	329	81	289	23	1,881
(エ)	自治会やPTAなどの地域活動 の場で	175	563	577	254	288	24	1,881

(オ) 政治の場で	88	408	712	579	76	18	1,881
(カ) 法律や制度の上で	199	592	641	339	87	23	1,881
(キ) 社会通念・慣習・しきたりで	92	394	717	579	74	25	1,881
(ク) 社会全体として	99	545	767	375	63	32	1,881

家庭生活男性の介護・育児・生活

◎ 生活における男女共同参画について

Q10 現在の家事などの担い手はだれですか。

	分担して協力	主に自分	主にパートナー	自分とパートナー以外	外部サービスを利用	その他・該当しない	無回答(空白)
(ア) 食事の支度・後片付け	500	669	213	8	0	5	486
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し	608	582	184	12	2	5	488
(ウ) 日常の買い物(食料品・日用品)	559	667	153	8	1	5	488
(エ) 子どもの身の回りの世話	296	459	133	4	1	451	537
(オ) 子どもの学校行事への参加	262	450	106	4	3	513	543
(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護	273	299	69	14	32	654	540

Q11 あなたは、次の(ア)～(カ)の日常的な役割について1週間のうち1日平均どのくらいの時間を費やしていますか。

	～30分	30分以上～1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上	該当なし、または0分	無回答(空白)
(ア) 食事の支度・後片付け	274	425	452	207	35	488
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し	441	538	301	74	33	494
(ウ) 日常の買い物(食料品・日用品)	319	644	313	89	26	490
(エ) 子どもの身の回りの世話	274	209	155	173	524	546
(オ) 子どもの学校行事への参加	359	183	98	41	647	553
(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護	268	138	77	59	797	542

Q12 家事などは、だれに担ってほしいですか(理想の担い手)。

	分担して協力	主に自分	主にパートナー	自分とパートナー以外の家族	外部サービスを利用	その他・該当しない	無回答(空白)
(ア) 食事の支度・後片付け	1,349	316	145	27	22	18	4
(イ) 洗濯・掃除・ゴミ出し	1,439	253	117	28	19	17	8

(ウ) 日常の買い物（食料品・日用品）	1,345	393	76	21	22	17	7
(エ) 子どもの身の回りの世話	1,080	143	69	12	13	506	58
(オ) 子どもの学校行事への参加	1,034	144	62	12	12	551	66
(カ) 高齢者や障がい者、病人等の介護・看護	949	116	36	14	164	546	56

Q13 男性の育児や介護にかかわる時間が少ないと言われていますが、その理由や原因について、あなたはどのように考えますか（複数選択可）。

1	職場の理解が得られないから	915
2	仕事の量が多い、責任が重いから	857
3	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	673
4	仕事を休むことによる経済的な損失が大きいから	909
5	今までの慣習や風習があるから	1,100
6	育児や介護への抵抗感が男性自身にあるから	570
7	育児や介護は女性の役割だと思うから	215
8	わからない	62
9	その他	54

Q14 子どもたちが「男女は平等であること」を理解するために、何が重要だと思いますか。

1	親世代（保護者等）が人権や男女共同参画等を理解していること	770
2	家庭内で「人は誰もが平等であること」を教育すること	602
3	幼稚園・保育園・学校等において人権教育を充実させること	367
4	自治会やPTAなど、地域の活動の場において人権の理解が進むこと	78
5	その他	64
	無回答（空白）	0
計		1,881

◎ 働くことにおける男女共同参画について

Q15 女性が働くことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

1	結婚や出産にかかわらず、働き続けた方が良い	1,229
2	結婚するまでは、働く方が良い	52
3	出産するまでは、働く方が良い	82
4	育児・介護等で仕事を辞め、可能になったら働く方が良い	335
5	その他	183
	無回答（空白）	0
計		1,881

Q16 あなたは、女性が離職せずに長く働き続けるために、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで選択可）。

1	賃金・昇給・昇進等の男女間の格差是正	744
2	育児・介護休業制度の充実	950
3	柔軟な勤務形態の導入（テレワーク、フレックスタイム制）	1,065
4	保育園・介護施設などの充実	732

5	女性の就労を支援するための相談や支援体制の充実	172
6	女性が働き続けることへの家族や周囲の理解・協力	579
7	女性自身の意識改革、意欲・能力の向上	186
8	男性の家事参加への理解・意識改革	502
9	わからない	31
10	その他	63

Q17 女性が働く上で男性との格差があると思いますか（複数選択可）。

1	賃金に差がある	926
2	昇進に差がある	940
3	能力を正當に評価されない	483
4	補助的な仕事しかやらせてもらえない	233
5	幹部社員・職員に登用されない	395
6	結婚・出産・介護等のために、勤め続けにくい雰囲気がある	933
7	定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	218
8	教育・研修などを受ける機会が少ない	106
9	格差は無い	163
10	わからない	122
11	その他	52

Q18 「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について、あなたの「現状」に当てはまるものを選択してください。

1	「仕事」優先	235
2	「家族」優先	538
3	「地域活動・趣味など」優先	79
4	「仕事」と「家族」優先	479
5	「仕事」と「地域活動・趣味など」優先	66
6	「家族」と「地域活動・趣味など」優先	185
7	すべてバランスよく生活できている	281
8	その他	18
	無回答（空白）	0
計		1,881

Q19 あなたの理想とする「仕事」、「家族」、「地域活動・趣味など」の優先度について、あてはまるものを選択してください。

1	「仕事」優先	41
2	「家族」優先	364
3	「地域活動・趣味など」優先	65
4	「仕事」と「家族」優先	287
5	「仕事」と「地域活動・趣味など」優先	34
6	「家族」と「地域活動・趣味など」優先	231

7	すべてバランスよく生活する	845
8	その他	14
	無回答（空白）	0
計		1,881

◎ L G B T Q +について

Q20 社会全体において、L G B T Q +に関する理解は進んでいると思いますか。

1	理解は進んでいる	123
2	多少理解は進んでいる	828
3	あまり理解は進んでいない	532
4	理解は進んでいない	136
5	わからない	252
6	その他	10
	無回答（空白）	0
計		1,881

Q21 L G B T Q +に関する正しい知識や理解の普及のために、どのようなことが必要だと思いますか（複数選択可）。

1	講座やセミナーなどの開催	406
2	パンフレットや冊子等の作成、配布	355
3	子どもたちへの周知、啓発	905
4	当事者とのコミュニケーションの場	511
5	SNSなどを活用した周知、啓発	457
6	その他	111

◎ D Vについて

ここでDVとは、配偶者（事実婚、パートナーシップを含む）や元配偶者、パートナーなどからの暴力をいいます。

Q22 あなたは、次のような行為がDVになり得ることを知っていますか。

	知っている	知らない	無回答（空白）	計
(ア) 殴る、蹴るなどの身体的暴力	1,851	26	4	1,881
(イ) 暴言を吐く、無視をする、怒鳴るなどの精神的暴力	1,835	40	6	1,881
(ウ) 生活費を渡さない、外で働くことを許さないなどの経済的暴力	1,772	94	15	1,881
(エ) 無理やり性行為を強要するなどの性的暴力	1,814	45	22	1,881
(オ) 友人や家族等との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなどの社会的暴力	1,681	175	25	1,881

Q23 あなたは、DVを受けた時、以下の機関で相談できることを知っていますか。

	知っている	知らない	無回答（空白）	計
1 警察の相談窓口	1,596	275	10	1,881

2	市役所の相談窓口（配偶者暴力相談支援センター）	1,297	557	27	1,881
3	千葉県の相談窓口	863	980	38	1,881
4	健康福祉センター（保健所）の相談窓口	762	1,077	42	1,881
5	民間支援団体などの相談窓口	1,081	744	56	1,881

Q24 あなたは、DV被害者への支援として何が必要だと思いますか。あなたの考えに近いと考えるものを選択してください（複数選択可）。

1	相談体制の充実と相談機関の紹介	1,069
2	緊急避難先の確保	1,439
3	自立のための情報提供や就業支援	921
4	カウンセリングの実施	782
5	医療機関、警察等との連携強化	1,060
6	その他	40

Q25 あなたは、DVの防止に向けて、どのような対策が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選択してください（複数選択可）。

1	広報や公式Webサイトなど行政機関による暴力の防止に向けた啓発	514
2	DVの早期に相談しやすい体制の充実	1,191
3	学校など教育の場でのDVに関する教育	981
4	家庭でのDVに関する教育	431
5	加害者に対する再発防止教育	856
6	法的な規制の強化	1,022
7	わからない	43
8	その他	27

◎ 市川市男女共同参画センターについて

Q26 今後、男女共同参画センターを強化または新たに実施すると良いと思う事業は何ですか。あなたの考えに最も近いものを選択してください（3つまで選択可）。

1	女性の就業・チャレンジ支援などに関する講座の充実	746
2	男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実	802
3	NPOやボランティア団体などへの活動の場の提供	280
4	子育てや介護などを担っている方への支援	1,011
5	女性からの相談体制の強化	394
6	男性からの相談体制の整備	180
7	DV被害者の支援	497
8	国や地方自治体から発信される情報の提供の強化	310
9	その他	47

◎ 市の施策や事業に関すること

Q27 男女共同参画社会を実現するため、今後、市は何に力を入れていくべきだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選択してください（3つまで選択可）。

1	市の審議会委員や民間企業などへの管理職に女性の登用推進啓発	369
2	子どもたちの「人は誰もが平等であること」を理解するための意識づくりや教育の推進	822
3	事業主等へのワーク・ライフ・バランスの推進啓発	588
4	DVや虐待などの防止に向けた啓発や相談体制の強化	434
5	男女共同参画センターの実施している事業（子どもの学習支援・情報提供・交流・相談など）の充実	354
6	市職員や教員等へのジェンダー平等意識の推進	231
7	特有の困難を抱える高齢者、障がい者、LGBTQ+、外国人などに対する支援の充実	247
8	医療や介護の施策の充実	521
9	家事・育児をサポートする施策の推進	485
10	保育園・放課後保育クラブなどの保育事業の充実	321
11	妊娠・出産を迎える両親のための支援（プレ親学級など）の充実	120
12	特になし	46
13	その他	33

Q28 その他、市川市の男女共同参画についてご意見がありましたら、ご記入ください。

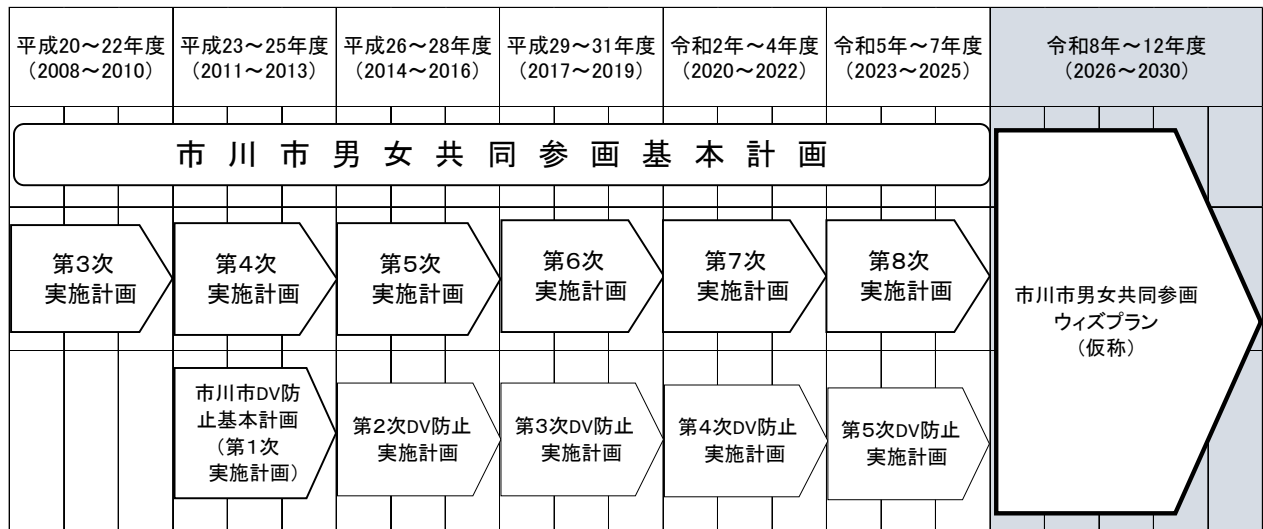
意見記入数	218
-------	-----

市川市男女共同参画に関する市民意識調査報告書
令和 6 年度（2024 年度）

市川市 総務部 ダイバーシティ推進課
市川市市川 1 丁目 24 番 2 号
電話 047-322-6700 FAX047-322-6888

次期市川市男女共同参画基本計画について

<現在の計画と今後>



<現在の計画の課題>

- 基本計画策定年度が長く、社会情勢の変化等に対応しにくい
 - ・内閣府、千葉県（～令和7年度、計画期間5年）
- 基本計画と実施計画に類似した内容がある
 - ・現行の基本計画も施策まで位置づけており、実施計画の内容を一部含んだものとなっている。

<次期計画の考え方>

	現行	次期
基本理念	条例に基づく	整理・見直し
主要課題	8項目	
個別課題	24項目	



次期計画

「市川市男女共同参画ウィズプラン（仮称）」

<見直し点>

1 計画期間 18年 → 5年

(理由)

- ・国や県の計画期間も5年であり、内容の連動を図りやすい。
- ・社会情勢の変化に柔軟に対応可能となる。

※県内の他自治体、庁内他課の計画も5年が多い

他自治体：千葉市、船橋市、松戸市、流山市

市川市の他計画：交通安全、食育推進、教育振興、自殺対策

2 実施計画（DV防止計画含む）との一体化

(理由)

- ・基本計画の期間を5年とした場合、実施計画を別に策定する意義がなくなるため。
- ・DV防止実施計画は、男女共同参画計画の一部であるため、男女共同参画基本計画と実施計画の一体化と併せて、DV防止実施計画も一体化させ、両実施計画の整合性を図るため。

※基本計画と実施計画を別々に作成するメリットは、基本計画の期間中に実施計画を更新することができる点である。

このメリットを活かすためには、実施計画の計画期間3年×2本＝6年以上で3の倍数の計画期間を必要とするが、そうした場合、5年で得られるメリットを失うことになる。

